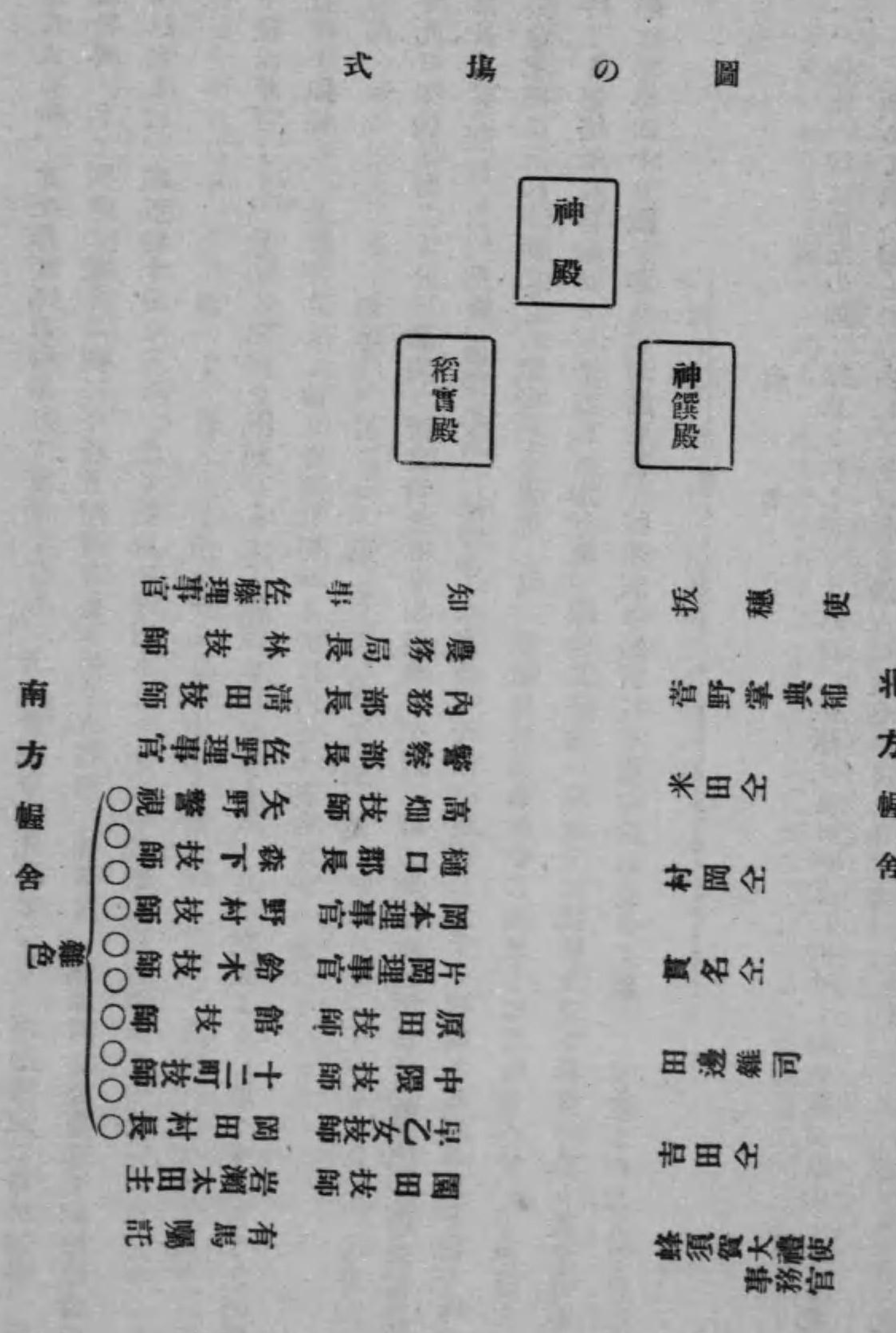

二、抜穂の儀式

抜穂式とは勅使抜穂の事を知事に命じ知事は之を太田主に命ず而して太田主は雜色十名を使用して抜穂を行ふものなり、

三、抜穂の形式及び數量、

抜穂は稲穂の處にて長さ約一尺二寸鎌にて切り取り周り一尺の束を四束作るものとす、

第參編　新穀供納

第壹節　新穀供納の分量及び容器の調製

大嘗祭に供納すべき新穀は白米壹石にして、之を五個の麻袋に容れ更に唐櫃に納めて獻納せり、唐櫃は縣立工藝學校の謹製せしものにして、今左に其の謹製の狀況を記さん、

唐櫃製作、命令の工藝學校に達せるは八月廿六日の事にして、同校にては之を光榮とし、直ちに翌廿七日、小池囑託を大阪に遣はし、九月早々製作に着手せり。然るに恰も好し來縣中なる拔穗使隨員菅野掌典補は之等容器の監督官なるを以て、同氏に承合せるに宮內省より拔穗式祭典に使用する祭具を入れ來れるものあり、就いて見るべしとの事なりしかば、木工科主任敎諭竹內友吉は直ちに山田村に到り、右容器を親しく寫して歸校し、大体の圖案を作製せり、十六日、同校に於て、祓式を行ひ、十七日着工せり、其の關係職員操業者は左の諸氏なり、

木工科　竹內、揚箸両敎諭、小池囑託、富家助手、四年生池田琢磨、三年生笠井清一、

金工科　細川敎諭、上原助手、四年生但島宗平、泉川喜六、

製圖科　小川敎諭、十二町香川縣技師、

而して、十七日よりは毎日午前八時始業午後六時終業し、其の間何れも謹愼に從業せしが、十月に入りては操業者の重なるものは毎夜午後十時過ぎ迄夜業をなせり、斯くて十三日愈々完成し、十四日縣廳へ納付し正廳に於て知事檢分の上、受領せられたり、

第貳節　新穀の獻納

第一項　係員の出張

十月十五日、供納米獻納の準備の爲樋口郡長は旭、森田、大浦、松浦、矢野、鎌田、高木の各郡書記、山西郡吏員を隨へ山田村に出張したり、

第二項　奉送祭

山田村小學校運動塲東端に、東南北の三方に幕を張り、西向に祭壇を設け、唐櫃に納めたる供納米を安置して、綾歌郡神職會の主催にて、奉送祭を執行したり、式は十六日午前六時三十分に始まりて同七時に終り、之れより直ちに奉送の途に着けり、

第三項　山田村高松間に於ける奉送行列の順序

第一、樂　隊、　第二、瀧宮分署長、　第三、神　職、
第四、山田村長、　第五、郡　長、　第六、供納米唐櫃五ヶ　担夫二十名、
第七、太田主、　第八、耕作從事者、　第九、郡農會長、
第一〇、郡內縣會議員、　第一一、郡會議員、　第一二、郡立實業學校長、
第一三、產牛組合長、　叺同業組合長、　在鄕軍人分會聯合會長、　衞生組合聯合會長、
第一四、町　村　長、　第一五、町村農會長、　第一六、小學校長、
第一七、在鄕軍人分會長、　第一八、青年會長、　第一九、衞生組合長、
第二〇、樂　隊、　第二一、山田村民並に山田小學校生徒、

第四項　山田村高松間に於ける奉送途中の光景

十六日午前七時、山田村を發せる人員約一千五百人は蜒々として拾數町に亘り、列の兩側には消防組警護して陶、川岡を經て、高松に向つて進行せり、途中陶小學校、川岡村奈良須池畔、圓座村小學校等にて休憩。沿道には各戸國旗を掲揚し村吏、在鄉軍人、青年會員、學校生徒、有志者等奉送せり、當日綾歌郡内一圓は國旗を戸毎に掲揚して奉送の誠意を表したり、

斯くて一行は零時三十分、縣廳前に到着せり、縣廳にては、高等官並びに委員等、門内にて之を迎へ、唐櫃は白丁擔ひたる儘正廳に豫て用意したる按上に安置し、岩瀬奉仕者、耕作從事者、白丁担夫、神官、郡長、村長、其の他約百名整列せり、若林知事は前方に立ち、担夫二人唐櫃を覆へる白布を解き、奉仕者鑰を以て靜かにこれを開き知事の檢分ありて原狀に復し、此の間約四十分を要せり、知事は岩瀬氏に對し、苦心誠意の結果、其の責任を完ふせるを賞し、更に耕作從事者の勤勞を謝せり、夫れより縣廳西庭にて一般奉送者に知事及び郡長より各一塲の挨拶ありて一先休憩せり、

第五項　担夫の心得

一、担夫は身長順序により四人を一伍とし右翼より番号を付す、
一、各伍に伍長一名を置く、
一、交代時間約三十分とす、
一、交代休憩、担換等一齊に注意を要するときは小笛を用ふ、
一、行列中漫りに定められたる位置を離るべからず、但し止を得ざる塲合は伍長に屆出づること、
一、休憩中と雖も担夫の一人は唐櫃の所在を離る可らず、
一、行列中は伍間に約二歩の距離を保持すること、
一、行列中は靜肅にし談話及び喫煙を爲す可らず、
一、唐櫃を下に置くときは荒菰を敷き一應担棒を腕にて持換へたる後行ふものとす、
一、伍長は担夫に關する一切の世話をなし及び命令の傳達を爲す、
一、伍長は縣主任屬の命令に服すべし、
一、行列中は旅行用の服、帽子、下駄等を風呂敷包とし名刺を付し他に托し附隨せしむること、
一、担夫は皈途縣勸業課に立寄り白丁を返納すること、
　　但し被服費の全額を支辨したるものは之の限りにあらず、
一、担夫は紋付羽織及び袴を携帶する事、

第六項　担夫の氏名

第一組

伍長、	綾歌郡枌所村（村書記）	南防仁三郎
仝	郡山田村（耕作從事者）	岩鍋八郎
仝	上	辻靜
	小豆郡池田村（農事精勵者）	森川忠四郎

第二組
伍長、仲多度郡善通寺町（在鄕軍人模範青年）　山下長太
木田郡林村（青年支會長）　井口清三郎
綾歌郡山田村（耕作從事者）　山地貫一
仝　郡府中村（模範青年）　上原恒信

第三組
伍長、大川郡富田村（特務曹長農事精勵者）　大谷虎吉
三豊郡笠田村（軍人會長）　馬淵直壽
仲多度郡善通寺町（農事精勵者青年會幹事）　石谷安治
香川郡弦打村（農事精勵者）　橋本好太郎

第四組
伍長、木田郡十河村（技術員）　溝淵安德
三豊郡柞田村（模範青年）　西川定時
香川郡一ノ宮村（模範青年青年會幹事）　渡邊龜太郎
綾歌郡山田村（耕作從事者）　山下政吉

第五組
伍長、仝上　川西積
仝上　岩瀬勘平
仝上　高橋久太
仝上　桑島虎八

第七項　香川縣廳高松港間に於ける行列

午後三時三十分、左の行列順序にて縣廳を發し、高松港に向ひ、午後四時連絡船兒島丸に移乘せり、其の行列左の如し、

警察官、表示札、奉仕者、担夫唐櫃担夫（豫備員／豫備員）同（仝／仝）同（仝／仝）同（仝／仝）同（仝／仝）（札持となる）知事、內務部長、警察部長、勸業課長、綾歌郡長、農事試驗場長、山田村長、縣郡委員、其の他關係者、警察官、

備考　前後の距離約二歩とす、

船車に施せし注連繩は齋田生產藁を以て作製し、山田村より持參したるものなり、

第八項　奉送者氏名

香川縣知事　若林賚藏
勸業課長理事官　岡本佃
綾歌郡長　樋口德太郎
縣立農事試驗場長技師　園田三次郎
山田村長　岡田榮
齋田所有者　岩瀬辰三郎
香川縣屬　織田又市
香川縣技手　岩田冠
綾歌郡農業技手　樗木龜次郎

香川縣農業技手　黒川唯一
香川縣屬　林茂
瀧宮分署長警部　小野坂忍三郎
縣立農事試驗場技手　平野秀勝
綾歌郡書記　大浦新次郎
仝　高木喜八郎
綾歌郡農業技手　三浦竹一
巡査部長　河村治祐
巡查　柴坂茂平
耕作從事者　川崎末次郎
仝　桑島繁
仝　伊賀富三郎
仝　岩瀬梅太郎
仝　蓮井義夫
仝　末澤清

第九項　京都着

十六日午後四時三十分、高松港發、仝五時四十分宇野驛に着、茲には神戸西部鐵道管理局に於て新調したるボギー車二輛は既に一行を待てり、車輛の窓上には注連繩を施し、前車輛を二分して、前方には白幕を廻らして唐櫃五個、納めたる供納米を載せ、後方には白丁担夫二十名と巡査二名同車して警護し、後車には若林知事、綾歌郡長、園田技師、齋田所有者、山田村長、其の他一行同乘し、午後五時五十分發同六時五十分岡山驛着、十七日午前零時二十八分、同驛を發して京都に向ふ、岡山縣より結城警務課長は宇野驛に之を迎へ、發車までに野田警部補以下六名をして警護の任に當らしめたり、斯くて十七日午前六時四十八分京都驛に到着したり、

第十項　供納米の上納

唐櫃は一先京都驛上りプラットフォームに設けたる机上に移安し、少憩の後、左記の行列にて京都驛を發し、賑々しく烏丸通りを順路御所に至り、臺所門内にて一同朝食を喫したり、

行列順序

警察官、表示札、齋田所有者（担夫唐櫃担夫）豫備員（同）仝（同）仝（同）仝（同）仝（札持となる）知事、勸業課長、綾歌郡長、農事試驗場長、山田村長、縣郡委員其の他關係者、警察官、

備考　前後の距離約二歩とす、

第三節　供納式

十七日、午前九時より供納式を擧行せり、今其の大要を記さん、市來宮内書記官、宮地掌典は順次式場に參進すれば主基地方長官若林知事は太田主岩瀬辰三郎を牽ひて參進し、供納米を納め五個の唐櫃を中央簀薦の上に据へ、太田主は鞠躬如として唐櫃の蓋を開き、若林知事は其

の傍に侍立すれば、市來書記官、徐々進んで新穀を撿め、次ぎに宮地掌典恭しく唐櫃の前に進み神木の枝を執つて之れを祓ひ、掌典補二名をして唐櫃を齋庫に納めしむ、各員退下、無事式を終れり、

第四編 技術部

第壹節 準備

第一項 作業行事豫定（大正四年三月十九日決定）

一、四月十二日 氣象觀測開始
一、四月十三日 塩水撰、浸種、耕作人夫の撰定及役割
一、四月十五日 齋田に潔齋所竹柵注連繩張及標柱建設完成
一、四月十六日 齋田拔式苗代整地に着手、農商務係官來村
一、四月二十一日（己の日） 播種
一、四月二十三日 芽乾
一、四月二十八日 苗代に木灰を施す
一、四月三十日 苗代生育調査、作況報告、苗代除草、畦畔除草
一、五月一日 本田用堆肥製造
一、五月十日 苗代除草、畦畔除草、生育調査、作況報告
一、五月十八日 仝十九日 本田整地に着手、木灰施與、苗代注油驅除
一、五月二十日 堆肥を施し鋤返し
一、五月二十日 生育調査、作況報告、苗代除草
一、五月二十三日 灌漑畦塗

一、五月二十五日　齋竹注連繩取替
一、五月二十六日　本田の周圍に誘蛾燈点火を開始す以後七月五日まで継續す（初期に豫察に供す）
一、五月二十七日（卯の日）五月二十八日（辰の日）　田植式、代搔、施肥、苗選別、挿秧、農務局長農商務技師來村
一、五月三十一日　生育調査、本田作況報告、本田一回除草
一、六月三日　本田第一回除草
一、六月十日　本田二回除草、生育調査、作況報告、螟蟲採卵開始、以後七月五日までに隔日に之を行ふ
一、六月十五日　齋竹注連張取替
一、六月十七日　本田三回除草
一、六月二十日　生育調査、本田作況報告
一、六月二十三日　本田四回除草
一、六月三十日　生育調査、本田作況報告、灌水
一、七月一日　本田第五回除草（排水）畦畔除草
一、七月三日　灌水
一、七月十日　生育調査、本田作況報告、心枯莖拔取、以後七月三十日まで五日毎に行ふ
一、七月十五日　齋竹注連繩取替
一、七月二十日　生育調査、本田作況報告、注油驅除

一、七月三十一日　生育調査、本田作況報告、畦畔除草
一、八月五日　注油驅除
一、八月十日　生育調査、本田作況報告
一、八月十五日　齋竹注連繩取替
一、八月十九日　出穗始
一、八月二十二日　出穗揃
一、八月二十五日　雜穗及被害莖拔取、注油驅除、畦畔除草、以後毎日害鳥驅除
一、八月三十日　生育調査、本田作況報告
一、九月五日　被害莖拔取
一、九月十五日　被害莖拔取、忌竹注連繩取替
一、九月十七日　畦畔除草、掃除、拔穗式準備
一、九月十八日　拔穗式
一、九月十九日　稻架を造る、畦側の稻收穫
一、九月二十日　供納玄米用稻穗拔取（四斗分）
一、九月二十四日　收穫
一、自九月二十五日至九月二十九日　架干
一、九月三十日　稻扱き籾干燥臺を造る

一、自十月一日至十月九日　籾乾燥
一、十月十日　籾摺
一、十月十一日　精白
一、十月十二日　精白布磨
一、十月十三日　精白布磨粒撰
一、十月十四日　粒撰
一、十月十五日　粒撰再布磨、氣象觀測終了
一、十月十六日　縣廳へ到着、京都へ發送
一、十月十八日　京都到着

第二項　耕作上に關する協定　（大正四年三月二十四日決定）

一、四月十日迄に農事試驗場に於て稻種子の粒選及風選をなし奉仕者に送附すること、
一、四月五日頃迄に齋田全部を耕起し且苗代田三畝歩を區劃し畦畔を造り置くこと、
一、肥料（鰊粕、硫酸アンモニア、菜種粕、石灰窒素、米糠、過燐酸石灰）は試驗場に於て購入を斡旋し成分分拆をなしたる上米糠、鰊粕は四月九日迄に、其の他の苗代肥料は四月十六日迄本田肥料は五月二十日迄に奉仕者に送附すること、木灰は四月七日迄に奉仕者より試驗場に送附し試驗場にて成分分拆をなすこと、堆肥は五月十五日迄に奉仕者より試驗場に送附し試驗場に於て成分分拆をなすこと、肥料の購入に就ては販賣者の身元調査をなすこと、齋田隣接田（凡五反步）には齋田の植付と同時期に植付けをなすこと、苗は一反步分は齋田の餘苗を用ひ殘餘は齋田隣接地共同苗代田に於て特に之れを仕立つること、
一、農具及消耗品は苗代用本田用收穫調製用の三種に區分し田植前に夫々修祓せしむること、
一、耕作從事者は四月下旬耕作上の心得に關し約二日間の講習をなすこと、
一、粒撰の方法に就ては收穫期前學校生徒に對しては學校に於て技術員出張の上練習をなさしめ青年會に對しては各青年會外二名の代表者のみを招集し練習をなすこと、
一、精穀機の据付は九月中旬までに終了の上精白試驗をなすこと、

第三項　主基齋田耕作設計書　（大正四年三月十一日決定）

種子

一、選種　種子は再三唐箕に掛け風選を行ひ特徴の異なりたるもの粒形小にして不正なるものを除く爲め粒選を行ひ更に撼水選をなす、
二、浸種　種子は一反步に付き三升の割となし四月十三日桶浸となし溫度の變化なき場所に置き毎日水を交換す、

苗代

一、苗代整地　苗代は四月十七日土塊を碎き發芽の障害となるべきものは之を除き更に鋤き返して細碎し豫て準備せる腐熟水肥を施し水を灌漑して畔塗準備をなし翌十八日畔塗り、代掻き、ムクチ入れ又代掻きをなし大体幅四尺の短冊形に仕切り置き翌十九日丁重なる短冊形に仕上げ當日直に葭簀を苗代の周圍

に繞らし害蟲の浸入を防ぐものとす、

二、播種期　四月二十日とす、

三、播種量　一坪に付二合播となし下種後鏝を以て輕く種子を壓し適度に土中に埋め込み後ち水を灌漑す、

四、苗代管理　播種後四、五日を經て萠芽するに至れば晴天を見計ひ苐乾をなし夕方又灌水す而して下種後約十日間を經て雜草の發生を豫防する爲め籾殼灰を土面の見ねざる程度に施し苗の二、三寸に成長するに至れば全く水を排除し爾後湛水することなく乾燥度に過ぐるに至れば時々適宜の水を灌漑して濕氣を與へ苗をして强健に育成す、

五、苗代害蟲驅除　苗代の周圍には菝葜を繞らし害蟲の浸入を防除し浮塵子發生の場合は一反歩に付石油一升乃至一升五合の割を以つて注ぎ驅除を行ふ、

六、苗代肥料　肥料は元肥のみに止め可成追肥を施さす其の種類及び用量左の如し、

肥料名	一反歩用量	窒素	燐酸	加里
米糠	二八、一二五貫	〇、四五〇貫	〇、三三七貫	〇、三一八貫
鰊粕	五、〇〇〇	〇、四五〇	〇、一五八	〇、〇四〇
硫酸アンモニヤ	一、五〇〇	〇、三〇〇	—	—
木灰	四、九一四	—	—	〇、三四四
精過燐酸	三、五二五	—	〇、七〇五	—
計	—	一、二〇〇	一、二〇〇	〇、七〇〇

備考

加里成分の割合少なきも雜草豫防のため多量の籾殼灰を施すを以て之れが補給充分なるべし尚三成分用量は左表によりて之が計算せり

肥料名	窒素	燐酸	加里
米糠	一、六〇〇%	一、二〇〇%	一、一三〇%
鰊粕	九、〇〇〇	三、一六〇	〇、八〇〇
硫酸アンモニヤ	二〇、〇〇〇	—	—
木灰	—	—	七、〇〇〇
精過燐酸	—	二〇、〇〇〇	—

施肥法

米糠鰊粕は四月十日豫て準備せる容器に適宜の水と混和醱酵せしめ水肥となして之れに硫酸アンモニヤを混合し整地の際施し精過燐酸は水肥施與後直に散布す又木灰は下種後約十日間の後籾殼と混合して同時に施すものとす、

除草

播種後移植までの間に於て時期を見計ひ三回之を行ふものとす、

本　田

一、整　地

五月中旬馬耙にて搔き土塊を碎き更に耡き返して水を灌漑し畔を塗り代搔きムクチ入れ又代搔きをなし土地の高低を能く均らして肥料を施し挿秧す、其の作業豫定左の如し、

五月十八日　馬耙にて碎塊す（此時木灰石灰窒素の全量を悉施す）
五月十九日　右に仝じ
五月二十日　耡き返をなす（此の時堆肥の全量を悉施す）
五月二十一日　右に仝じ
五月二十二日　右に仝じ
五月二十三日　水を灌漑し代搔き畔塗準備をなす
五月二十四日　代搔きムクチ入れ畔塗仕上げをなす
五月二十五日　灌水代搔き畦塗準備をなす
五月二十六日　代搔きムクチ入れ畦塗仕立上をなす
五月二十七日　灌水不十分なる處に灌水午前十時より代搔き施肥（大豆粕硫酸アンモニア油粕精過燐酸）

二、挿　秧

植付は五月二十七日田植式、當日午前二時より、田植準備に着手す、苗は特に生育良好にして强健なるものを選拔し、定木を以つて一歩に付き四十八株、一株四本宛とし、東西一尺南北七寸五分距離に挿秧するものとす、

三、除　草

植付後七日目毎に之を行ひ、最初一回は手取となし、爾後二回は除草器を用ひ、次は又手取となし、最後の一回は水を落して手取となし、爾後灌漑を中止して中乾をなす、其の期間は五日間乃至七日間位とす、

四、肥　料

肥料は元肥のみとなし、植付の際全部施與す、其の種類及用量左の如し、

肥料名	一反步用量	窒素	燐酸	加里
堆肥	一〇〇、〇〇〇貫	〇、二〇〇貫	｜	｜
石灰窒素	一、五〇〇	〇、二三五		
大豆粕	五、〇〇〇	〇、三五〇	〇、二一〇貫	〇、一一八貫
菜種油粕	五、〇〇〇	〇、二一五	〇、〇四三	〇、〇七〇
硫酸アンモニヤ	一、五〇〇	〇、三〇〇	｜	｜
精過燐酸	七、一八〇	｜	一、四三六	｜
木灰	一八、七四三	｜	｜	一、三一二
計		一、三〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇

備考

三成分量は左表によりて計算せり

肥料名	窒素	燐酸	加里
堆肥	〇、一九〇%	—	—
大豆粕	七、九七〇	一、六三〇	二、三六〇
菜種粕	五、〇〇〇	二、三五〇	一、四一〇
硫酸アンモニヤ	二〇、〇五〇	—	—
精過燐酸	—	二〇、六四〇	—
木灰	—	—	—
石灰窒素	二〇、三八〇	—	七、〇〇〇

五、施肥法

石灰窒素及び木灰は同時に五月十七日碎塊の際に施し、堆肥は五月十九日撒布して耡き込みとなし、大豆粕、菜種油粕、硫酸アンモニヤ、精過燐酸は之れを混合して全く整地の終りたる後之れを一樣に撒布す、

六、灌漑

灌漑水は常に淺水(約二寸位)を主とするも、植付當時活着する迄は稍々深水(三寸位)とす、出穗後穗の垂下する頃よりは全く排除し、爾後土地乾燥の程度を見計ひ適宜の水を灌漑す、

七、害蟲鳥驅除

五月二十六日より七月五日まで、誘蛾燈を本田の周圍接田に拾個を点火し、六月十日頃より七月上旬迄隔日に螟蛾の採卵を行ひ、浮塵子發生の場合は一反步に付石油一升五合乃至二升五合を注ぎ驅除を行ふ、七月中旬よりは五日毎に心枯莖を、出穗後は十日毎に被害莖の拔除に努め、尙出穗後約三十五日間は毎日竹製の鳥追を以つて害鳥の驅逐をなす。

八、雜草の拔取

出穗當時五日間乃至七日間は雜穗の拔取をなし、且稗類の雜草を除くものとす。

收穫、調製

一、稻刈取　九月廿四日頃熟度を精査し、適當の時期に於て晴天を見計ひ、一日間に刈取るものとす、但し生育不良と認むる部分は收穫前に刈取るものとす、

二、稻架　稻架は短架式を用ひ、二間毎に三ッ叉を設け之れに竹を渡し、壹間毎に二本の支柱を設け壹反步に付約六十間として、總計二百十間を準備するものとす、

三、稻乾燥　稻刈後直に六株位を一握りとし、三握りを一把となし、藁を以て丁寧に束ねたるものを稻架に掛け、約五日間(雨天二日見込)乾燥す、

四、稻扱　稻扱は適當なる木箱を造り、稻扱を裝置し、扱き、落したる籾は收納舍に收藏す、

五、籾乾燥　籾乾燥臺を作り乾燥す、其の臺は一間に付長三尺位の杭六本を打ち込み、之に厚さ六分、幅一寸、長さ六尺の板を打ち付け、上方の中央部に前同樣の板を渡し竹簀を布き棚となし、蓆一枚に付

一斗の籾を入れ、午前九時より午後四時迄乾燥す、其の間に於て乾燥の程度を一樣ならしむる爲三回位攪拌す、但し光熱の强き日には正午より午后二時まで蓆を疊み急激の乾燥を防ぐものとす、

六、調　製　籾の乾燥終らば籾篩を行ひ、常法の如く籾摺をなし、米穀選別機によりて屑粹米を除くものとす。

精白其他

一、精　白　一番摺の玄米は淸水式及敷島式精穀機に約二十回掛け、更に村上連座精穀機に掛け、十五時間臼搗き、三時間毎に一回除糠を行ふ、

二、布　磨　臼搗を終りたる精米は、白木綿にて製せる長さ四尺の袋に精米五合を入れ、粒選塲の一部に竹柱を建て、横竹を結縛し横竹より藁繩を吊し、之に長さ六尺の竹を地上約三尺の所に結付けたるブランコ体の磨擦器九組を作り、一組二十二袋を結び付け、二人相對して前后に振動磨擦す、其の時間は約七時間とす、

三、粒　選　布磨きを終りたるものは粒選塲に高さ一尺、幅四尺、長さ一間每に約二寸角の杭を建て、之れに厚さ八分位の板を架し、釘を以て固定して長さ六間とし、臺と臺との間を五尺とし二人相對して粒選をなすべきもの七臺を作り、其の上に白布を敷き、黑盆の上にて胴割米、腹白米、碎、石、不正米、其の他の雜物を竹箆にて除き、更に之れを絹袋二個に五合宛入れ、前記同樣の方法にて再磨擦を行ふ、其の時間は約二時間とす、

四、精選米　再磨擦を終りたる粒選米は獻納米壹石、豫備貳斗、合計壹石貳斗にして白米箱四個に收めて保管す、但し雨天打續き作業進捗せざる塲合は豫備米は準備せず、

稲成熟後の作業日割左の如し、

第四項　乾燥調製日割明細表　（大正四年八月廿八日決定）

九月十九日	畦側の稲收穫、稲架の組立	
九月二十日	收穫	午前中に刈伏、午后四時より架を始め同十二時迄に全部終了
九月二十三日	生育不良の稲收穫	
九月二十四日	收穫	午前中に刈伏、午後四時より架干を始め同七時迄に全部終了
自九月二十五日 至九月二十九日	架干	籾乾燥臺の組立
九月二十六日	稲扱	扱落したる籾は即日收納舍に納む
自九月三十日 至十月一日	稲扱	扱落したる籾は即日收納舍に收む
自十月二日 至十月九日	籾乾	（籾量約十四石）十月三日に乾燥を終り二日間收納舍内に貯藏し籾摺の塲合に於ける胴割を防ぐ
十月十日	籾摺	壹番摺（玄米約五石六斗）を十分選別して精白塲に運搬す
自十月十日 至十月十二日	精白	壹回分八斗とし之れを七回に精白すること左の如し

	敷島精穀器	村上四連座精穀機
第一回	自十月十日午后一時 至同　同　同五時	自十月十日午后六時 至同十一日午前九時
第二回	自十月十日午后六時 至同　同　同十時	自十月十一日午后六時 至同十一日同二時
第三回	自十月十日午后十一時 至同十一日午前三時	自十月十日午前十時 至同十一日同一時
第四回	自十月十一日午前四時 至同　同　同八時	自十月十一日午后三時 至同十二日午前六時
第五回	自十月十一日午前九時 至同　同　午后一時	自十月十一日午前二時 至同　同　午后五時
第六回	自十月十一日午后二時 至同　同　同六時	自十月十二日午前八時 至同　同　午后十時
第七回	自十月十二日午后一時 至同　同　同五時	自十月十二日午后六時 至同十三日午前三時

自十月十一日
至十月十三日

布磨　精白總量四石八斗（約一割五歩減）を布磨をすること左の如し

十月十一日
自正午
至午后四時
第壹回精穀分七斗を七十人にて貳回に行ふ（壹回一人五台宛とす）

十月十二日
自午前八時
至午后五時
第貳、第參回精穀分一石四斗を九十四人にて四回

十月十三日
自午前八時
至午后六時
第四、五、六、七回の精穀分二石七斗を百八十人にて參回

總計三百四十四人

自十月十二日
至十月十四日

粒選

十月十二日
自午前九時
至午后五時
一人一合宛百七十五人にて一斗七升五合選出（第壹回分）

十月十三日
自午前九時
至午后五時
一人一合宛三百五十人にて三斗五升選出（第貳、參回分）

十月十四日
自午前九時
至午后五時
一人一合宛六百七十五人にて六斗七升五合選出（第四、五、六、七回分）

總計千二百人

十月十五日

午前再布磨午后納櫃、氣象觀測終了

十月十六日	發送　縣廳へ到着、京都へ發送
十月十八日	京都到着

第五項　雨天の塲合に於ける收穫乾燥調製日割明細表

一、九月二十日　收穫以後十月五日まで雨天の見込、
一、十月六日　稻扱き、
一、自十月七日至十月九日　籾火力乾燥、（半量六石五斗以下皆半量を調製の豫定）
一、十月十日　籾摺り、
一、十月十一日　精白、午后より總量二石四斗を精白すること左の如し、（壹回分玄米八斗）

	敷島精米機	村上四連座精米機
第一回	十月十日正午より午后四時まで	十月十日午后五時より十一日午前八時まで
第二回	十月十日午后五時より同九時まで	十月十日午后十時より十一日午后一時まで
第三回	十月十日午后十時より十一日午前二時まで	十月十一日午前九時より午后十二時まで

一、十月十一日　布磨、午前十一時より午后四時まで七十人にて二回七斗布磨、
一、十月十二日　布磨、午前二時より同六時まで百四十人にて二回一石四斗布磨、
一、十月十二日　粒選、午前八時より午后五時まで千五十人にて一石五升粒選、

一、十月十二日　再布磨、午后六時より同九時に至る、
一、十月十三日　午前納櫃、正午山田發午后五時縣廳着同九時半發送、
一、十月十四日　午前六時半京都着、

第六項　記載例

農場日誌記載例

月日　何月何日、
天候　晴天、曇天、雨天、風力、風向等、寒暑の模樣を詳記す、
作業　男何人、女何人、何々の作業をなす、
摘要　生育の狀況、風水旱害、病蟲害の發生等著しき事項を其の都度詳記す、

作況報告例　其一

作況報告　（苗代期）

一、播種期　何月何日、
一、發芽期　何月何日、
一、發芽整否　甚不整、不整、稍不整、中、稍整、整、甚整、（目測による）
一、苗の剛柔　甚剛、剛、稍剛、柔、稍柔、甚柔、（觸感による）
一、苗の細太　甚細、細、稍細、中、稍太、太、甚太、（目測による）
一、草丈　寸、分、厘、（中庸の生育のもの三十本平均）

一、色　合　　黄緑、淡緑、緑、濃緑、

　摘　要

作況報告例　其二

作況報告　（生育期）

一、草　丈　　三十株平均、（地上より葉先までを測る）

一、莖稈の細太　　甚細、細、稍細、中、稍太、甚太、（目測による）

一、葉　色　　黄緑、淡緑、緑、濃緑、（目測による）

一、葉　幅　　分、厘、

一、葉　長　　尺、寸、分、厘、

一、一株莖數　　三十株平均、

一、病蟲害の多少

　摘　要

作況報告例　其三

作況報告　（成熟期（出穗以後））

一、稈　長　　三十株平均、（地上より穗首まで）

一、一株莖數　　三十株平均、

一、稈の細太　　甚細、細、稍細、中、稍太、太、甚太、（目測による）

一、葉　幅　　分、厘、

一、葉　長　　尺、分、厘、

一、出穗｛出穗始　　出穗の始めを記す、
　　　　出穗期　　全体三分の一出穗の時を記す、
　　　　出穗揃　　全く穗揃のときを記す、

一、倒伏の難易

一、病蟲害の多少

一、成熟期　　稈黄色を呈し穗も亦黄變せるとき、

　摘　要

作況報告例　其四

作況報告　（收穫當時）

一、稈　長　　三十株平均、

一、一株莖數　　三十株平均、

一、稈の細太　　甚細、細、稍細、中、稍太、太、甚太、（目測による）

一、稃先の色｛未熟　成熟

一、護頴の色｛未熟　成熟

一、籾の色｛未熟　成熟

一、倒伏の難易

一、病蟲害の多少

一、穗　長

一、一穗の粒數

一、一株穗の重量　三十株平均、

一、籾毛茸の粗密

一、籾 長・幅・形狀

一、籾千粒の重量

摘要

收量調査報告例

收量調査報告

一、籾の收量

一、粃の收量

一、藁の收量

一、完全米の收量

一、屑米の收量

一、碎米の收量

一、籾一升の重量　（十回秤量最多最少を除き八回平均）

一、玄米一升の重量　（十回秤量最多最少を除き八回平均）

一、玄米千粒の重量

一、腹白の多少

一、玄米の色

一、玄米 長・幅・形狀

摘要

精白調査報告例

精白調査報告

一、玄米收量

一、精白米收量

一、糠の收量

一、精白米一升の重量　（十回秤量最多最少を除き八回平均）

一、精白米千粒の重量

一、精穀時間

布磨及び粒選調査報告例

布磨及び粒選調査報告

一、布磨時間｛木綿磨／絹布磨

一、布磨一回の容量｛木綿磨／絹布磨

一、布磨總數量

一、布磨總人員

一、精白米一升に對する粒選時間

一、精白米一升に對する屑、碎米數量

一、精白米一升に對する胴割米數量

一、完全粒選米千粒の重量

一、完全粒選米一升の重量

摘要

注意　報告例其の一は播種後十日目(四月二十九日豫定)二十日目(五月十日豫定)三十日目(五月二十日豫定)の三回、其二は五月三十一日、六月十日、六月二十日、六月三十日、七月十日、七月二十日、七月三十一日、八月十日、八月二十日の八回、其三は八月三十一日、九月十日の二回、其四は九月二十日の一回調査し之に氣象觀測表を添付し知事、郡長宛の二通を作り知事宛は郡を經由すること、

但し特別の事情ありたるときは電報又は態夫を以て知事及び郡長に報告すること、

午前十時觀測主基齋田氣象表

報告主任者

月日／事項	乾球攝氏	濕球攝氏	濕度	最高温度	最低温度	較差	田水温	蒸發量(粍)	風力	風向	雲量	天氣	雨雪量(粍)	記事摘要
一日														
二日														
三日														
四日														
五日														
六日														
七日														
八日														
九日														

十日	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日	十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	廿一日	廿二日	廿三日

廿四日	廿五日	廿六日	廿七日	廿八日	廿九日	三十日	卅一日	總計	平均

最高温度ノ極	
同上ノ日	
最低温度ノ極	
同上ノ日	
最大較差	
同上ノ日	
最小較差	
同上ノ日	
最大蒸發量	
同上ノ日	

午前十時		
快晴		
雨雪雹霰		
曇天		
最多風向		
全日中ノ現象		
雨天日數		
雹霰日數		
降雹日數		
暴風日數		
結霜日數		
濃霧日數		
雷雨日數		
地震日數		

第七項　品種の選定

第一目　選定の方法

品種の選定は齋田奉仕中、最も苦心したる事項にして其の決定に關しては大正三年二月敕定の令達せらるゝと共に愼重なる調査をなし、同年二月九日縣に於て關係者協議會を開き、十月五日以前に成熟すべき品種の撰擇をなすべく、縣立農事試驗場技師淸田信一氏來郡、郡內に於ける品種の調査方申込ありたるに依り、直に樗木、三浦の兩郡農業技手及黑川縣農業技手を郡內各村に派し、調査の結果、早生鷹尾及び田中撰の適當なることを認め、樗木技手見本品を携帶し縣廳へ登廳し縣に於て審査し、本郡提出の早稻鷹尾及び田中撰の二種を齋田用種子に採用すべきに付種子の送付方通知あり、仍て郡長は種子所有者陶村新名太樓、岩部專藏瀧宮村瀧喜平、杉山佐代次(以上鷹尾)、山田村津山龍太郎(田中撰)より現品提出せしめ、種子は新調の布袋に入れ縣へ送付し、縣は縣立農事試驗場の見習生をして丁寧なる粒撰をなし、特性の統一を計り、下種の準備中、四月十日畏くも大葬に遇ひ、大禮使官制は廢止と共に、齋田耕作の中止せらるゝに當り、知事は齋田の一部を新嘗祭獻穀米の栽培地に指定し、同四月十五日齋田存置の通牒に接したるに依り、齋田の內四畝歩は新嘗祭供御田とし、五月二日苗代一坪に四合づゝ播種し、六月十八日一株八本、一坪五十六株に挿秧し九月二十三日刈取り、稻架に掛け乾燥し、同二十六日扱落したる後、三日間筵干をなし、十月六日籾摺を行ひ、同八日、九日の兩日精搗、布磨をなし、粒選を了し、十月十五日耕作者より縣へ發送せり、而して供御田以外に四畝宛二區を設け、齋田栽培の鷹尾及び田中撰の採種田に供し、殘餘の土地は郡農會依托の採種田となし、雄町を栽培し、之れを郡內及び村內の希望者へ交換配付せり、而して齋田採種用として栽培したる鷹尾、田中撰の二種は、五月二日苗代一坪に付二合とし、健全なる苗を仕立、六月十八日一坪五十六株、一株一本植とし、八月廿二日出穗當時嚴密なる調査をなし、變種又は混種を除去し、尙ほ成熟前特性を調査し變種を分離し、齋田種子に供すべき豫定なりしも、鷹尾種は九月十四日の暴風雨に倒伏し被害甚しく、齋田用として稍々不適當なることを認め、遂に之れを廢種し、大嘗祭に供納すべきは田中撰と決定し、九月二十三日全部の稻株を根より引拔、株毎に其の特性を調査し、純良なるものを選擇し扱き落しの後、二日間の筵干を行ひ種子用として收穫せり、其の特性は左の如し。

籾種子　四斗

草丈	稃先の色	芒の有無	稈の細太	出穗の早晚	穗の長	一穗の粒數	一株の莖數
四、三〇尺	赤	無	中	最早	七、五寸	一一八粒	一三本
四、一〇	白	有	稍太	稍晚	九、〇	二三七	一三
三、八〇	白	有	中	最晚	七、五	一四五	一三
三、一〇	白	有	中	稍晚	八、二	一七二	一二
三、一五	赤	無	太	中	七、五	一四九	二二
(標準)							

以上の調査に依り異種を除き、純良なるもののみを採種したりと雖も、尙ほ研究を要すべきことを認め、更に協議會を開き、各種の材料に依り調査研究を重ね、農商務省農事試驗場畿內支場に於て、最近育成の早生五號に變更の議起りたり、然るに同種は成熟期に關し尙ほ懸念すべきものあり、茲に於て縣は園田農事試驗

場長を畿內支場に派し、熟期の速進に關し主任技師加藤茂苞の意見、並に縣立農事試驗場に於ける試驗の成績(別項調査表)に依り移植期を早くするときは、九月二十五日迄に成熟せしむることを確め、遂に之れに變更することに確定し、左記所有者(本種は新種にして未だ縣內に普及せざるが故に蒐集に困難せり)により蒐集せり。

記

一升二合二勺	農商務省農事試驗場畿內支場
三升七合五勺	香川縣立農事試驗場
四升四合五勺	香川縣三豐郡比地大村農會
三升二合五勺	香川縣三豐郡五鄉村農會
四升五合六勺	香川縣三豐郡神田村農會
一升八合七勺	香川縣大川郡病害調査地
計一斗九升一合	

以上の蒐集せる種子は縣農事試驗場に於て、再三唐簀選をなしたるものを机上に白布を敷き、種子を盆に入れ丁寧なる粒選を行ひ、四月八日奉仕者へ送附せり、而して本品種の來歷並に特性は左の如し。

第二目　主基齋田御用稻國の光特性

分蘖數	二十本二分
稈長	三尺二寸九分
稈の太さ	細
葉幅	三分七厘五毛
葉色	淡綠
芒の有無	無
倒伏の難易	稍難
雌蕊の色	白
出穗期　始め	八月二十五日
出穗期　揃	八月三十一日
成熟期	十月五日
穗首　長	稍長
穗首　整否	稍整
穗首　太さ	稍細
稃先の色　未熟	淡綠
稃先の色　成熟	淡褐
穗の長	六寸九分五厘
一穗の粒數	百四粒
粈毛茸の粗密	短稍粗
護穎の色　未熟	綠
護穎の色　成熟	黃

籾の色		淡
籾の形狀	長	七粍一二
	幅	三粍一五
	厚	二粍二五
	形	長形
玄米の長		五粍〇七
玄米の幅		二粍八三
玄米の厚		二粍〇〇
玄米の形狀		長形小粒
玄米の色		帶銀純白
外白		稀
心白		無
脫粒		難
一升の重量	籾	二百四十二匁
	玄米	三百八十一匁
	精米	四百匁
千粒の重量	籾	二十五瓦一九
	玄米	二十一瓦二六
	精米	十七瓦六

收量 稈 百三十九貫八百匁
　　 玄米 二石四斗六升四合

第三目　主基齋田御用稻種子國の光(早生五號)來歷及び命名

本種は農商務省農事試驗場畿內支場に於て、明治四十一年關取種と神力種とを交配し、明治四十三年固定せる新品種にして、大正元年縣立農事試驗場に於て、原種の配付を受けて試作し其の結果、稈强剛にして倒伏し難く且つ病蟲の被害少なく、立毛美にして品質優良、粒形小にして早熟種として收量多き良種なるを認め大正二年より當業者に種子を配布して、其の栽培を奬めつゝありしものにして、主基齋田用稻種として採擇せらるゝに及び國の光と命名せられたり。

第六項　齋田作業人夫豫定

作業事項	日數	男女別	員數	摘要
粒選	三日	男	三十人	
擿水選	一日	男	二人	
苗代整地	四日	男 牛	十四人 三頭	畔塗五人、整地五人、施肥一人、種蒔三人
莚簀張	一日	男	四人	
苗代灌漑及害蟲驅除	三十五日	男	十七人五分	苗代期間每日半人宛

苗代除草	二日	男	十人	
本田整地	九日	男 牛	二十四人 四頭	畔塗七人、耡返五人、代掻三人、ムクチ入三人、代掻二人、隅均し四人
植付	二日	男 女	十二人 三十人	植付女二十人、苗抜女十人、苗運男四人、植付監督八人
施肥	一日	男	四人	
本田採卵		男	二十五人	植付後隔日採卵
潅排水及見廻り	七十日	男	三十五人	植付後出穗以後毎日半人宛
除草	五日	男	二十五人	一日五人宛
灌漑	三十日	男	二百七十人	植付後二日目に一回宛八人、外に雜業一人
被害莖拔取		男	三十人	
白穗拔取		男	三十六人	一反歩十人宛
雜穗拔取		男	十二人	一回三人宛四回
害鳥追ひ	三十五日	男	三十五人	出穗以後收穫まで毎日一人
稲刈	一日	男	十二人	一人約三畝歩宛
稲架造	二日	男	八人	一反歩に付約二人宛

稲把作り及架干	一日	男 女	十人 八人	一人平均二畝歩宛
稲扱	二日	男 女	六人 十二人	女一人一日三畝歩宛、男は運搬其他の雜業
籾乾燥	二日	男	五十人	一斗の籾二回出入十分を要する見込み(十五石分)
籾篩	一日	男 女	二人 三人	唐箕女一人、籾入女二人、籾運搬男二人
籾摺	一日	男 女	九人 三人	籾摺男五人、唐箕女一人、籾入女一人、下集め男二人、万石男一人、米篩男女二人、
精白	二日	男	十人	
布磨	一日	男	四百人	一人一回五合二時間磨き一日三回(六石分)
粒撰	三日	男	二千人	一石に付千人
計		男 女 牛	三千九十二人五歩 五十七人 七頭	

第九項　農具及器具

第一目　主基齋田農具寄附者氏名

品目	數量	郡町村名	氏名
筵	五枚	綾歌郡端岡村	大谷勸進共同苗代組合

牛鍬	一挺	綾歌郡千疋村	猿飼清助
繩	一把二十五尋のもの五十四把	同　造田村	青年會
籾浸桶	二個	同　山田村	長尾伊太郎
杓（二升入）	二本	同　同	森保太郎
馬鍬	一挺	同　同	庭瀬次郎造
苗擔籠	一荷	同　同	三角瀧五郎
鎌	二挺	同　宇多津町	黑井熊太郎
バケツ	三個	同　山田村	花房財市
筵	五枚	同　瀧宮村	瀧宮村青年會
飼葉切	一挺	同　端岡村	山下近次
唐鍬	一挺	同　同	同人
笠（雨用）	十七枚	同　山田村	山田村青年會東分支會
耕牛用鞍	一個	香川郡鷺田村	岡勝次郎
同下鞍	一組	綾歌郡山田村	有岡谷次

同鞍輪	一個	綾歌郡產牛組合	代表者小田伊三郎
耕牛用ユタン	一枚	同	同人
同鼻輪	一個	同	同人
同糞受器	二個	同	同人
同首輪	一個	同	同人
同鼻子繩	一筋	同	同人
同角卷	一筋	同	同人
同下鞍	一個	同	同人
牛綱	二筋	同	同人
棒	一本	綾歌郡山田村	萱原彌三郎
唐鍬柄	一本	同　同	小笠原房吉
苗擔籠	一荷	同　同	大三島永吉
三ツ子	一挺	同　同	岡田仁平
同柄	一挺	同　同	萱原彌三郎

鍬	一挺	綾歌郡山田村	岡・田澤平
同	一挺	同　同	小笠原房吉
小槌	一個	同　千疋村	柾木繁次
簑	十七枚	同　西分村	西分村青年會
畚	一荷	同　山田村	馬場貞吉
筵	五枚	同　羽床村	羽床村青年會
同	五枚	同　林田村	林田村青年會
同	十枚	同　飯野村	飯野村青年會
同	四枚	同　法勳寺村	法勳寺村青年會
同	五枚	同　府中村	府中村青年會
同	五枚	同　羽床上村	羽床上村青年會
同	五枚	同　富熊村	富熊村青年會
同	六枚	同　土器村	土器村青年會
同	五枚	同　端岡村	端岡共同苗代組合

同	五枚	同　同	端岡村青年會
叺	六枚	同　林田村	林田村青年會
同	五枚	同　加茂村	加茂村青年會
筵	二十二枚	同　川西村	川西村青年會
同	六枚	同　畑田村	畑田村青年會
同	二枚	同　栗熊村	内海芳太郎
同	十枚	同　松山村	松山村青年會
同	五枚	同　金山村	江尻青年會
同	五枚	同　加茂村	加茂村青年會
棕梠繩	二百間	同　美合村	勝川、中通両青年會
手箒	十本	同　西庄村	西庄村青年會
笊（一斗入）	三個	同　山田村	川田雪次
鎌（稻刈用）	二挺	同　宇多津町	黒川熊太郎
同	二挺	同　飯野村	三井兵太郎

鎌（稻刈用）	二挺	綾歌郡土器村	蛭池正助
同	一挺	同　千疋村	大野文五郎
檜製机	二脚	同　山田村	川西宇太郎
唐鍬	一挺	同　山田村	山下松太郎
同	一挺	同　同	同人
同柄	一本	同　同	川井新平
筵	十八枚	同　川津村	川津村青年會
耕牛用首輪	一個	大阪府堺市小林寺町東二丁目	紙本佐兵衛
角巻	一個	同	同人
油團	一枚	同	同人
筵	七枚	綾歌郡陶村	陶村青年會
磬石（時報用）	二個	同　端岡村	長尾猛
棒	一本	同　陶村	福家芳助
筵	五枚	同　金山村	福江青年會

竹箒	十本	同　枌所村	枌所村青年會
螟蟲採卵用筒	十個	同　山田村	岩瀬梅太郎
唐箕	一臺	同　坂出町	濱田幸四郎
唐鍬	一挺	同　同	藤原專藏
鎌（稻刈用）	一挺	同　同	同人
筵	五枚	同　坂本村	坂本村青年會
同	五枚	同　王越村	王越村青年會
同	十枚	同　岡田村	岡田村青年會
竹（六七寸廻）	五十本	同　羽床上村	羽床上村青年會
繩	一千間	同　瀧宮村	瀧宮村青年會 同在郷軍人分會
同	一千間	同　宇多津町	宇多津町青年會 同在郷軍人分會
同	一千間	同　畑田村	畑田村青年會 同在郷軍人分會
同	一千間	同　陶村	陶村青年會 同在郷軍人分會
松杭（長三尺五寸末口二分）	百八本	同　西分村	西分村青年會 同在郷軍人分會

繩	一千間	綾歌郡千疋村	千疋村青年會
同	一千間	同　坂出町	坂出町青年會
同	一千間	同　栗熊村	栗熊村青年會
竹（四寸廻）	百三十七本	同　枌所村	木塲登四太郎
繩	二千間	同　山内村	山内村消防組
同	一千間	同　羽床村	羽床村青年會
同	一千間	同　府中村	府中村青年會
稻扱	一挺	備後國福山町	中島八十次
同	二挺	綾歌郡進農會	代表者 榑木龜次郎
白モス布	一丈	同　山田村	萬谷久吉
苗籠紐	四筋	同　同	森盛一
同	四筋	同　同	桑島傳
水源池周圍柵手傳	五人役	同　同	川西宇太郎
笠（雨用）	二枚	同　同	森和正

水源池樋木	一組	同　同	川西宇太郎
棒	一本	同　川津村	佐藤喜三次
鍬	一挺	同　金山村	山崎四郎
棒	一本	同　同	同　八
籾白摺	一臺	同　西庄村	野田文次郎
誘蛾燈	一個	同　府中村	高見兼次
除草器	五挺	同　飯野村	三井兵太郎
鍬	一挺	同　山内村	福井良助
同	一挺	同　府中村	原田清三郎
清水式精米機	一臺	大阪市西區九條中通一丁目	廣瀨小六
今橋式敷島精穀機	一臺	大阪市西區江戸堀北通二丁目	今橋芳松
村上四連座精穀器（使用のみ）	二臺	廣島縣深安郡福山町	村上邦三
瓦斯發動機十馬力（使用のみ）	一臺	大阪市北區上福島二丁目	伏田清三郎
帶革（使用のみ）	一揃	大阪市平野町二丁目	多太千吉

無煙炭	千斤	大阪市北區安治川通り一丁目	若田虎三郎
唐箕	一臺	大阪市東區農人橋二丁目	京屋七兵衛
稻扱	一個	愛知縣播豆郡西尾町	青山大三郎

第二目 主基齋田農具買入表

品目	數量	價格	郡町村名	氏名
耕牛飼桶	一個	円、六五〇	綾歌郡山田村	大西金次
一斗桶	二個	一、〇〇〇	同	三角秋次
棒	一本	、七〇〇	同 同	川井新平
鍬柄	一本	、一五〇	同 同	同人
鉈	一挺	、三〇〇	同 同	山下松太郎
擔桶	一荷	一、三五〇	同 同	大西金次
同	一荷	一、九〇〇	同 瀧宮村	川井綾吉
耕牛飼桶	一個	、七〇〇	香川郡圓座村	和泉宇平
耕牛鞍附屬品	一揃	、三〇〇	綾歌郡山田村	岩瀨彌平

唐鍬	一挺	、三〇〇	綾歌郡山田村	山下松太郎
籾浸大桶	一個	一、〇〇〇	同 同	渡邊米造
三ッ子柄	一本	、一五〇	同 同	川井新平
三ッ子	一挺	、二五〇	同 同	山地義廣
鍬銑	一枚	、二八〇	同 同	山下松太郎
鍬	二挺	一、四四〇	同 瀧宮村	福井澤太
レーキ	二挺	三、四〇〇	丸龜市	津村源吉
ホーク	二挺	三、〇〇〇	同	同人
土荷舂	一荷	、一一〇	綾歌郡山田村	花房財市
小笊	二個	、四〇〇	同 同	氏田時次郎
小箕	二個	、六〇〇	同 同	同人
稻扱臺	四個	五、六〇〇	同 府中村	光實米次
量器一斗桝	一個	一、七〇〇	高松市塩屋町	東陽會社 香川潔
同一斗桝	一個	、三五〇	同	同人

同五合桝	十個	二、九〇〇	同	同人
同一合桝	十個	一、五〇〇	同	同人
斗概大中小	三本	、二四〇	同	同人
衡器十二貫臺秤	一個	一二、九〇〇	同	同人
度器六尺	一個	、五七〇	同	同人
同一尺	二個	、〇八〇	同	同人
同卷尺	一個	二、八〇〇	同	同人
鏝	三個	、八四〇	高松市四番丁	宮本芳太郎
誘蛾燈	十個	六、〇〇〇	香川郡栗林村	鈴木杢郎
益蟲保護器	二個	、九〇〇	同	同人
田植定木	三個	四、五〇〇	木田郡平井村	串田太市
杉製木箱	一個	、二〇〇	同山田村	金瀧秀藏
塵取笊	一個	、〇七〇	同同	森保太郎
熊手	一本	、〇六〇	同同	後藤時次郎

耕牛用毛櫛	一個	、三〇〇	高松市	藤田嘉平
同金櫛	一個	、一〇〇	同	同人
水量標	十枚	二、〇〇〇	高松市兵庫町	山下喜代次
捕蟲網	二備	、九〇〇	香川郡栗林村	鈴木杢郎
唐鍬	一挺	、三〇〇	綾歌郡陶村	福家芳助
碎扱篩	一臺	三、八〇〇	香川郡栗林村	丸山政善
建篩	一臺	三、五〇〇	同同	中山源太郎
齋田御用烙印	一個	、四〇〇	同同	藤井忠藏
收納錠	二個	、一二〇	高松市	宮本芳太郎
寒暖計	一個	、九〇〇	東京京橋區銀座町	玉屋商店
枯莖取用籠	三個	、五〇〇	綾歌郡山田村	氏田時次郎
枯莖切鋏	三個	、一五〇	高松市	宮本芳太郎
草削	一個	、三〇〇	綾歌郡山田村	岡田仁平
草削柄	一本	、一六〇	同同	川井新平

土擔畚	五荷	、五〇〇	綾歌郡山田村	道房財市 外一名
三角定木	一挺	、二〇〇	同 同	藤本芳次
稲刈鎌	十挺	二、〇〇〇	同 飯野村	三井澤義
同	五挺	、九〇〇	同 山田村	山下松太郎
稲扱	五挺	八、五〇〇	同 富熊村	水澤竹三郎
千石篩	一臺	、五〇〇	高松市藤塚町	中山源太郎
撒水用金網	一個	一、〇〇〇	綾歌郡坂出町	中井小三郎
黒板	一個	一、五〇〇	高松市兵庫町	山下喜代次
黒板拭	一個	、一五〇	同	同人
水量標	十本	二、〇〇〇	同	同人
白木製箱（二斗入）	八個	六、四〇〇	同	同人
同 粒選米入箱（四斗入）	三個	一五、〇〇〇	同	同人
同 精白米入箱（一石入）	三個	一一、一〇〇	同	同人
木地鉢	四個	、六五〇	香川郡栗林村	高橋マサ
曲物	二個	、七〇〇	同 同	本津政太郎
木綿製磨袋（長三尺五寸幅四寸五分）	六五〇		高松市西通町	加島明治
絹製磨袋（長三尺五寸幅四寸五分）	四〇		同	同人
白米入袋（長九寸幅四寸）	三五〇		同	同人
同 屑米入袋（長八寸幅三寸五分）	三五〇		同	同人
粒選米入袋（長六寸幅二寸七分）	三五〇		同	同人
粒選用盆	一、三八九	二〇八、三五〇	高松市野方町	坂本榮
粒選用篦	一、三八九	二〇、八三五	同	同人

第十項　耕牛の購入

主基齋田の耕耘整地に使用すべき畜牛は、血統正しく且つ强健溫順なる良牛を購入せしむべき方針を以て、之が調査選定を縣郡技術員に於て行ひ、遂に左記のものを適當と認め購入し、千代號と命名せり。

一　元所有者　　香川縣綾歌郡瀧宮村

一、種類　和種

一、性　牝

一、毛色　黑色

一、年齢　明治四十四年七月六日生（明て六歳）

一、體測

肩高	四尺一寸五分
十字部高	四尺二寸
肩幅	一尺四寸
胸圍	六尺一寸四分
腹圍	七尺三寸（姙娠七ヶ月）
腰角幅	一尺六寸
尻長	一尺六寸
臗幅	一尺四寸五分
坐骨幅	九寸四分
肘下	二尺二寸五分
飛下	一尺六寸
體長	五尺五分

一、產地　岡山縣備中國阿哲郡新見町大字高尾向田
齋木國三郎方生產

一、血統
父　岡山縣阿哲郡新見町大字高尾
横田銀藏所有內國種（岡山縣一等賞受領）
母　岡山縣阿哲郡新見町大字高尾向田
齋木國三郎所有內國種（明治三十九年產）

一、經歷　大正元年十二月二日、生產者より阿哲郡新見町宮脇助市へ、同二年三月十九日、上房郡高梁牛市場を經て、香川縣香川郡川岡村、瀧瀧三郎へ、同三年十月、綾歌郡瀧宮村、津村市次方へ順次轉々飼育され、同四年四月十三日、綾歌郡產牛組合主催、第四回畜牛品評會へ出陳し、縣より壹等賞を受領せり、之れと同時に御田植耕牛に供して、適良なりと鑑定の結果選拔、遂に其の日を以て千代號と命名し、同郡山田村齋田奉仕者、岩瀨辰三郎方に飼養せらるる所となれり。

一、不淨防止　耕牛の糞便の排泄に依り、齋田を汚すべきを慮り、使役の前に於て特別の飼養法を施して、糞尿の排泄、回數及び其の量を制減し、倘排泄を催す場合には、ヅック製、長柄杓樣の糞受器を以て之れを採取し、不淨物の混入をなからしめたり。

一、耕牛の裝飾　御田植耕牛の裝飾法に關し、特に記錄の徵すべきものなきも、本邦畜牛裝飾の沿革と、其の術の發達せる大阪府下堺地方、其の他の口碑傳說等に鑑み、高松市內にて調製せしめたる裝具は、齋田地所在の綾歌郡產牛組合より寄贈する所となり、其の鼻輪は桁木青貝入、兩端朱塗

左右に渡金せる奉仕者の紋所(昇藤三階松)金具を打ち、輴は覆輪の淺黄と白を絢ひ合せ、角卷は中央に白く紋所の入りたる淺黄天竺木綿を、首玉は緋覆輪(へると)地に左右の定紋附、轎は淺黄天竺木綿、緣は肉色左右両端に白く大なる紋所を附し、角裝は御田整地裝角法なりと稱し、傳ふる所の法に據り角根に角卷を施し、角間には注連繩を張り、角成形は耕牛選擇上の一要件たりし御田植角(天角)の典型を具へたるが故に、一層壯觀を呈せり、殊に田植式當日の裝飾は大阪府下堺市少林寺町、紙本佐兵衛氏の寄贈に係る裝飾具を用ひ、角卷は紫縮緬中央に金絲の紋所を附し、首玉と轎とは緋羅紗仕立、轎の緣は天鵞絨に四隅金絲の總を附し、両品とも左右大なる金絲の紋所あり、金絲は何れも純金を用られ、金光燦爛として實に美觀を極めたり。

第十一項　耕作從事者心得事項の訓話

大正四年四月三十日、耕作從事者男女全部を郡出張事務所に召集し、耕作上必要なる左記事項を、園田、平野、樗木の三委員に於て分担訓話せり。

禮儀、忌引、衛生、非常時警戒、　園田委員

苗代の整地、灌排、施肥、其の他の管理、本田の整地、肥料、挿秧、灌漑、害蟲驅除、除草等、　平野技手

稻刈、籾乾、籾摺、精白、粒撰、布磨、保管、　樗木技手

而して當日は岡本勸業課長、田淵縣農會副會長、岡田山田村長、高尾山田村事務員等參列せり。

齋田耕作從事者心得

齋田の作業は　皇室の大典に仕へ奉る所以なるを以て、從事者各自左の條項を恪守し誠意事に當り其の任務を全ふすることを期す可し。

一、從事者は平素品行を愼み苟も放逸に亘る行爲あるべからず、
一、毎日作業着手前盥漱潔齋すべし、
一、作業は總て管理者の指揮に從ひ愼重周密なるべし、
一、作業に從事する時は作業服を着用すべし、
一、作業中は特に言語動作を愼み不敬に亘らさる樣に注意すべし、
一、作業中は勿論平日と雖疾病其の他身体に異常を生し作業に堪ねずと認めたるときは其の旨管理者に屆出べし、
一、從業者の家族中傳染性疾患者生し或は凶事の起りたる塲合は其の旨管理者に屆出つべし、
一、作業の日程は豫め之を通知す、

第二節　苗代

第一項　整地

苗代は齋田の一部を使用することゝし八拾六坪を區劃し、畦を設け整地の結果、蒔坪六拾壹坪貳合壹勺となれり。

地拵は四月十六日祓式終了後、同十七日午前八時着手し、園田、清田、平野、黒川、榑木の四委員、奉仕者、耕作從事者、耕牛等潔齋場前に整列し、上里松隈八幡神社々司の祓を受け、農夫門を開き田内に入り周圍の畦を作り千代號を使役し塊返を行ひ、馬鍬を以て土塊を粉碎し、地面の高低を均し、豫て腐熟せしめたる肥料即ち米糠、鰊粕を適當の液肥となし、丁寧に撒布し、水源地より灌漑し、荒畦を塗り横鍬を切り、四月十八日本畦を塗り、ムクチ鋤及び、代掻をなし、此の間極めて水を少なくし、畦幅三尺蹈切の溝一尺とし、繩を引き畦の正確を計り、四月十九日、鍬を以て溝を揚げ、完成するの豫定なりしも、同日雨天のため一日延期し、二十日之れを整地し、床面の高低なき樣掻均し、鍬を以て均し、兩端に稍太き繩を張り、蒔付の準備をなせり、又苗代害蟲豫防のため苗代の周圍に長さ四尺の松丸太を各一間毎に二尺五寸の高さに打込み、三段の横木を結附け長二間幅三尺の葭簀を廻らし、更に横木を以て結着し、一隅に幅四尺の開戸を設け、耕作從事者の出入を便にし、五月二十四日に至り全く之れを取除けり。

第二項　選種

一、粒選　種子は最も優良なるものを得んことに努め、再三唐箕に掛け風選を行ひ、大正四年三月二十七日より四月六日に至る十一日間に亘り、縣立農事試驗場にて平野技手監督の許に特性の混同したるものを分離する爲、黒き盆上に少量の籾を入れ、其の特徴の異なるものを精査し、異種と認むべきものを除去し、純良なる籾一斗三升を得、新製の布袋に入れ、更に檜製の箱に納め、奉仕者宅へ送れり。

二、擅水選　四月十三日午前十時より園田、榑木、黒川の各委員督監の許に奉仕者及耕作從事者二名を以て擅水選に着手し、浸桶選種用の桶二個を用意し、桶に坂出町須崎源次郎特に謹製寄附したる食擅を溶解し、比重一、一三の濃度となし、金網製の籠に籾を三升宛入れ、之れを擅水中に挿入し、能く攪拌し沈下せしめ、浮上したる不良種を金網製の杓を以て掬ひ去り、子實の充實したるものを取り、清水を以て再三洗滌し、十分擅氣を去りたる後、浸桶二個に浸漬し、播種當日に至る迄七日の間浸し、毎日換水を行ひ、水の腐敗を防げり、而して選種に供したる種子は總量一斗三升にして、選種後の純良なるものは壹斗二升なり。

第三項　肥料

苗代肥料は總べて元肥に施すことゝし、苗代全部に米糠六貫八百二十九匁、鰊粕一貫三百四十五匁、硫酸アンモニア四百四十匁、精過燐酸一貫二十五匁、木灰二貫匁を施し、其の施用法は、豫て準備したる、米糠、鰊粕の二種を甕に投入し、之れに水を加へ覆蓋を施し、毎日攪拌し十分腐熟せしめたるものを、更に稀釋し、苗代全体に均一に撒布し尚ほ硫酸アンモニア、過燐酸と混和し苗代の畦上に撒布し更に鍬を以て打均し、木灰は苗の發芽后二十日目籾殼の燻蒸したる灰と混し撒布せり、而して使用したる肥料の成分は分拆の結果左の如し（百分中）

肥料名	窒素	燐酸	加里
米糠	二、三六	五、二〇	定量せず
鰊粕	一〇、〇三	五、一五	同
硫酸アンモニア	二〇、五〇	—	—
精過燐酸石灰	—	二〇、六七	—

第四項　播種

播種は四月二十日之れを行ふの豫定なりしも、雨天のため一日延期し、廿一日播種することゝし當日午前七時豫て浸したる籾を、笊に打揚水を去り前日整地したる苗代に、園田委員の指揮に依り、平野、椨木、黒川、三浦、の各委員及び奉仕者、耕作從事者、六人にて各畦毎に一定の分量を播下し、撒布の平均を計るため一方より巡りつゝ補播を行ひ播終りたる後種子の浮動を防ぐため、鏝を以て輕く種子を壓付し土中に塗込灌水せり苗代坪數並に播種量左の如し。

苗代總坪數	八十六坪
同　疇坪	六十坪八合五勺
播種總量	一斗二升
壹坪播種量	二合

第五項　管理

苗代田は播付後直ちに灌水し、二日間湛水し、以後廿三日、廿四日に第一回の芽乾をなし、廿五日、廿六日灌水し、廿七日第二回芽乾をなし、廿九日、三十日、一日、三日、四日、五日に芽乾をなし、其の後十日より十一日、十三日、十九日の各日排水を行ひ、他は總べて淺水とし苗の强剛を計り、健全なる苗の養成に努め、浮塵子發生の場合は壹反歩に付壹升乃至壹升五合の石油を注ぎ、驅除する豫定なりしも、遂に發生を見ずして驅除を行ふに至らず。

除草は五月四日竹箆を以て苗間に發生せる雜草を除き、五月十日、同十五日、同廿五日の三回雜草等を除去せり。

第六項　苗の生育調査

	調査事項	
四月三十日	發芽期	四月廿八日
	發芽苗の整否	整
	苗の剛軟	―
	苗の細太	―
	草丈	二分二厘
	葉幅	―
	葉長	―
	色合	黄緑
	病蟲害	―

月日	調査項目	成績	摘要
五月十日	苗の整否	―	播種天候不良のため發芽及び生育稍々遲れたるの狀況にありしが其の後の天候恢復と共に生育大ひに進み良好の發育を遂げつゝあり
	苗の剛柔	―	
	苗の細太	太	

	草丈 色合	二寸四分八厘 淡緑	五月一日、三日、四日、六日、十日の五回芽乾をなし五月四日雜草を防ぐため籾殻灰を施用せり
五月二十日	苗の整否 苗の剛柔 苗の細太 草丈 色合	整 稍々柔 太 五寸一分七厘 黄緑	本月上旬中は天候順調なりしも本期間に至り氣温槪して低溫なるに依り努めて排水を行ひ氣溫の昇高を計りたるため稍々良好の發育を遂げつゝあるを以て植付期迄には六寸以上に伸長する見込なり 此の期間五月十一日、十三日、十五日、十九日の四回芽乾をなす
五月廿八日（植付當時）	草丈 莖の剛柔 莖の細太 色合 葉幅 葉長	六寸八分 稍々剛 稍々太 淡緑 一分二厘五毛 四寸四分四厘	植付當時草丈短きものは六寸二分長きものは七寸二分にして苗三十本の平均六寸八分に伸長せり又葉數の少なきは四枚多きは六枚にして五枚のもの最も多く而して苗の生育日數は三十八日間にして普通苗に比し約二週間少なく稍々若苗の狀態にありて分蘖したるもの僅に十分の一に過ぎず然れども生育日數少割合に健全なる發育を遂げ移植に適當なる苗を得たり

備考　苗の剛軟、苗の細太、草丈、葉幅、葉長等は苗代一定の塲所に於て調査の都度拔取其の苗數三十本の平均を示し又發芽苗の整否、色合等は苗代全体を通觀せり。

第三節　本田

第一項　田區改正及び道路の改修

主基齋田及び之れに伴ふ齋院敷地は總べて五筆にして此の面積六段三畝十二歩なりとす、然れども原形は筆數多く形狀不正にして多少高低ありしため、栽培及び齋院建設に不便なりしを以て田區の改正を行ひ、同時に必要の道路を改修新設せり、此の工事は總べて縣にて設計監督し、夫役は山田村青年會員及び同村在鄕軍人分會員の寄附により完成せり。

齋田決定するや直ちに基礎調査を行ひ設計を立て、大正三年四月九日起工、同四月三十日竣工し、從前の面影は一新するに至れり、而して整理後の總段別六反六歩中内齋田反別四反四歩、齋院及び同前後敷地全部二反二歩となし、前記苗代地を齋田内に設くるも差支なきに至りしを以て、齋田内西南隅の一部を之れに充用せり、又齋田四反四歩を細別すれば耕作面積三反三畝二十七歩、齋田内中央道路一畝七歩、周圍道三畝十四歩、用水路八歩、拜觀所一畝八歩に區別せり。

第二項　灌漑及び排水工事

灌漑　齋田の灌漑水は淸淨なるものならさる可らず、調査の結果、齋田の西約半町奉仕者邸の南方に於て淸冽玉を欺くの井水あり、滾々として盡くることなく、如何なる旱魃に逢ふも、未だ曾て涸渇せしことなしと謂ふ、實に神泉と稱すべし、されば齋田の灌漑水に充つる爲め、其の隣接地に幅三間長七間深六尺貯水量四千五百三十六立方尺の貯水池を新設し、一度之れに引入れ、水溫を高めたる上、竹の筧を以て灌漑することゝせり、池壁はコンクリート練積石垣となし、底部は三和土叩仕上とし、尙池邊周圍は柵を圍繞し、不

淨の混入を豫防せり、工事は大正三年四月起工、同五月十日竣工せり。

然れども、之れのみにては用水不足の虞なきを保せず、此の場合は綾川の清流を以て補充せむ爲、同河畔に大正形松田式足踏喞筒二臺を据付け、四吋鐵管及び護謨ホースにより揚水す此の揚水能力試驗の結果、一時間九十六石を算す、而して喞筒より出てたる清水は特設のコンクリート製「タンク」に入り、內徑六寸長七十間の土管を流過して、用水路（此用水路は齋田南側の三尺幅道路に沿ひ石積とし深六寸敷幅一尺二寸長四十一間）の中央部に到り、齋田に灌漑す、揚水喞筒の据付導水管の埋設は大正三年四月着手せしも、大體延期の爲中止し、大正四年四月完成せり。

防水並びに排水　齋田は綾川の河畔に位する故に、河水の氾濫して齋田を浸すの虞なからしむる爲、綾川に沿へる郡道中齋田地附近七十五間に約一尺五寸の嵩上工事を行ひ、堤塘の用を兼ねしめ、又齋田の南方に勅使道を新設し、尚ほ勅使道南側に併行して堀穿せる大溝を以て、南方隣接田より橫溢し來るべき汚水を妨遏排水し又齋田西方の山麓に沿へる水路を浚渫擴張し、以て排水の良好ならん事を期したり、右溜池修築土管揚水器等は縣費を以て支辨したり。

第三項　整地

五月五日より唐鍬を以て塊破りに着手し、引續き六日塊破をなすべき豫定なりしも、當日は上山農商務次官來村せられたるに依り、之れを中止し、七日八日の両日に於て丁寧に破碎し、同七日に至り耕牛千代號を使役し、東一號區より順次に耕鋤し、九日全部の塊返をなし、五月十八日更に馬鍬を以て土塊を搔き碎き、此の時木灰及石灰窒素を土中に混入せしむるの豫定なりしも、雨天のため土地濕潤なるに依り、一日延期し、

同十九日石灰窒素を撒布し、馬鍬を以て四回搔均し、午後六時中止し、翌二十日前日の殘部に前同樣の方法にて木灰及び石灰窒素を施し、馬鍬を以て搔均をなせり、又同廿八日午前八時より第一號第二號の両區を耕鋤し、廿二日三號四號の両區を耕鋤し、同日二號區にポンプを以て灌水し、畦搔を行ひ、荒畦を塗り、午後三時より第一號地に灌水し、同九時一旦中止し、廿三日拂曉より一號區に灌水を始め、前日同樣の荒畦を練り、一號二號共馬鍬を以て畝を搔倒し、水の滲透を防ぎ、更に灌水の不足を補ひ、午後三時第三號區に灌水し前日同樣の方法に依り、畦搔をなし、廿四日各區中の減水したる部分に補水を行ひ、廿五日第一、二、三號區の本畦を塗り、同廿六日各區のムクチ鋤をなし尚ほ前日に殘りたる第四號區の畦塗をなし、周圍の畦畔其の他中央道路、用水溝等を掃除し、田內及び附近の清淨を保ち、廿七日午前七時耕牛千代號を正裝し、第二號區に牽入し、拜觀者歡喜の內に徐々代搔を始め、同九時之れを終り、鍬を以て凹凸を搔均したる後、肥料を施し、田植式擧行準備を整へ、一旦各員作業室に集り、田植式開始の時刻を待つこと暫時にして、式場に參列し、正午より第一號區の代搔をなし、廿八日午前七時三號四號の両區代搔をなし、前日同樣肥料を施し、廿九日苗代地跡地を鋤起し、唐鍬にて土塊を切り碎き、當日出仕の男女耕作從事者をして踏み柔げしめ、更に馬鍬を以て縱橫に搔均し、所定の肥料を施し、周圍の畦畔を塗り全部の整地を終れり。

第四項　肥料

肥料は縣內に於て最も多く消費せらるゝもの及び將來使用の增加すべき左記肥料を施用することゝし、堆肥は山草並びに藁を原料として製造すべき豫定なりしも、山草は未だ發芽の程度短く、肥料とするに足らざるを以て藁を使用することにし、四月十七日藁三百貫を長五寸位に切斷し、豫て準備したる容器に醬油粕四十

貫を二石一斗の水に溶解腐熟せしめたるものを、更に五倍の水に稀釋し、高さ六七寸に積重ねたる後、十分濕潤するの程度に撒布し、堅く踏付醱酵を促進せしめ、同廿九日第一回切返を行ひ、堆肥舍の一方に堆積したるものを一旦舍外に切出し、極めて丁寧に切捌きつゝ約五寸位宛積み返し、十分に壓付し、水二斗位を撒布し、之れを濕潤ならしめ、六七回積重たる時、更に水を增し、十二回に至り尙水を增し、二十回にして堆積し終り、上部に莚を覆ひ、薄く土を盛り、養分の飛散を防ぎ、更に壹回の切返しを行ひ、能く腐熟せしめたるものを使用し、大豆粕は名古屋市石築町大豆粕漂白株式會社、硫酸アンモニア及び石灰窒素は熊本縣八代郡鏡町日本窒素株式會社、精過燐酸は大阪市西區川口町大日本人造肥料株式會社大阪工塲、油粕は高松市河西爲次氏の謹製したるもの、木灰は山田に於て蒐集し、篩を以て篩分たるものを使用し、菜種油粕は臼を以て搗碎き、五月十八日十九日の兩日豫て鋤返したる畝に石灰窒素を撒布し、馬鍬を以て壹畝四回づゝ搔均し、撒布の均一を計り、堆肥は同十九日に施し、大豆粕、油粕、硫酸アンモニア、精過燐酸は之れを混合して植付當日代搔をなしたる後に施用し、第三號第四號の兩區は稍々肥料不足なることを認め、七月一日壹反步當の施肥量を硫酸アンモニア一貫の割合にて、七月一日追肥として施用せり。

記

肥料配合及び施用量左の如し

區別	步數	堆肥	石灰窒素	大豆粕	菜種油粕	過燐酸石灰	硫酸アンモニア	木灰
第一號	坪 二四四、二	貫 八一、四〇〇	貫 〇、八一四	貫 四、〇七〇	貫 四、〇七〇	貫 五、六九八	貫 一、三三一	貫 二五、三〇七
第二號	二九五、八	九八、六〇〇	〇、九八六	四、九三〇	四、九三〇	六、九〇三	一、四七九	三、〇六六〇
第三號	二三九、四	七六、五〇〇	〇、七六五	三、九九〇	三、九九〇	五、五八六	一、一九七	二四、八一〇
第四號	一七五、四	五八、五〇〇	〇、五八五	二、九二三	二、九二三	四、〇九三	〇、八七七	一八、一七七
苗代跡地	一〇八、〇	三〇、〇〇〇	—	二、二六二	一、五〇〇	二、一〇〇	〇、四五〇	九、三二七
計	一、〇六二、八	三四五、〇〇〇	三、一五〇	一八、一七五	一七、四一三	二四、三七九	五、三二四	一〇八、一八一

備考　施用肥料の分拆成分左の如し

肥料名	窒素	燐酸	加里
精過燐酸石灰	—	二〇、六四	—
硫酸アンモニア	二〇、〇五	—	—
石灰窒素	二〇、三八	—	—
大豆粕	七、九三	一、六三	定量せず
菜種油粕	五、八八	二、三五	同上
堆肥（醤油粕を含む）	—	〇、一九	同上
木灰	—	—	六〇、九九

第五項　灌漑

灌漑水は奉仕者邸宅前に特に建設したる用水池より灌ぎ、不足の補水は齋田東方綾川に設けたる揚水ポンプを以て揚水し齋田內に灌ぎ、五月廿一日より八名の人夫を使役し、第二號第一號の兩區に灌漑し、同日午后九時一旦中止し、同廿二日廿三日に於て全部に灌水を終り、廿四日廿五日廿六日は前日灌漑したる部分に補

水をなし、田植に支障なき準備を整へ、移植後は各區を交互に灌漑し、豫て設けたる水量標の示度を計り、大雨を除くの外常時一寸乃至二寸以内の深さに灌水し、此れが夫役は村内在鄕軍人分會、青年會員每日四名乃至八名づゝ出勤、每日午前七時より正午頃迄村內青年會員、在鄕軍人分會員及び一般村民等交代揚水に從事し、四番除草、五番除草の二回は一旦排水し、除草後更に水を灌ぎ、七月十日より四日間中乾を行ひ、同十五日より復た灌水を續け八月五日の出水にポンプ水管破壞し、流失せる等喞筒に故障を生じ、同十日復舊工事に着手し、十一日竣工し、更に灌水をなし、八月廿五、六日は暴風襲來の警報あり、防風準備として特に灌水を深くせしも、遂に襲來せずして天候恢復し、一旦排水し田面を乾燥せしめたるも、又九月六日暴風襲來の警報に接し、同日午前特に多數の人夫を召集し、防風のため水深五六寸に灌水せり、而して同八日に至り全く排水し、以後乾燥せしめたり、而して灌漑に要せし夫役の延人員は貳百貳拾五人に達せり。

第六項　移植

移植は熟期と品種の關係上特に其の時期を操上げ、五月廿七日移植する計劃にて、之れが準備をなし、植付の方法は壹坪の株數を七十二株（橫一尺縱七寸五分）壹株四本づゝ串田式田植定木を以て植へ、古式に依り田植歌を歌ふことゝなし、四月三十日地方固有の田植歌と其の歌譜を調べ、五月廿一日香川縣師範學校敎諭內藤俊二傳習敎師として來村、早乙女全部を召集し歌の傳習を始め、串田式田植定木を使用し松葉を苗に代へ、植付と歌の調子を練習するも容易に一致せず、種々苦心の結果、定規は細き割竹に更へ（五六寸廻りの竹を幅二分厚一分位の割竹と爲し長十間に繼ぎ、壹株毎に白き帮を三株目に赤帮を結付たるもの）始めて歌と一致するを悟り、尙ほ練習を續け、愈々歌の調子と早乙女の拍子と一致するに至り、廿五日齋田附近の田地に於て實地に就き豫習をなし、當日に至り萬一の誤りなきことに努め、廿六日午后男子從事者全部を作業室に集め、廿七日田植の注意事項を指示し、左の各部に別ち係を定めたり。

一、耕牛使役
前田岩太郎　內海霞　內海勇　桑島虎八

二、施肥
津山理美　森盛　松原清七　萱原正行

三、地均
森好太郎　辻角太郎　蓮井義夫　辻靜

四、苗取
高松久太　山下政吉　川崎末廣　才谷小太郎
岩鍋八郎

五、苗選別
安川伊平次　川西積　森光太　龜山新四郎
小比賀康雄　山地貫一　岩瀨一太

六、苗分配及び定木配置
岩瀨梅太郎　岩瀨勘平　渡邊肇　穴田伊太郎

七、皷打

渡邊義正

八、豫備

殘員全部

九、田植

早乙女全部

廿七日午前七時より耕牛千代號を以て第二號地の代掻をなし、肥料を施し、凹凸なき様鏥を以て能く掻均し、両端に棕梠縄に目盛(七寸五分)を施したるものを引き、杭を打ち角度を検査し、縄の浮動せざる様注意し、苗を抜き、不良なるものを選別し、準備を整へ、午前九時作業を中止し、一應作業室及び事務所へ引揚げ、同十時三十分男女正装の上、田植式に参列し、式中田舞の式始まるや、奉仕者、監督者、男女從事者一同退場し、準備を整へ奉仕者を先頭に園田、淸田、平野、椰木、黑川、三浦の各委員、男女從事者之れに從ひ潔齋所前にて祓を受け、齋田に入り、夫々定めの任務に就き、雲霞の如き多數拜観者、拜観の裡に打出す太鼓と共に十八名の早乙女一列となり、苗を手に六名の早乙女は畦に立ち、

讃岐山田は良いこめどころ

主基の御田はわけてよい

水もゆたかに御田に入れば

露の玉苗うるはしや

袂つらねて植ゑつゝ祈る

稔る瑞穂をさゝけんと

と歌ひつゝ一人三株づゝ歌の調子に合せ、一列を植ゆれば定規を後に退り、豫定の目標に當て、縄の両端を強く引き、浮動せざる様固定せしめ、一人一列三株づゝ徐々に植付け、午後零時二十分全く田植の式を終り、暫時休憩の上、午後二時三十分再び植始め、午後五時二號區を植終れり、又同日の苗は一旦扱取りたるものを一々選別し、不良なるものを除き、生育の健全なるを採り、小束となし、本田に分配せり、而して廿八日午前七時より前日同様の方法に依り、第一號地第三號地第四號地の部分を植へ、廿九日午前七時より第四號地の殘部及び苗代跡地の移植をなし、午後二時全部を植終り、奉仕者、委員、男女從事者一同齋田を一周し中央勅使道に集り、陛下及び齋田の萬歳を三唱し、器具を整理し午后三時全く終了せり、而して此の正儀を拜観せんと齋田に群集するもの、田植式の當日は八萬餘名、廿八日は壹萬以上、廿九日の最終の日に於ても、尚ほ五千餘名に達せり。

第七項　除草

移植後、五月三十日、女子從事者をして点々浮動又は位置の不正なるもの〻植付を直さしめ、六月三日、第一回除草に着手し、除草器及び手にて一人五株づ〻縦横交互に除草し、除草中は常に竹筒を腰に携帯し、螟蟲の採卵に注意し、第一、二、三、四回は湛水の儘、第五回は排水をなし手を以て練込除草とし、尚ほ七月十日に至り雜草の殘りたるものを除く爲、臨時除草を行ひ、排水の上練込をなせり。

除草歌

あやの川風城山風が

稻にそよ〳〵吹き渡る
　國の光とよい名をつけて
　　作る稻にて身もひかる
ごみにまみれて田草を取れば
　　稔る御米は玉となる

壹回除草	六月三日	手取
貳回除草	同　十日	南北除草器 東西手取
參回除草	同 十七日	南北除草器 東西手取
四回除草	同 廿四日	手取
五回除草	七月一日	手取
臨時除草	同　十日	手取

而して移植后、成熟に至る迄屢々齋田周圍の畦畔中央道路、式場、拜觀所等の除草をなし、常に淸淨を保ち、九月十日十一日の兩日枯穗の扱取を行へり。

第八項　生育の狀況

移植後の生育は初期に於て天候不良にして、稻の生育遲緩なりしも、七月十四五日頃より、天候恢復し、佳良の生育を遂げ、其の間稻に胡麻葉枯病發生し、又六月十九日午後約十分間に亘り、梅實大の降雹あり、八月四五日に大雨あり、殊に九月六日、七日の兩日濃厚なる低氣壓襲來し、本縣東部地方へ多大の被害を與へたる等、耕作上頗る苦慮し細心の注意を加へたるも、槪して好良の生育を遂げ、供納に支障なからしめたるは　皇威の然らしむる處にして天佑なりと云ふべし、而して生育の狀況は各月の旬期に分ち、一旬期の末日に於て齋田内一定の個所を定め、草丈、葉幅、葉長、壹株の本數、各三十株を調査し、之れを平均したるものにして其の調査狀況左の如し。

本田生育調査表

月日	調査項目	成績	摘要
五月三十一日	草丈	七寸一分一厘	五月二十七日に挿秧に着手し同廿八日に苗代跡を除く外全部挿秧し同廿九日苗代跡地を植付たるに依り一時植痛みをなしたるも直に恢復し新根發育旺盛にして長さは三寸二分に及び新葉を發生しつゝあり
	莖稈の細太	稍々太	
	葉色	淡綠	
	葉幅	一分四厘弱	
	葉長	四寸五分强	
	壹株の莖數	四本	

六月十日	草丈	一尺二寸	本期間は氣候稍々不順にして低温多雨多濕にして稻の生育に不適當なるに依り生育稍々軟弱の狀態にありて草丈徒長し長きものは一尺三寸九分短きものと雖一尺五寸に達し分蘖少なく調査株三十株中分蘖を始めたるものは僅に十八株にして多きものは三本少なきものは一本の分蘖を見るに過ぎず
	莖稈の細太	太	
	葉色	稍濃	
	葉幅	一分八厘	
	葉長	七寸九分三厘	
	壹株の莖數	四本八分	
六月二十日	草丈	一尺七寸一分五厘	本期間中の氣候は曇天多濕勝ちなりしと雖氣温頗に昇騰し分蘖、伸長著しく增進し草丈の最長一尺八寸六分最短一尺五寸五分葉幅の廣なるもの二分九厘最狹二分五厘葉の長きものは一尺二寸短きもの一尺一分壹株の莖數九本乃至十六本に達せり而して七日頃より稻葉に蚜虫發生し漸次蔓延し被害の虞あるを認め十一日十二日の両日除虫菊石鹼合劑を撒布し驅除を行ひたるに依り遂に被害を免れたり又十九日午後二時二十五分より約十分間近來稀なる降雹ありて稻の莖葉を稍損傷せるも著しき被害なかりき
	莖稈の細太	太	
	葉色	稍々綠	
	葉幅	二分六厘强	
	葉長	一尺一寸二分八厘	
	壹株の本數	十二本九分	
六月三十日	草丈	二尺七厘	本期間中の氣候は殆ど曇天多濕且つ低温なりしに依り稻の發育に著しく不良なるを以て特に管理に注意したるも生育遲緩となり草丈の最長二尺二寸七分最
	莖稈の細太	太	
	葉色	淡綠	

	葉幅	三分二毛	短一尺八寸五分葉長の最長一尺五寸五分最短一尺一寸八分葉幅の廣きもの三分三厘狹きもの二分七厘壹株の本數最多二十三本最少十四本にして稍々肥料不足の感あり
	葉長	一尺三寸八分	
	壹株の本數	十六本七分	
七月十日	草丈	二尺四寸一分三厘	本期間の氣候は多雨、多濕且つ前期平均氣温二十四度四に比し一度二低く殊に水温に至り午前十時に於て一度七午後二時に於て一度の差を生じ漸次昇騰すべき温度却て低温なる等生育遲緩に傾き加之肥料不足の感あるに依り本期に於て硫酸アンモニアの少量を追肥として施用したると七日頃より天候の恢復したるとに依り葉色濃色を呈し生育大ひに進み各區共均一の生育をなし分蘖著しく增進し壹株の本數最多三十四本最少十八本草丈の最長二尺六寸七分最短二尺二寸六分葉幅の最廣三分四厘最狹二分七厘に達したり
	莖稈の細太	太	
	葉色	稍々濃綠	
	葉幅	三分一厘	
	葉長	一尺五寸八分	
	壹株の本數	二十五本三分	
七月二十日	草丈	二尺九寸二分	本期間の氣候は前期間に比し氣温頗に昇騰し連日快晴加ふるに十日より三、四日間田面を乾燥し爾後極めて淺水となし生育を促進せしめたるに依り生育旺盛且つ强剛の度を加へ草丈の最長三尺一寸二分最短
	莖稈の細太	太	
	葉色	淡綠	

日付	項目	成績	摘要
	葉幅	三分四厘	二尺八寸葉の最長二尺九分最短一尺七寸二分最多分蘖數三十五本最少二十本葉幅の廣きもの三分七厘狹きもの三分に達し極めて佳良なる生育をなしつゝあり
	葉長	一尺八寸八分	
	壹株の莖數	二十七本	
八月十日	草丈	三尺七寸四分	本期間の氣候は雨天多く殊に四日五日の暴風雨にて綾川出水し五日午前六時半頃に至り水嵩七八合に達し一時警戒を加へたるも漸次減水し別に被害なくして止みたりと雖天候不順にして胡麻葉枯病發生したるも著しき被害なく穗孕期に入り點々出穗を始め壹株の本數の減じたるは分蘖の遲き不良莖を計上せざるに依る
	莖稈の細太	太	
	葉幅	三分四厘五毛	
	葉長	二尺一分	
	葉色	淡緑	
	壹株の本數	十七本	
八月二十日	草丈	三尺四分	本期間の天候は佳良なりしも前期より發生したる病害未だ恢復せざりしと雖被害甚しからずして十八日出穗揃となり最も早く出穗し異種と認むべき雜穗を拔取り二十日頃に至り漸次垂下するに至れり而して前期間に比し草丈の短少となりたるは草丈を稻の穗首迄として計上したるに依る
	莖稈の細太	太	
	葉色	淡緑	
	葉長	一尺四寸五分	
	葉幅	三分七厘	
	壹株の本數	十七本	
出穗	出穗始	八月十二日	
	出穗期	八月十五日	
	出穗揃	八月十八日	
八月三十日	稈長	三尺一寸五分	本期間の氣候は概ね曇天にして二十六日暴風襲來の警報ありたるに依り防風設備として外柵に簀を吊し田面に水を湛へ稻の株間に繩を張る等防風に努めたるも遂に襲來せずして止み天候恢復したるに依り二十八日全部排水し漸次穗色黃綠色を呈し成熟しつゝあり
	壹株の本數	十六本六分	
	稈の細太	太	
	葉幅	三分七厘	
	葉長	一尺四寸五分	
九月二十日（收穫當時）	稈長	三尺二寸三分	九月上旬の氣候は不順にして稻成熟の進行を妨げたるの感ありしも九月中旬に至り氣候恢復し熟期を促進し完全なる成熟を遂げたり
	壹株莖數	十六本五分	
	成熟期	九月二十日	
	穗長	七寸	
	壹穗の粒數	百二十七	
	壹穗の重量	三十五瓦七	
	籾千粒の重量	二十五瓦四	

第九項　害蟲驅除豫防

本田螟蟲發生豫防として、五月七日、附近農家田岡今次外十二名の農家を山田尋常高等小學校に召集し、螟

蟲驅除豫防として齋田附近即ち田頃、正末、柳谷の三部落に散在したる稻藁の處分に就き、園田縣農事試驗場長、栂木綾歌郡農業技手、岡田山田村長、高尾山田青年會長立會協議會を開き、各關係者に於ても處分法を承諾し、五月八日、栂木農業技手、岡縣農事試驗場技手、指導の下に左記方法を實行することゝなせり。

記

一、宅地其の他田の周圍に積みたる藁は根元六寸位を切斷し、下部は堆肥となし、上部は屋内に密閉し、肥料に供するものは全部切斷し、俵莚其の他繩等の細工用のものは其の儘屋内に貯藏し、入口又は屋根裏等にして螟蟲の匐ひ出づる虞ある場所を嚴重に密閉し、七月九日開放する迄、時々監督をなし愈々發生の虞なきを認め、之れを開扉せり。

五月廿八日、移植と共に齋田外柵約十間を隔たりたる場所にて拾個の誘蛾燈を、毎日午後六時より終夜点火し、午前七時一旦奉仕者邸宅へ取入れ、監督技手之れを調査し、驅除日誌に記入し、直ちに器物を掃除し、油を注ぎ、午後点火の用意をなせり、而して点火誘殺中漸次其の數を減じたるに依り、或は誘蛾燈据付位置不適當なるやを疑ひ、六月廿四日試みに誘蛾燈三個を齋田内に移し点火したるに、外部にあるものに比し著しく増加し、外部点火のもの九個に對し僅に七十五疋なるも内部点火のものは三個に二百三十二疋あり、其の後は全部齋田内に移せり、又六月八日より七月廿六日に至る期間は、隔日又は二日目毎に、女子從事者をして三名又は四名縱列となり、一人の眼界を五株とし、左の蟲取歌を唱へつゝ卵塊を見落さゞる樣、縱横交互に採卵し、卵塊は腰に携へたる竹筒に投入し、幼蟲の匐出づるを防ぎ、各休憩の時、別に備付たる金屬製網張の益蟲保護器に入れ、益蟲を保護し、螟蟲は石油の中に投じ溺死せしめたり。

蟲取の歌

赤松景福氏作

むしはわくなよ御田の稻に
たまごひとつも國の仇
蟲をかるため油をそゝぐ
そゝぐわが身も汗あぶら
御代の惠の御田の風が
吹けば折〱汗は入る

六月廿六日より七月廿九日迄、男子從事者をして採卵と同樣の眼界を定め、螟蟲の喰入たる被害莖を拔除し、綾川磧に於て燒棄せしめたり、又六月四日頃より稻に蚜蟲發生し、同七日漸次蔓延の徵あるにより電話を以て縣農事試驗場昆蟲部技手の出張を請求し、驅除方法を研究し、同九日驅除を行ふ豫定なりしも、雨天のため一日延期し、同十日第一區第二區に對し壹反步に付七合の割を以て石油を注下し、草箒を以て稻を輕く掃き、蚜蟲、浮塵子、螟蛉等を拂ひ落し驅除したる後落水し、直ちに清水を灌入したるも効果十分ならざるに依り、同十一日更に協議し、除蟲菊石鹼合劑を撒布することに決し、水壹斗に石鹼四匁、除蟲菊粉末三匁の割合を以て、一旦沸煮調製し、同日苗代跡地に撒布し、同十一日更に殘部各區に撒布し、藥液の總量壹石七斗(壹反步の用量四斗八升五合)を要せり、而して其の成績佳良にして全部死滅せり、又螟蟲飛來の豫防として齋田隣接地五反餘に對し麥の立毛を買上げ、齋田と同時期に國

の光及び鷹の尾を移植し、以て之を障壁となし、其の飛來を豫防せり。

害蟲調査表

月日	誘殺蛾數 螟蛾	誘殺蛾數 青蟲蛾	誘殺蛾數 雜蛾	採取數 螟蟲卵塊	採取數 同上被害莖	摘要
六月一日	五九疋	九四疋	二三二疋	｜塊	｜	
二日	三三	四一	五〇	｜	｜	
三日	一	一	三	｜	｜	夜間風強し蛾の田中にて斃死せるもの多し
四日	九	一三	一〇	九四	｜	
五日	五七	二三	四三	｜	｜	
六日	一〇三	六七	一四〇	｜	｜	
七日	一〇二	九五	二七〇	一七	｜	
八日	五三	三四	九〇	一六七	｜	
九日	一二一	三二	一四〇	二	｜	
十日	二四	一一	二五	一五二	｜	
計	五六二	四一一	一、〇〇三	四三二	｜	
十一日	一五七	一四二	二二	一四二	｜	
十二日	二二九	五六	二一	一三四	｜	
十三日	一九六	四八	八	｜	｜	
十四日	一九五	二二	七	｜	｜	
十五日	二〇二	二五	一八	｜	｜	
十六日	三三一	二八	三二	二六四	｜	
十七日	四七四	七	一二	二〇〇	｜	
十八日	五三三	七四	一三四	｜	｜	
十九日	三一四	二九	三〇	三一七	五七	
二十日	三五六	五七	二〇	八二六	一三四	
計	二、九八七	四八八	三〇四	一、八八三	一九一	
通計	三、五四九	八九九	一、三〇七	二、三一五	一九一	
廿一日	一九三	三五	一七	四二	一二〇	
廿二日	一〇三	八七	四〇	一、四四二	五六五	
廿三日	一四九	二六	一六	七三	｜	
廿四日	八六	二九	一五	五六三	｜	
廿五日	三〇七	二九	三一	八六九	｜	
廿六日	九六	三	二	｜	九五	
廿七日	三八四	一二	｜	八九六	一、〇三五	
廿八日	二四〇	六	二	｜	｜	
廿九日	二五八	八	二	九四四	七五〇	
三十日	九三〇	一二	一〇	｜	一五〇	

計	二、八四五	二四七	一三五	四、八二九	二、七一五
通計	五、八三二	一、一四六	一、四四二	七、一四四	二、九〇六
七月一日	一、〇二二	一七	三	—	—
二日	八〇〇	六	一二	六五七	三、六〇〇
三日	一、一一九	三七	八	六	—
四日	五〇二	六八	二〇	一三	三、一四〇
五日	三〇七	三六	二七	—	—
六日	二九〇	一三	一〇一	四四七	—
七日	五九八	一一二	一五五	四四一	二、〇〇〇
八日	二九一	六〇	三三	—	、七〇〇
九日	三六〇	八一	二四	—	—
十日	三八八	九七	五四	六九	—
計	五、六七七	五二七	四三七	一、六三三	九、四四〇
通計	一一、五〇九	一、六七三	一、八七八	八、七七七	一二、三四六
十一日	五三九	一七三	四八	—	—
十二日	四三二	九三	一一八	—	—
十三日	三五八	五三	三〇	—	三、四五〇
十四日	—	—	—	—	八、七五〇

十五日	二一三	二二	一六	—	一、四〇〇
十六日	—	—	—	—	四、二〇〇
十七日	—	—	—	—	—
十八日	—	—	—	—	二、三二〇
十九日	—	—	—	—	一、七〇〇
二十日	—	—	—	—	四、四〇〇
計	一、五四二	三四一	二一二	—	三六、二二〇
通計	一三、〇五一	二、〇一四	二、〇九〇	八、七七七	四八、五六六
廿一日	—	—	—	—	六、〇〇〇
廿二日	—	—	—	—	三、一五〇
廿三日	—	—	—	—	三、四七〇
廿四日	—	—	—	—	—
廿五日	—	—	—	—	—
廿六日	—	—	—	—	—
廿七日	—	—	—	—	三、五九〇
廿八日	—	—	—	—	四、五四〇
廿九日	—	—	—	—	二、九四〇
三十日	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	二三、六九〇

通計	一三、〇五一	二、〇一四	二、〇九〇	八、七七七	七二、二五六	
八月一日	—	—	—	—	—	
二日	—	—	—	—	—	
三日	—	—	—	—	—	
四日	—	—	—	—	—	
五日	—	—	—	—	—	
六日	—	—	—	—	六、二〇〇	
計	—	—	—	—	六、二〇〇	
通計	一三、〇五一	二、〇一四	二、〇九〇	八、七七七	七八、四五六	

第十項　防風設備と警戒

暴風襲來の防除は人力の能く防ぎ得べきことにあらずと雖出來得る限の努力を盡し、其の害を輕減せむことに苦慮し、再三研究を重ね、八月十五日に至り、左の計劃を施行することに決せり。

一、齋田周圍の耕作道路及び畦畔には土盛をなし、一尺以上の水を湛へ得るの設備をなすこと、

二、齋田縱横三間毎に長さ五尺の杭を打ち込み、之に竹を結び付け縱二株橫三株毎に薬繩を張ること、

三、齋田の柵を利用し之れに長さ六尺五寸巾三尺五寸の簀を作製して張ること、

四、齋田柵の根元より二間を離れ、二間毎に長さ三尺五寸の杭を打ち込み、十七番線の針金を以て柵を繫ぎ之れが倒伏を防ぐこと、

五、右に要する材料は町村青年會より寄附せるものを使用すること、

以上材料中長さ三尺五寸末口二寸の松杭百八本（西分村青年會、同村在鄕軍人分會寄附）長さ五尺末口三寸の松杭三十八本（山田村民より寄附）竹六七寸廻のもの五十本、（羽床上村青年會寄附）四寸廻のもの百三十七本（枌所村木塲登四太郎寄附）繩八千百三十間（坂出、山內、畑田、陶、瀧宮、羽床、千疋、宇多津、栗熊の各町村青年會及び在鄕軍人分會より寄附）竹簀百七十枚（山田村青年會にて製作）を使用し、竹簀に要する竹は奉仕者に於て買入れ、之を山田村記念館に運び、八月十八日、同二十日、同二十二日の三日間にて約四五寸廻の竹を三尺五寸に切斷し、四ツ割乃至六ツ割とし、割竹の幅を七八分位とし八分廻の繩を以て、竹と竹との間隔を八分位とし、四ヶ所編とし、長さ六尺の簀を製し、防風用に供せり、其の製造夫役二百五人を要したり。

八月二十五日午后八時、園田縣農事試驗塲長より暴風警報の通知ありしを以て、黑川縣農業技手直ちに村役塲に移牒し、奉仕者、村長協議の上、齋田周圍には竹簀を張り、齋田には水を湛へることゝし、其の作業は同二十六日早朝より着手することにせり、當日は恰も舊盆會にて、村民盆踊をなせるを以て、黑川技手其の塲所に就き、男耕作從事者を集め、警報の來れる旨を告げ、其の內八名を指名し、廿六日は早朝出勤すべきを命じ、天候に注意し警戒せしも、其の夜は無事に終れり。

八月二十六日、午前五時三十分、八名の男耕作從事者をして竹柵の上端に橫竹を結付け、之れに竹簀を張り針金を以て控へしむ、正午一先從事者を解散せり、然るに同日午后二時三十分、再び警報に接し、同四時更に男耕作從事者の全部を召集し、五時より第一、二區を通じて豫定の計劃に依り、南北二株、東西三株毎に

縦横に縄を張り、一方湛水をなす爲め、人夫二十名を召集し、午前七時より灌漑に着手、揚水中喞筒に故障を生じ、暫時休憩、故障の個所を調査し、之れに修繕を施し、午后七時後より灌漑し、尚ほ引續き夜間揚水の必要を認め、更に二十名の人夫を召集し、晝間のものと交代せしめ、壹臺のポンプを二人掛りにて、間斷なく揚水し、防風の準備をなしたるも暴風襲來の模樣なく、廿六日午前十時、一應人夫を解散したるも、同日午后復々警報ありて低氣壓は屋久島方面にあり四國方面を襲ふは、明二十七日午前三四時頃なるべしとの報あり、黑川、三浦の両技手は直に男耕作從事者全部及び村民二十名を召集し、齋田に湛水せり、同日午后七時園田塲長來着、大に指揮監督に努め、警戒をなし、午后十一時に至るも暴風襲來の模樣なきを以て、多度津測候所に問合せたるに、其の返電に低氣壓の最も强かりしは午后五時頃にして、目下土佐沖を通過中なれば最早危險なかる可しとあり、二十六日午前零時三十分警戒を解き、一同安心して退散し、二十七日、前日湛水せる水を排水せり、而して九月六日、午后二時、多度津測候所より左の電報到着せり、

警　報　アニネウルヨ

（解）　雨强かるべし、低氣壓北緯二六度より二七度東經一三〇度より一三一度（琉球の東）にありて、七百三十粍を示し、北西に進む、

尚ほ當日天氣豫報　アニラ

（解）　東の風强し　雨

七日午后八時三十分縣廳より左の電報あり、

警　報

颱風の狀況。　颱風は沖縄島東南に於て北に轉じ、七日午后二時、大島の南東五十浬の海上にあり、其の颱風は若し北に轉ずれば、七日午后四時より九日午前に亘りて、本邦を襲ひ、暴風を起す虞あり、注意を要す。

同十時五分、綾歌郡長より更に同樣の通報ありたり、

又八日午前四時三十分、左の電報あり、

警　報　　暴風雨の虞あり。

低氣壓の位置、北緯二七度より二八度、東經一三〇度より一三一度、低氣壓の示度七二六粍、低氣壓進行の方位は北東、

八日午前六時三十分、樋口郡長及び園田塲長より左の通知あり。

颱風は目下豫定の通り進行中にありて、午后襲來するの虞あり、一般に注意を要す。

八日午前七時三十分、多度津測候所より、左の電報あり、

颱風は七日の夜、淹美大嶋の東三十浬の海上にありて、中心は七百三十粍を示し、北に轉じ、北東に向つて進行せり、之れを以て本嶋西部は天候險惡に陷れり、而して此の風の四國附近を通過するは八日の夜にして、本縣地方は同日午后より暴風雨の虞あり、風は東北より北西に轉じ、九日の朝に至り靜穩に歸する見込なり。

同日午后五時二十分、郡役所より多度津測候所へ問合に對し、左の返信あり、

今朝報告後、中央氣象臺よりの報告なきも、風は九州東海岸を通過する見込なるに依り、何分の報告ある

迄、從來の通り警戒せられたし。

八日午后六時三十分、多度津測候所發、左の電話ありたる旨、縣及び郡役所より通牒ありたり、

颱風報告

八日午後二時、颱風は鹿兒嶋にありて、七百二十粍を示し、北の方向に進行中なり、其の颱風は北東に轉行するの傾きありて、今夜、中國西部を突き、明朝日本海を去るべし、本縣地方は風位南西に轉じ、暴風雨起る模樣あり、警戒を要す。

以上の警報頻々として來り、同日勤務中の栫木、黑川の両委員は絕へず注意を加へ、警戒の準備中、天候愈々險惡なりとの通知に接し、七日午后九時多木齋田事務員を招き、男耕作從事者全員及び村民二十名の非常召集をなし、同十一時より續々到着し、八日午前四時迄に全部出勤し、先着のものより漸次任務に就き、周圍の防風設備を整へ、同四時より前日未了の防風用の繩を張り、尙ほ風位轉更したる塲合の準備として、更に西側の竹柵に簀を懸垂し、同七時三十分全く完了せり、而して午前三時より二臺の喞筒を以て間斷なく湛水し、同九時、更に村民二十名を召集し、之に交代せしめ、引續き揚水に努め、同午後八時、尙ほ村民二十名を召集し、之に交代せしめ絕へず揚水し、九日午前二時に至り、全く中止し、一同開散せり、而して警戒の爲、同八日午前四時、岡田村長、森助役、同五時、三浦委員、同六時、郡長及び園田塲長來着し、指揮監督に從事し、郡長、園田、栫木、黑川、其の他の委員及び耕作從事者全部七日の夜より九日午前四時、風凪迄三十餘時間、不眠不休以て警戒に努めたるも、地理上暴風遂に襲來せず、被害を免れたり、依て電話を以て左の通り報告せり、

九日午前二時頃より風やむ、四時三十分一應召集人夫を解散せり、稻は倒伏を免れ被害を認めず、

綾歌郡長
農事試驗塲長

知事宛

尙ほ書面にて左の通報告したり、

齋田暴風警戒報告

齋田には豫て竹柵に竹簀を張り、防風に備へ置きたるも、七日午後八時三十分の警報に依り、更に耕作從事者全部及び揚水夫二十名を召集し、午前三時より灌水に着手し、今尙繼續中なり、耕作從事者は天明より齋田內に繩張を施し、午前六時三十分、終了し、尙ほ萬一を警戒中なり、齋田周圍の稻は己に倒伏したるも、齋田內の稻は倒伏を免れ、目下の處被害を認めず。

大正五年九月八日午後六時

綾歌郡長
農事試驗塲長

知事宛

第四節　收穫

第一項　準備

第一目　稻架の設備

稲架の延長は二百四十六間にして、二間毎に三叉及び二叉を以て支柱とし、稲架一組は二十四間のもの十組餘に別ち、用材は六寸乃至七寸廻りの竹を長さ二間に切斷し、百二十三本を使用し、三叉及び二叉に用ゆる竹は四寸廻りのものを長さ六尺に切り、尖端を繩にて結びたるもの二百四十六組を使用し、地上四尺五寸即ち目通り位の高さに稲架を設くるの用意をなせり。

第二目　籾乾臺

籾乾臺は刈取後、第三、四號地に之を設け、臺の高さは、長さ二尺五寸の杭を高さ一尺五寸に幅一間の間に三本宛打込み、其の上部は長さ二間の六分槓を釘を以て打付け、其の上に山田青年會に於て謹製したる竹簀(防風設備の項に記せるもの)を縦に擴げ動搖せざる樣、更に釘付とせり。

第三目　籾乾燥の豫行

籾の乾燥は技術部に於ける作業中、最も苦慮したる行事にて、若し乾燥不良ならんか、直ちに米質に影響するのみならず、供納上頗る懸念すべきものあり、是に於て樗木、黒川両委員擔任となり、九月二日、豫て用意したる鷹の尾を刈取り、六株を壹握となし、一旦刈倒したるもの二握を壹把とし、高さ四尺五寸の單架式稲架に掛け乾燥したる後ち扱落し、更に莚に擴げ莚乾をなし、籾摺を行ひ、胴割米の多少、品質の良否を檢し其の結果、架干三日、莚干一日位を適當と認めたり、其の成績左の如し。

稲乾燥試驗成績

試驗別	千粒中の完全米	千粒中の屑米	千粒中の胴割米	摘要
第一號	架干三日莚干一日	八七一、粒	一〇五、粒	二四、粒	品質可良なりしも乾燥聊か不足の感ありたり
第二號	架干三日莚干二日	八〇五、	一〇五、	九二、	乾燥、品質共に適當なりしも品質第三號に及ばざりき
第三號	架干四日莚干一日	八八九、	七七、	三四、	品質尤も可良なりしも乾燥度に過ぐるの傾向ありたり
第四號	雨に逢はざるもの架干二日莚干一日	八七九、	一〇四、	一七、	乾燥、品質共に第一號に次げり
第五號	雨に逢はざるもの架干二日莚干二日	八八五、	八八、	四七、	乾燥、品質ともに第二號に比し大差なかりき

猶ほ本縣は、此の期間に於ける、氣候甚だ不良にして、既往二十三ヶ年に於ける、平均降雨日數(自九月一日至仝三十日)十五日四分曇天日數十三日晴天日數僅に一日六分にして籾の乾燥に、最も困難なる時なり、故に萬一の場合を慮り、火力乾燥の準備として、縣立農事試驗場に於て新調せる、オリーブ果乾燥器(木製にして恰も乾繭器に酷似し幅八尺長さ一丈二尺高さ五尺、内部に二十二層の段を設け、幅三尺長さ四尺の竹籠九十六枚を挿入し、壹枚に付籾三升、壹回の乾燥量二石八斗八升)を同場の新築せる農具舍に裝置し、所定の籾を入れ、下部より火力を以て熱を送るの用意を整へ、九月六日、奉仕者より火力乾燥試驗用として、早稲鷹の尾籾を送付せるを以て、平野技手九月七日、九日、十一日の三回に分ち試驗を施行せり、其の方法は籠に籾を入れ置き、先づ火力を以て乾燥器内の氣温を所定の温度に達せしめたる後ち籠を挿入し、二時間毎に上下の位置を轉換して乾度の一樣を計り、時々器内の温度を檢し火力の加減をなし、晝夜兼行試驗を續行せり、其の成績左の如し。

籾火力乾燥試驗成績

試驗別		乾燥前籾千粒重量	乾燥后籾千粒重量	玄米千粒中完全米	同上屑米	同上胴割米	玄米千粒の重量	硬度	品質
第一	攝氏三十度以上三十五度以下の温度に四十八時間乾燥	三一、七瓦	二七、〇瓦	八六六、粒	一一八、粒	一六、粒	二二、〇瓦	一、〇二七	上
第二	攝氏三十五度以上四十度以下の温度に三十三時間乾燥	三二、五	二六、七	八三七、	一五六、	七、	二一、九	〇、九二〇	下
第三	攝氏四十五度以上五十度以下の温度に十六時間乾燥	二六、五	二六、〇	六六六、	一六〇、	一七四、	二一、二	一、八八七	中

右表の如く第一は乾燥適當にして胴割米も少なく、品質可良にして陽乾の架干三日迠干一日位のものに相當し、第二は胴割米極めて少なきも乾度不充分にして米質不良、第三は乾燥度に過ぎ胴割米甚だ多く、要するに火力乾燥は低温を以て長時間乾燥するを可とし短時間の乾燥は不可なるを認めり、

第二項　稻刈

九月二十日、刈取の豫定にて從事者を召集し、刈取の準備をなしたるも、降雨の爲め之れを中止し、同廿二日午前八時より、漸次晴れ模様なるを認め、同日男子從事者全部を召集し、午前九時より刈取りに着手し、一人四株づゝを刈り、六株を一握りとして一旦刈干となし、午后他の藁を以て二握を一把に束ね、齋田内の一、二號の兩區へ豫め用意したる稻架を組立て、之れに稻を掛け乾燥せり、而して乾燥の日數は三日間の豫定にて、乾燥中二十三日天氣變るの特報に接し、午後稻把を作業室に取入れ、廿四日更に取出し、架干をなせり、然るに當日は陰晴定まらず、午后二時、微雨あり、同十一時、又々曇模様となり、廿五日午前零時三十分、微雨あり、警戒の爲人夫七名を急に召集し、取入の準備をなすと共に、多度津測候所へ電報を以て問合せを發したるも、一時三十分に至り、晴模様となりたると、測候所より小雨あるも格別のことなしとの返電ありたるとに依り、一時三十分一同解散せり、而して九月廿六日午前七時、男子六名女子二十一名の從事者をして稻扱に從事せしめ、籾に砂の混入せざると清淨とを保つ爲、特に作りたる光實式稻扱箱四臺に八挺の稻扱を取付たるものを使用し、稻扱壹挺に二人づゝ配置し、一人は扱き一人は稻を適度に分ち、之れを扱手に渡し、作業の迅速を計り、他の女子は籾の篩分簸返に從事し、男は稻把の蒐集、藁把籾の運搬等に從事し、同日午后四時終了せり。

第三項　籾乾燥

九月廿八日午前九時、前日より收納したる籾を取出し、豫て設備したる籾乾臺に筵を擴げ、筵一枚に約一斗の籾を入れ、十一時三十分まで乾燥せり、乾燥中急劇なる日光の直射を避くる爲、十一時三十分より午后一時三十分迄、約二時間筵を折たゝみ、覆を施し、更に籾を掻擴げ、午后四時迄乾燥せり、而して乾燥中は一時間毎に上下打返し能く攪拌し、乾燥の均一を計り、乾燥の程度豫定に達せしに依り、同日にて乾燥を終り、收納舍に納め三日間貯藏せり。

第四項　籾摺

籾摺臼の新なるものは、碎米を生すること多きを以て、豫め其の摺加減を試むるの必要を認め、九月十九日太田主の栽培に係る稻、鷹の尾の籾を以て齒合せを行ひ、不備の点を修繕し、更に米齒を均らし、碎米の生成を少なからしむの用意をなし、十月二日、三日の兩日、午前七時より耕作從事者男子七名、女子二名をし

て曩に乾燥貯藏したる籾を貯藏室より取出し、本郡西庄村野田文次郎の製作したる野田式籾摺臼を使用し、籾摺をなし、同郡坂出町濱田幸四郎の謹製したる唐箕を以て篩分け、立篩に三回流し掛け籾を分ち、丸山式砂抜篩を使用し、除砂を行へり、作業中清淨を保つ爲、監督者、從事者共に手袋、足袋を穿ち、直接米に觸れざる樣注意し、終了后は四斗入の叺に納め、三ヶ所結束し、縱繩を掛け精白場へ運搬の用意をなせり、而して玄米收量左の如し。

一、上米	五石一斗二升八合
一、中米	五斗四升七合
一、中屑米	一斗二升五合
一、碎米	一斗七升七合
合計	五石九斗七升七合

第五節　調製

第一項　精白

精白は始め古代式の木臼を使用し、手杵を以て精搗の豫定なりしも、大正三年以來幾多の研究に依り、之れを新式の精穀機を使用することに變更し、大正三年十二月、山田村に於て水車及び石油發動機投杵式の二種に就き、試驗を施行したるも、未だ十分なる成績を得ず、遂に此の試驗を動力の便利なる坂出町に移し、園田農事試驗場長、鈴木丸龜稅務監督局鑑定課技手兼香川縣技師、平野農事試驗場技手、榑木綾歌郡農業技手、津下米穀檢查所主事立會ひ、各種の精穀機を調査し、坂出町酒造家鎌田大三郎精白場据付の大阪市西區江戶堀二丁目今橋芳松製作今橋式精穀機(磨擦機)の實地試驗を行ひ、玄米四斗を約二時間に十二回磨擦したる後、投杵搗の臼に入れ、二十時間のものと三十六時間のものと二種に別ち、試驗を施行し、稍々完全に精白すべき見込を得たりと雖、尙研究するの必要を感じ、他の機械を比較審查し、坂出町津島龜吉精米場に据付たる廣島縣福山町村上邦三の製作したる村上式四連座(投杵)の構造稍々適當なるを認め、更に鈴木技師、榑木農業技手、津下主事主任となり、精白の試驗を行ひ、種々講究の結果、初めは今橋式精穀機に據り、米の芽を取り、愈々芽の脫落したるを見て、村上式四連座を以て、十五時間餘精白するときは最も純白なる白米を得ることを認め、更に數回の試驗を重ね、精白機は今橋式、村上式の二種を使用することに決し、手續中、六月二十日大阪市西區九條中通一丁目廣瀨小六の發賣に係る東京清水式無砂精穀機寄附の申出あり、六月二十日より同二十一日高松市東濱難波精米場に於て精搗試驗を行ひ、優良と認め、前記の二機と共に之れを採用することゝなり、山田村記念館前に建坪十五坪の精穀場(桁行五間、梁行三間、高さ二間)を新築し、今橋式清水式の各壹臺村上式四連座二臺を据付、動力は大阪市北區上福島二丁目伏田清三郎製作の伏田式瓦斯發動機(十馬力)を据付け、之れに要する帶革は大阪市北區安治川通一丁目若田虎三郎の製作したるものを使用し、九月廿八日据付工事を完了し、九月三十日十月一日試運轉を行ひ、十月四日より精搗豫行をなし、各要部の調節を整へ、同月六日午前十時三十分より愈々精搗を開始し、園田、鈴木、平野、榑木、水內の各委員の監督の許に精穀に最も經驗を有する、左記のものを指名し之れに從事せしめたり。

精搗係

坂出町　津島才助

同　木山音次

同　山本善七　同　宮本吉之助

同　久米市次　同　久米仲三郎

發動機係

坂出町　常盤市助　大阪市北區福島二丁目　伏田清三郎方職工二名

尙、精白場整理及び運搬係として、耕作從事者、川西積、渡邊肇、末澤清、大林富太郎、高橋久太、蓮井義夫の六名之れに從事し、同八日午後九時迄、各員交代を以て、間斷なく精搗し、精搗中約三時間毎に大なる立篩を以て除糠を行ひ、碎米を除きたるものを、四斗入の叺に納め、布磨場へ送れり、精穀成績表左の如し。

精白の狀況

月日	精穀機の名稱	玄米石數	白米石數	搗減歩合	搗白着手の時刻	搗白終了時刻	搗白時間數
十月六日	敷島	〇、四三三石	—	—	午前十時三十分	午前十一時五分	三十五分
	村上	—	〇、三七八	—	同十一時五分	七日午前二時五分	十五時間
	小計	〇、四三三	〇、三七八	一、二七割	—	—	十五時間三十五分
	敷島	〇、四三三	—	—	午前十一時七分	午前十一時四十七分	三十八分
	村上	—	〇、三八七	—	同十一時四十七分	七日午前二時四十七分	十五時間
	小計	〇、四三三	〇、三八七	一、〇七	—	—	十五時間三十八分
	清水	〇、八六六	—	—	午前十時三十四分	午前十一時二十四分	五十分
	村上	—	〇、七七六	—	同十一時二十四分	七日午前三時二十四分	十五時間
	小計	〇、八六六	〇、七七六	一、〇四	—	—	十五時間五十分
	計	一、七三二	一、五四一	一、一一	—	—	—
十月七日	敷島	〇、四〇〇	—	—	午前七時二分	午前八時二十分	一時間十七分
	村上	—	〇、三六二	—	同八時二十七分	八日午前五時	二十時間三十三分
	小計	〇、四〇〇	〇、三六二	〇、九五	—	—	二十一時間五十分
	敷島	〇、四〇〇	—	—	午前八時二十一分	午前九時二十八分	一時間七分
	村上	—	〇、三六七	—	同九時二十八分	同七時十分	二十一時間三十二分
	小計	〇、四〇〇	〇、三六七	〇、八三	—	—	二十二時間三十九分
	清水	〇、八六六	—	—	午前七時七分	午前八時	五十三分
	村上	—	〇、七七一	—	同八時八分	午后十一時八分	十五時間
	小計	〇、八六六	〇、七七一	一、一〇	—	—	十五時間五十三分
	計	一、六六六	一、五〇〇	一、〇〇	—	—	—

十月八日 清水	○、八○○	―	―	午前五時五十一分	午前六時五十二分	一時間一分
村上	―	○、七二四	―	同六時五十四分	午后九時四十五分	十四時間五十一分
小計	○、八○○	○、七二四	○、九一	―	―	十五時間四十二分
清水	○、九三○	―	―	午前七時十分	午后八時三十分	五十九分
村上	―	○、七九一	―	―	―	十三時間十八分
小計	○、九三○	○、七九一	一、五○	―	―	十三時間十八分
計	一、七三○	一、五一五	一、二四	―	―	―
合計	五、一二八	四、五五六	一、一一六	―	―	―

外に

屑米　四升
碎米　三升
足元米　二升
計　九升

備考

一、敷島式は一回に約四斗を精白し、之を村上式二斗入臼二個を以て搗精せり。

二、清水式は一回に約八斗を精白し、之れを村上式二斗入臼四個を以て搗精せり。

三、村上式の搗精中は約二時間毎に、各臼の米の交換をなし、精白程度の均一を計れり。

四、除糠は村上式、搗精中、二回宛流万石に掛けて行ひたり。

五、動力は十馬力伏田式吸入瓦斯發動機を使用し、其の回轉數は一分間二百五十回轉なり。

六、敷島式は一分間に四百七十回、清水式は四百回、村上式は百五十回轉なり。

七、搗精中の室内温度は二十三度乃至二十六度、精搗前の米の温度は二十三度にして、敷島式及び清水式にて磨擦したる時の米の温度は三十五六度内外にして、村上式三十三度内外なり。

第二項　布磨

布磨は十月七日より仝十二日迄の六日間、杤所、西分、千疋、畑田、陶、瀧宮、羽床、羽床上、山田の青年會員を召集し、山田村記念館の一室に支柱を設け、繩を以て約一間の竹を懸垂し、之れに長さ三尺五寸の晒木綿にて製したる袋に、白米五合を入れ両端を封し、垂したる竹一組に十二袋を結付け、二人向ひ合せに列び、拍子を揃へ、徐々動搖せしめ、磨擦すること六時間四十分、光澤の顯はれたるものを新に製したる木箱に納め、粒選部に送り、粒選を行ひたるものを、十月十三、十四の両日、女耕作從事者を召集し、長さ四尺の絹袋にて前同樣の方法に據り、貳時間再布磨を行へり。

大嘗祭供納米並に大餐米布磨成績表　（大正四年十月十四日調）

月日 天候	從事者	布磨時間	布磨量	仕上米	仕上歩合	備考
七日 雨天	籾所村 七八	第一回 自前九時至后一時 四時間 第二回 自后一時至后五時 四時間	石 、四〇〇〇 、一〇〇〇 計 、五〇〇〇	、四六六四 、三八八九 、〇七七五	割 、九三三	磨擦仕上米四石一斗五升一合三勺より供納米及び大饗用を粒選せり
八日 晴	山内村 三三 畑田村 三三 計 六六	自前九時廿分至后四時 六時間四十分	、五四〇〇	、四七七五	、八八四	
九日 晴	瀧宮村 四〇 千疋村 二六 計 六六	自前九時二十分至后四時 六時間四十分	、九〇〇〇	、七九五〇	、八八三	
十日 曇	羽床村 二一 羽床上村 二二 西分村 二四 畑田村 一 計 六八	自前九時二十分至后四時二十分	、八七八〇	、七〇一一 大餐米 、一〇五〇	、九一八	
十一日 晴	陶村 五四	同	、八八二〇	、八〇三〇	、九一〇	
十二日 曇	山田村 六七	同	、八七七〇	、八〇三三	、九一六	
合計	三九九		四、五五六	四、一五一三	、九一一	

第三項　粒選

粒選は十月八日午前九時より同十三日に至る六日間に亘り、山田村記念公會堂大廣間に高さ一尺幅二尺四寸長さ四十五間の臺を設け、之に清淨なる白布を敷き、二百六十人を收容すべき準備をなし、特に調製したる黑盆を置き、配付せられたる米を少量づゝ取出し、箆を以て一粒づゝ丁寧なる選別を行ひ、別に配付せられたる小袋内へ各人毎に之を納め、監督者の詳細なる檢查を請け、完全なるものは新に調製したる檜箱に納め、粒選後、再布磨を施し、再び粒選を行ひたる后、十月十五日納櫃式を擧行し、縣より差廻されたる唐櫃に納め、發送の準備をなせり、而して粒選は日々多數の人員之に從事するを以て、園田場長、淸田同場技師、吉田、平野、樗木、黑川、三浦の縣郡委員、水內米穀檢查所監督、津下綾歌郡出張所主事の外、各郡駐在の縣農業技手、米穀檢查員等補助員となり、粒選を監督し、從事者は總て一定の淨衣を纏ひ、口覆を施し粒選に要する器具を臺上に配置したる後、園田場長より粒選に關する注意を聞き、關係者一同祓を受け粒選に從事し、米を盆上に少し宛擴げ、箆を以て胴割米、屑米、碎米、形狀不正なるものを除き、粒選を終りたるものは監督者の檢閲を受け、不良なるものは更に再選を命じ、嚴密なる粒選を行ひたり、其の成績左の如し。

主基齋田供納米粒選成績一覽表

月日 天候	從事人員	粒選時間	粒選石數	一人當粒選量	屑米量	粒選歩合	摘要
八日 晴天	縣立農林學校生徒一一人 本郡立綾歌農業學校生徒一五〇 本郡立主基農林學校生徒五七 計二一八	午前九時十分着手 午后四時終る	〇、二〇四三石	〇、九四合	〇、一六〇三石	〇、五六〇	豫備米とす
九日 晴天	加茂七、府中一五、端岡二〇、山内一一、畑田一一、陶一七、瀧宮一三、山田四一、川津二五、飯野二七、千疋九、岡田二五、坂本二三、郡農會技手七、 計二五一	午前八時十分着手 午后四時四十分終る	〇、三〇八〇	一、二三	〇、一三三〇	〇、六九八	
十日 晴天	羽床七、羽床上九、西分一〇、法勳寺七、富熊一一、栗熊一五、粉所二五、縣下米穀生産檢査員一二七、美合七、(半日) 計二一八	午前九時着手 午后四時四十分終る	〇、二八四五	一、二七	〇、一三〇〇	〇、六八七	一人粒選歩合は計人員より三人五分を扣へて計算す
自十一日午后 至十二日午前 曇天	美合七、(半日) 長炭九、造田八、土器一四、川西一五、 本縣立師範學校生徒一七七 計二三〇	午前九時着手 午后四時五十分終る	〇、二六七九	一、一八	〇、一四六二	〇、六四七	同上
自十二日午后 至十三日午前 晴天	西庄八、坂出五八、金山一六、林田三二、松山一六、王越一〇、宇多津一三、香川郡立實業學校生徒一二三 計二七六		〇、三七四〇	一、三六	〇、一五六二	〇、七〇五	
合計	一一九三 但し半日宛両日に渉るもの七人あり之れを引き去れば 一一八六		一、四三八七 内豫備米 〇、二〇四三 差引 一、二三四四	一、二二	〇、七二五七	〇、六六五	

大嘗祭主基齋田供納米再粒選成績表

日	従事人員	従事時間	粒選石數	屑米量	粒選歩合	備考
十四日	耕作者 男 三一人 耕作者 女 三七 山田青年會 七 計 七五	八時間	、八〇〇石	二一合	九七、三	午后三時より耕作者女子十六人増す
十五日	耕作者 男女 五七	四時間	、三八〇	一二	九七、〇	
計	一三二		一、一八〇	三三		

大嘗祭主基齋田供納米絹磨成績表

日	従事人員	絹磨時間	絹磨量	仕上米	仕上歩合	備考
十三日	耕作者 男子 二九	六時間	豫備米 、二〇四石 供納米 、六三五	、六二二石	九八、〇	
十四日	耕作者 女子 一六	六時間	、六〇〇	、五九一	九八、五	
計	四五		供納米 一、二三五石 豫備米 、二〇四	一、二一三石		

第六節　齋田耕作従事人員

業務		人夫使役延人員
苗代	選種、苗代整地、蒔付、除草、苗代周圍の設備、苗代灌漑、	四拾九人
本田耕作	本田整地、堆肥製造、挿秧、除草、害蟲驅除、防風設備、雜穗扳除、	六百五拾九人
本田灌漑	灌漑	貳百貳拾五人
收穫	刈取、籾乾燥、籾摺、籾乾燥設備、	百七拾五人
雜務	齋田內外道路式場等の除草、注連繩取換へ、田植豫行、籾摺豫行、農具整理、其の他の雜役、	百六人
精白	精白手傳、精白運搬、	五拾壹人
布磨	供納米布磨、同再布磨、	貳百五拾五人
粒選	供納米粒選、同再粒選、	千五百貳拾四人
合計		參千四拾四人

第七節　主基齋田地の氣象

畏くも主基地方と勅定あらせられたる香川縣(綾歌郡山田村大字山田上)の主基齋田に於ける作業行事の一と

して、大正四年四月十二日を以て氣象觀測を開始し、爾來日を重ぬること百八十七、十月十五日を以て觀測を完了したり。

主基齋田地に於ける氣象觀測の成績は左記の各表に示す所の如くにして、始め苗代播種後の旬日間は氣候冷濕なりしも、五月に入り天候適順頗る晴燥に經過し、挿秧後の六月は稍暖濕に過ぎしも晴雨の案配適宜にして七月は高温晴燥を致し、出穗開花期なる八月上旬は天氣再三不良且つ冷濕なりしも中旬以後は概して順當を保ち、成熟期の九月上旬は稍陰濕に失せしも中旬以後は天候再び順調に復して、秋晴高温を示したり。

斯の如く本年氣候經過の良好なりしことは實に近年稀に看る所にして且又夏秋の交、颱風の去來三回に追ひしも毎に何等の影響を被らす尚は齋田行事の三大式なる、祓式田植式及拔穗式の當日天氣常に好晴なりしが如き寔に皆慶幸の至りなりしとす。

主基齋田太田主の次男、岩瀨梅太郎氏は始終齋田地氣象觀測の任に當りたり、茲に記して感謝の意を表す。

凡例 温度は攝氏、濕度は百分率、雲量は零より十に至る比例に據る、風向は八方位、風力は軟和疾强烈颶の六階級に分つ。
降水量蒸發量は粍を以て示し毎日午前十時に測り之を前日欄に記す。日照時數は眞太陽時を用ふ。

大正四年四月氣象表

日時＼種目	午前十時現象 氣温	濕度	風向	風力	雲量	天氣	氣温 最高	最低	較差	日照時數	降水量	蒸發量	記事摘要
十二日	一三、九	八〇	北	疾	一〇	曇	二三、二	一二、六	一〇、六	五、二	―	三、三	早天雨、輕雷
十三日	二〇、七	五二	北	和	〇	快晴	二三、七	一一、七	一二、〇	九、四	九、七	三、六	夜雨
十四日	一二、四	五八	北	軟	一〇	曇	一七、〇	一〇、七	六、三	五、九	―	三、五	―
十五日	一〇、九	六二	東	軟	一〇	曇	一四、九	三、四	一一、五	〇、〇	〇、九	〇、六	午後小雨
十六日	一四、八	七〇	北	軟	一〇	曇	一八、一	七、八	一〇、三	三、三	―	二、一	祓式
十七日	一七、七	六九	北	軟	九	曇	二〇、〇	九、二	一〇、八	二、一	一三、六	一、一	午後雨
十八日	一四、五	七六	南東	軟	八	曇	一五、四	一〇、五	四、九	一、一	一五、一	一、六	―
十九日	九、五	九六	北東	軟	一〇	雨	一五、〇	八、四	六、六	〇、〇	二七、〇	〇、〇	未明來雨
二十日	一四、一	七九	―	静	一〇	曇	一八、一	九、五	八、六	四、三	二、七	二、三	播種
廿一日	一〇、八	九六	北	軟	一〇	雨	一四、五	九、一	五、四	〇、〇	二、五	〇、六	午前小雨
廿二日	一四、三	六六	北	和	一〇	曇	一六、二	一〇、六	五、六	三、四	―	二、七	―
廿三日	一二、六	四九	北	軟	一〇	曇	一五、一	二、九	一三、三	二、一	〇、四	三、一	夜小雨
廿四日	一二、九	四五	北	軟	八	曇	一四、九	三、一	一二、七	七、四	―	三、五	―
廿五日	一三、四	六一	北	和	五	晴	一七、二	二、一	一五、一	一〇、四	―	三、九	―
廿六日	一三、二	六七	北	和	一〇	曇	一六、二	七、一	九、一	〇、四	一、三	一、四	午後小雨
廿七日	一五、八	四三	北	和	一〇	曇	一七、五	八、六	八、九	〇、七	四一、三	〇、一	午後雨
廿八日	一四、六	一〇〇	北	軟	一〇	雨	二三、五	一三、六	九、九	〇、〇	一、〇	〇、二	雨後曇
廿九日	一八、九	一〇〇	北西	軟	一〇	曇	二〇、四	一四、〇	六、四	四、五	―	二、一	早朝小雨
三十日	一七、六	四五	北東	軟	四	晴	二〇、八	六、九	一四、〇	八、四	―	四、六	―
全月	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―

大正四年五月氣象表

日次＼種目	午前十時現象 氣温	濕度	風向	風力	雲量	天氣	氣温 最高	最低	較差	日照時數	降水量	蒸發量	午前十時田水温	午後二時田水温	平均	記事摘要
一日	一四、五	五九	北東	疾	一〇	曇	一八、九	七、三	一一、六	六、八	〇、八	三、七	一八、五	二七、〇	二二、七五	―
二日	一一、九	九四	南	軟	一〇	雨	一五、九	七、一	八、八	〇、〇	六、三	〇、五	一三、五	一五、五	一四、五〇	曇朝來小雨
三日	一五、七	六四	北	和	九	晴	一九、九	六、六	一三、三	九、六	―	五、〇	一六、〇	二七、〇	二一、五〇	―
四日	一七、六	五五	北東	和	六	晴	二〇、一	六、三	一三、八	一〇、二	―	四、八	二三、二	二九、二	二七、二〇	―
五日	一九、二	五一	北西	和	一	快晴	二三、二	七、三	一五、九	一〇、七	―	五、一	二〇、〇	三二、〇	二六、五〇	―
六日	二〇、九	四九	北	和	〇	快晴	二六、六	五、七	二〇、九	一〇、七	―	五、二	二八、〇	三三、五	三一、二五	―
七日	二一、九	五〇	北東	軟	〇	快晴	二七、五	七、二	二〇、三	一〇、五	―	五、七	二八、三	三三、〇	三一、一五	―
八日	二二、三	四三	北	軟	一	快晴	二五、五	七、九	一七、六	一〇、五	―	六、〇	二八、一	三五、七	三〇、九〇	―
九日	二〇、五	六三	北東	軟	一〇	曇	二四、〇	八、二	一五、八	九、七	―	三、九	二四、〇	三三、七	二八、二〇	―
十日	一九、六	七八	北	軟	一〇	曇	二〇、一	一三、一	七、〇	〇、三	五三、〇	〇、〇	二三、三	一八、九	二〇、六〇	午後雨

十一日	一九、一	九二	北	和	一〇	雨	一九、七	一五、一	四、六	一〇、〇	〇、五	二、二	二一、〇	二三、〇	二二、五〇	午前小雨
十二日	一九、三	五九	北西	和	九	曇	二二、六	一三、五	八、一	一〇、〇	四、三	五、八	二五、七	二九、〇	二七、四五	夕雷雨
十三日	一六、六	六八	北	軟	八	曇	一八、九	九、三	九、六	三、六	|	二、九	二三、七	二八、二	二五、九〇	|
十四日	一八、一	六四	北	和	八	曇	二二、九	八、一	一三、八	九、二	|	四、二	二四、〇	三〇、〇	二七、〇〇	|
十五日	一九、六	七一	北	和	一	快晴	二三、五	六、七	一六、八	八、一	一、五	四、五	二四、〇	三一、〇	二七、五〇	|
十六日	一八、八	七四	東	疾	一〇	曇	二一、一	一四、〇	七、一	〇、九	二七、二	二、四	二三、〇	二四、〇	二三、〇〇	未明微雨午後雨
十七日	一八、九	六四	北西	和	五	晴	一九、九	一三、四	六、五	三、五	〇、一	三、三	二三、〇	二六、〇	二四、五〇	|
十八日	一九、四	六四	北西	軟	三	晴	二三、五	一〇、四	一三、一	一二、三	〇、〇	四、二	二五、〇	三四、〇	二九、五〇	|
十九日	二三、八	五七	北	和	九	曇	二五、〇	一三、六	一三、四	五、〇	|	四、六	二四、〇	三一、〇	二七、五〇	朝微雨
二十日	一六、五	五〇	北西	和	一	快晴	一九、六	一二、五	七、一	一一、〇	|	四、八	二〇、〇	三〇、〇	二五、〇〇	|
廿一日	一七、二	六三	北東	軟	七	晴	二〇、四	六、二	一四、二	八、九	|	三、八	二五、〇	二八、五	二六、七五	|
廿二日	一九、九	七四	北	和	一〇	曇	二二、九	一三、〇	八、九	〇、〇	七、一	〇、一	二三、〇	二三、五	二三、七五	前十時來小雨
廿三日	一八、四	九四	北東	和	一〇	雨	二四、〇	一五、八	八、二	一、九	〇、一	三、四	二三、五	二六、〇	二四、二五	朝小雨
廿四日	二一、六	五七	北	和	四	晴	二五、〇	一五、四	九、六	九、七	|	五、八	二三、〇	三三、〇	二八、〇〇	|
廿五日	一九、九	五四	東	軟	一〇	曇	二三、一	六、五	一五、六	六、五	|	三、四	二四、〇	三一、七	二七、八五	|
廿六日	二一、三	四〇	東	軟	一〇	曇	二四、〇	一二、六	一三、四	二、九	|	三、三	二四、〇	三三、五	二八、七五	|
廿七日	二三、八	三四	北	和	九	曇	二六、二	一〇、六	一五、六	八、七	〇、〇	六、一	二七、五	三三、〇	二九、七五	田植式、夕刻微雨
廿八日	一九、三	五三	北西	軟	一	快晴	二四、〇	一〇、三	一三、七	一〇、二	|	五、五	二六、五	三三、〇	二九、五〇	|
廿九日	二三、二	五〇	北	和	八	曇	二六、五	一一、二	一五、三	一〇、一	|	五、〇	二五、〇	三〇、〇	二七、五〇	|
三十日	二四、九	四九	北東	軟	一〇	曇	二七、二	一三、五	一三、七	八、五	|	四、四	二八、〇	三七、〇	三二、五〇	|
卅一日	二四、九	四九	北	和	三	晴	二八、七	一四、六	一四、一	一〇、二	|	五、五	二三、五	三六、五	三四、五〇	
全月	一九、六	六〇、五	北	|	六、五	|	二三、八	一〇、四	一三、四	二一七、六	一〇〇、九	一三五、一	|	|	|	|

大正四年六月氣象表

日次＼種目	午前十時現象 氣溫	濕度	風向	風力	雲量	天氣	氣溫 最高	最低	較差	日照時數	降水量	蒸發量	午前十時田水溫	午後二時田水溫	平均	記事摘要
一日	二一、四	六七	南	和	九	曇	二四、五	一五、五	九、〇	七、〇	二、八	五、三	二六、八	三四、八	三〇、八〇	夜小雨
二日	一九、三	六六	北	疾	三	晴	二七、七	一一、四	一六、三	一〇、六	|	五、七	二六、八	三四、〇	三〇、四〇	|
三日	二二、二	五九	北東	疾	七	晴	二六、〇	七、二	一八、八	一〇、二	|	五、六	二九、五	三七、五	三三、〇〇	|
四日	二五、八	四三	南	和	三	晴	二九、五	一二、五	一七、〇	一〇、五	〇、〇	五、七	二八、六	三三、九	三一、二五	|
五日	二三、八	六八	北東	和	一〇	雨	二六、〇	一四、二	一一、八	〇、〇	一九、〇	一、二	二三、〇	三四、三	二八、一五	朝微雨午後雨
六日	二五、八	七三	北	和	九	曇	二六、八	一九、六	七、二	二、八	一三、五	二、二	二九、一	三一、五	三〇、三〇	夜小雨
七日	二三、〇	八二	北東	軟	一〇	曇	二七、一	一八、〇	九、一	三、九	|	三、五	二四、一	三五、五	二九、八〇	朝雨歇
八日	二五、二	六八	北東	軟	一〇	曇	二六、〇	一五、五	一〇、五	三、二	二〇、四	二、二	二八、三	三二、四	二九、八五	夕刻來雨
九日	一七、五	九二	南	和	一〇	雨	二一、〇	一七、三	一三、七	〇、〇	一六、四	〇、五	三一、五	三〇、六	二六、〇〇	雨夕方歇
十日	二〇、八	八一	北東	軟	一〇	曇	二四、二	一五、九	八、三	一、一	一、六	一、八	二九、五	三〇、〇	二九、七五	午後小雨
十一日	二三、一	九〇	|	靜	一〇	雨	二六、三	一七、四	八、九	〇、二	四、七	一、一	三〇、〇	二九、五	二九、七五	朝來小雨
十二日	二六、一	七六	北西	和	九	曇	二七、〇	一九、四	七、六	二、二	|	二、三	二五、五	二九、三	二七、三五	|
十三日	二五、三	七五	北	軟	一〇	曇	二五、三	一八、五	六、八	〇、四	|	一、四	二三、五	二六、七	二五、一〇	|
十四日	二一、三	八八	南	軟	一〇	曇	二七、七	一八、七	九、〇	一、五	|	二、五	二三、〇	二九、四	二六、二〇	|
十五日	二六、二	七七	北	和	七	晴	二九、五	一八、七	一〇、八	七、八	〇、〇	四、二	二二、五	三三、二	二三、三〇	朝霧
十六日	二七、六	六六	北	軟	九	曇	二九、六	一九、六	一〇、〇	七、六	〇、四	四、〇	三一、七	三二、五	三一、六〇	朝及午後微雨
十七日	二八、一	六七	北	軟	六	晴	三〇、五	二〇、六	九、九	五、四	|	五、〇	二八、〇	三二、一	三〇、八〇	朝霧
十八日	二九、七	五九	北西	疾	八	曇	三三、二	二一、五	一〇、七	七、五	一、六	四、六	三一、五	三四、一	三三、〇〇	午後雷雨
十九日	二七、三	七四	北東	軟	八	曇	三〇、四	二〇、六	九、八	四、七	二四、六	一、八	二六、九	三三、八	三一、三五	午後雷雨降雹
二十日	二六、六	五二	北	和	九	曇	二八、八	一九、七	九、一	四、八	二六、〇	一、五	二七、五	三〇、六	二九、〇五	午後雷雨
廿一日	二三、四	八七	北	和	一〇	雨	二五、七	一九、二	六、五	〇、六	〇、八	二、三	二四、〇	二七、〇	二五、五〇	早朝來小雨
廿二日	二五、四	七七	北	和	一〇	曇	二七、三	二〇、〇	七、三	二、二	二、五	二、三	二六、〇	三〇、四	二九、二〇	時々小雨
廿三日	二六、七	五七	南	疾	一〇	曇	二九、七	二〇、五	九、二	二、二	〇、一	四、四	三〇、〇	三〇、〇	三二、〇〇	時々微雨
廿四日	二六、五	七二	北東	軟	九	曇	二七、二	一二、二	六、〇	〇、五	六、六	一、一	二六、五	二七、五	二六、〇〇	夜雨
廿五日	三〇、七	八〇	北	軟	一〇	曇	二三、九	一八、九	五、〇	〇、〇	三九、七	二、二	二三、七	二七、四	二三、五〇	雨
廿六日	二二、七	七四	北	疾	九	曇	二七、七	二〇、五	七、二	一〇、六	|	四、六	二五、九	三二、一	二九、〇〇	|
廿七日	二三、七	六九	北	和	八	曇	二七、五	一六、四	一二、一	七、〇	〇、〇	三、七	二四、〇	三一、二	二七、六〇	|
廿八日	二三、九	五五	北東	軟	一〇	雨	二七、四	一八、七	八、七	〇、〇	三、五	二、〇	二四、四	二九、八	二七、一〇	時々微雨夜小雨
廿九日	二五、四	七二	北西	和	一〇	曇	二五、八	一二、九	一三、九	〇、二	〇、〇	二、四	二六、〇	二七、五	二六、四〇	午後微雨
三十日	二五、五	六九	北	和	九	曇	二七、三	一九、八	七、五	四、二	|	四、二	二七、〇	三〇、〇	二八、五〇	|
卅一日	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|
全月	二四、一	七〇、三	北	|	八、七	|	二七、一	一八、〇	九、一	一二九、一	一九四、三	九一、二	|	|	|	|

大正四年七月氣象表

日次	午前十時現象 氣溫	濕度	風向	風力	雲量	天氣	氣溫 最高	最低	較差	日照時數	降水量	蒸發量	午前十時田水溫	午後二時田水溫	平均	記事摘要
一日	二五、二	三九	北	和	一	快晴	二八、七	一五、六	一三、一	一二、九	—	六、四	二七、〇	三四、五	三〇、七五	—
二日	二五、九	五四	北	和	二	快晴	二九、四	一五、八	一三、六	—	二、〇	四、一	二七、五	二八、五	二八、〇〇	—
三日	二二、六	九〇	北東	軟	一〇	曇	二三、五	二〇、〇	二、五	〇、〇	四、八	〇、六	二三、五	二三、〇	二三、二五	朝小雨
四日	二〇、九	八七	東	軟	一〇	曇	二三、〇	一八、五	三、五	〇、〇	一、八	一、一	二三、〇	二三、〇	二三、〇〇	午前小雨
五日	一九、四	九二	北東	和	一〇	雨	二〇、五	一八、四	二、一	〇、〇	三五、六	〇、〇	二一、〇	二二、〇	二一、五〇	雨
六日	二〇、四	八一	北	軟	一〇	曇	二三、八	一七、四	六、四	〇、三	一、三	二、一	二二、五	二五、五	二四、〇〇	早朝小雨
七日	二二、五	七四	北西	軟	一〇	曇	二六、二	一七、七	八、五	六、九	—	四、五	二三、二	三〇、四	二六、八〇	—
八日	二四、〇	七〇	北	疾	七	晴	二七、二	一六、〇	一一、二	一〇、〇	—	五、五	二六、五	三〇、四	二八、四五	—
九日	二五、四	六七	北西	疾	八	曇	二八、四	一八、二	一〇、二	九、四	—	四、六	二六、一	二八、〇	二七、〇五	—
十日	二七、五	六八	北	和	五	晴	三一、五	一九、九	一一、六	九、八	一、〇	五、六	二七、九	三五、五	三一、七〇	—
十一日	二八、四	六七	北	和	一	快晴	三三、二	二三、三	九、九	九、九	—	六、〇	三〇、[illegible]	三五、二	三二、六五	—
十二日	二六、五	八三	北東	軟	九	雨	三〇、一	二三、四	六、七	一、七	八、二	二、六	二八、〇	三〇、三	二九、一五	早曉雷雨
十三日	二八、七	七五	北	軟	九	曇	三一、九	二二、七	九、二	四、〇	〇、四	四、九	二九、七	三三、七	三一、七〇	朝微雨
十四日	三〇、四	五四	北西	和	四	晴	三三、五	二三、一	一〇、四	八、一	—	五、八	二九、七	三七、〇	三三、八五	—
十五日	三〇、五	六七	北	和	一	快晴	三四、三	二二、六	一一、七	一二、三	—	六、一	三一、〇	三六、八	三三、九〇	—
十六日	三一、二	六七	北	軟	一	快晴	三四、三	二三、七	一一、六	一〇、六	—	五、二	三三、〇	三六、五	三四、七五	—
十七日	三〇、五	六九	北西	軟	一	快晴	三三、七	二三、二	一一、五	一二、一	—	五、一	三二、〇	三六、〇	三四、〇〇	—
十八日	三〇、二	六六	北西	軟	一	快晴	三四、二	二一、九	一三、三	一二、三	—	五、九	三一、〇	三六、五	三三、七五	—
十九日	二九、七	六四	北	和	一	快晴	三三、六	二一、二	一三、四	一〇、四	—	五、四	三一、〇	三六、〇	三三、五〇	雷鳴
二十日	二九、四	六七	北	軟	四	晴	三三、二	二一、五	一二、七	一〇、〇	—	五、六	—	三六、七	—	雷鳴
廿一日	二九、九	六三	北	軟	一	快晴	三一、五	二三、〇	九、五	七、四	〇、〇	四、四	三〇、四	三一、二	三〇、八〇	雷鳴
廿二日	二九、八	六三	北東	軟	二	快晴	三一、一	二一、〇	一〇、一	七、六	—	四、五	二九、〇	三〇、九	二九、五〇	雷鳴
廿三日	三〇、〇	六三	東	軟	二	快晴	三一、五	一九、九	一二、六	九、六	—	五、四	三一、〇	三三、〇	三二、〇〇	—
廿四日	二九、四	五六	北東	軟	三	晴	三一、四	一九、八	一二、六	一二、三	—	五、六	三〇、〇	三三、〇	三一、五〇	—
廿五日	二九、一	六二	北	軟	一	快晴	三一、一	二〇、五	一〇、六	一一、五	—	五、八	二九、〇	三三、〇	三一、〇〇	—
廿六日	二九、八	七四	北	和	六	晴	三三、〇	二一、二	一〇、八	七、六	—	四、二	三〇、一	三三、〇	三一、五五	雷鳴
廿七日	二九、八	七〇	北東	軟	七	晴	三一、二	二一、三	九、九	一二、三	—	五、三	三〇、五	三二、八	三一、六五	—
廿八日	二九、二	七三	北	軟	七	晴	三一、六	二一、二	一〇、四	九、一	—	四、三	二九、〇	三三、五	三〇、七五	—
廿九日	二八、七	七五	北西	軟	八	曇	三一、〇	二一、三	九、七	七、五	—	四、七	二九、〇	三三、〇	三一、〇〇	—
三十日	二八、四	七三	北	和	七	晴	三二、〇	二二、四	九、六	六、六	—	三、九	二九、五	三〇、六	三〇、〇五	雷鳴
卅一日	二八、八	七四	北	和	三	晴	三一、七	二一、三	一〇、四	一〇、八	—	六、一	二九、〇	三三、五	三一、二五	—
全月	二七、四	六九、二	北	—	四、九	—	三〇、二	二〇、四	九、八	二四七、一	五五、一	一四一、三	—	—	—	—

大正四年八月氣象表

日次	午前十時現象 氣溫	濕度	風向	風力	雲量	天氣	氣溫 最高	最低	較差	日照時數	降水量	蒸發量	午前十時田水溫	午後二時田水溫	平均	記事摘要
一日	二八、二	六三	北東	軟	九	曇	三三、六	二〇、六	一三、〇	一〇、六	—	六、五	二八、五	三一、五	三〇、〇〇	—
二日	二八、四	六七	北東	軟	一	快晴	三三、〇	二三、四	九、六	一〇、五	—	六、六	二八、〇	三〇、五	二九、二五	—
三日	二九、〇	七三	北	疾	二	快晴	三一、四	二四、五	六、九	六、一	三、二	三、七	—	三〇、〇	—	午後聚雨
四日	二五、二	九〇	南	和	一〇	雨	二五、四	二三、七	一、七	〇、〇	一九四、七	—	二五、五	二四、八	二五、一五	朝小雨午後大雨
五日	二三、五	九五	南西	疾	一〇	雨	二八、八	二三、五	五、三	〇、〇	二三、一	一、三	二四、〇	二五、〇	二四、五〇	午前大雨
六日	二八、二	六八	北	和	六	晴	三一、一	二三、一	八、〇	八、九	—	四、九	二六、〇	二八、五	二七、二五	—
七日	二八、二	八一	北東	軟	九	曇	三一、三	二一、〇	一〇、三	六、一	—	四、四	二七、八	三一、〇	二九、四〇	—
八日	二九、七	六五	南	軟	八	曇	三〇、八	二〇、六	一〇、二	三、七	一〇、七	二、八	二八、二	二九、〇	二八、六〇	雷鳴夜小雨
九日	二四、九	九五	東	軟	一〇	雨	二八、七	二三、七	五、〇	〇、〇	二三、〇	一、〇	二五、八	二六、八	二六、三〇	未明來雨
十日	二八、五	七三	北東	軟	七	晴	二九、九	二二、三	七、六	四、三	六、八	二、八	二六、八	二八、六	二七、七〇	午後小雨
十一日	二七、九	六二	北東	和	四	晴	三〇、一	二一、六	八、五	一〇、五	—	五、六	二六、八	三〇、〇	二八、四〇	—
十二日	二七、八	七一	北東	軟	七	晴	二九、六	一九、三	一〇、三	七、一	—	四、四	二五、〇	二八、八	二六、九〇	—
十三日	二八、二	六三	北	軟	一〇	曇	三〇、二	二〇、二	一〇、〇	八、五	〇、四	三、二	二六、五	二八、九	二七、七〇	夜小雨
十四日	二七、二	八〇	北	軟	一〇	曇	三二、〇	二三、九	八、二	四、九	一、一	三、二	二五、五	三〇、二	二七、八五	午前小雨
十五日	二八、五	六九	北	軟	六	晴	三一、二	二二、二	九、〇	六、五	—	三、七	二七、三	二八、八	二八、〇五	—
十六日	二八、四	七五	北	軟	四	晴	三一、〇	二〇、四	一〇、六	一〇、四	—	五、三	二七、三	三〇、〇	二八、六五	—
十七日	三〇、九	六〇	北	軟	三	晴	三一、二	二二、一	一〇、一	七、〇	〇、〇	四、四	二七、八	三〇、一	二八、九五	正午微雨
十八日	二八、五	七三	北東	軟	九	曇	三二、〇	二三、〇	九、〇	五、〇	—	三、七	二七、七	二九、〇	二八、三五	—
十九日	三一、四	六九	北東	軟	三	晴	三三、三	二三、七	九、六	七、八	二、〇	四、〇	二七、七	三〇、五	二九、一〇	雷鳴
二十日	三〇、二	七一	北西	軟	七	晴	三二、七	二三、八	八、九	八、一	一三、五	四、九	二八、〇	三一、〇	二九、五〇	早曉小雨夜雷雨
廿一日	三〇、八	七二	北	軟	四	晴	三二、五	二三、三	九、二	六、三	一五、三	四、二	三〇、〇	三二、〇	三一、〇〇	午後雷雨

大正四年九月氣象表

種目＼日次	一日	二日	三日	四日	五日	六日	七日	八日	九日	十日	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日
午前十時現象 氣温	二八、九	二七、一	二三、三	二九、四	二七、九	二六、一	二七、四	二九、二	二九、〇	二五、六	二六、二	二七、二	二七、六	二九、五	二三、七
濕度	六三	七三	九四	九一	七四	八二	七六	六五	四七	六一	六三	六六	六九	六八	八〇
風向	東	北	北	南	北東	東	東	南東	南東	北西	北東	北東	北	北	北西
風力	軟	軟	軟	軟	疾	軟	和	強	軟	軟	軟	軟	軟	軟	軟
雲量	七	一〇	一〇	一〇	三	一〇	九	九	六	一	一	七	二	七	一〇
天氣	晴	雨	雨	雨	晴	曇	曇	雨	晴	快晴	快晴	晴	快晴	晴	曇
氣温 最高	二九、五	二八、〇	二三、五	二八、四	三〇、五	二九、九	三二、三	二九、五	三〇、八	二八、一	二九、一	三〇、五	二九、四	三〇、一	二八、七
最低	一九、四	二一、三	二一、九	一八、〇	一八、六	二三、六	二三、九	二二、九	二三、七	一七、九	一五、七	一五、一	一七、二	二〇、七	二一、〇
較差	一〇、一	六、七	一、六	一〇、四	一一、九	六、三	八、四	六、六	七、一	一〇、二	一三、五	一五、四	一二、二	九、四	七、七
日照時數	四、七	〇、五	〇、〇	〇、〇	八、九	二、二	六、八	六、〇	七、九	九、四	九、三	九、一	九、一	三、九	二、六
降水量	〇、〇	二七、二	二七、二	三五、四	一、一	六、一	九、九	一五、四	—	—	—	—	—	〇、三	〇、〇
蒸發量	二、九	一、二	〇、二	一、〇	三、二	一、八	三、四	二、二	四、六	四、二	四、一	三、七	三、四	二、二	三、四
記事摘要	—	日中時々微雨	早曉來雨	雨	日中時々小雨	時々小雨	時々聚雨	時々強雨小雨	—	—	—	—	—	午後曇	朝夕微雨

種目＼日次	廿二日	廿三日	廿四日	廿五日	廿六日	廿七日	廿八日	廿九日	三十日	卅一日	全月
氣温	二九、二	二七、六	二七、五	三〇、四	二四、七	二七、二	二八、二	二六、九	二六、三	二五、八	二八、〇
濕度	七四	八二	七五	六八	七七	六九	六八	五三	六六	六五	七三、六
風向	北	北	南	—	—	北	北西	北	北東	北東	北
風力	軟	軟	和	靜	靜	和	和	軟	軟	軟	—
雲量	九	九	一〇	九	一〇	九	四	一	七	九	七、〇
天氣	曇	曇	曇	曇	雨	曇	晴	快晴	雨	曇	—
	三一、五	三〇、九	三〇、五	三三、九	二八、五	三〇、二	三〇、七	二九、八	二九、二	三〇、五	三〇、八
	二一、七	二二、〇	二二、〇	二二、一	二二、九	二三、一	二二、二	一七、三	一六、四	一七、二	二一、七
	九、八	八、九	八、五	一一、八	五、六	七、一	八、五	一二、五	一二、八	一三、三	九、一
	七、三	七、四	四、一	八、三	〇、〇	七、五	七、九	一〇、一	一〇、〇	五、二	二〇〇、八
	三三、一	—	〇、六	四、〇	五、二	—	—	—	—	—	三三五、六
	五、二	三、九	二、三	三、五	一、四	四、一	四、二	三、八	四、四	三、九	一二九、三
	二九、〇	二六、六	二七、〇	二七、〇	二五、〇	—	—	二五、〇	二五、〇	—	—
	三〇、三	二九、〇	二九、〇	三〇、〇	—	—	—	二七、〇	二七、八	—	—
	二九、六五	二七、八〇	二八、〇〇	二八、五〇	—	—	—	二六、〇〇	二六、六五	—	—
	午後雷鳴	早曉強雷雨	午後弱雷雨	夜微雨	午前小雨	—	—	—	—	—	—

大正四年十月氣象表

種目＼日次	一日	二日	三日	四日	五日	六日	七日	八日	九日
午前十時現象 氣温	二四、七	二三、六	二五、二	二五、二	二四、三	二四、四	二一、三	二六、三	二四、一
濕度	八一	九二	七一	六三	七八	七〇	九六	六〇	五六
風向	南東	—	北東	北東	北	北東	南東	北	北西
風力	軟	靜	和	軟	和	軟	和	和	軟
雲量	一〇	一〇	九	七	一〇	九	一〇	六	六
天氣	曇	雨	曇	晴	雨	曇	雨	晴	晴
氣温 最高	二六、九	二五、五	二七、九	二七、〇	二五、八	二六、四	二六、六	二八、五	二五、二
最低	二〇、八	二〇、三	一七、七	一四、五	一九、〇	一七、二	一九、二	二一、一	一九、一
較差	六、一	五、二	一〇、二	一二、五	六、八	九、二	七、四	七、四	六、一
日照時數	〇、五	〇、〇	六、七	九、二	〇、三	三、三	〇、〇	六、四	五、四
降水量	一、五	三、一	—	〇、〇	〇、〇	六、九	七三、九	—	—
蒸發量	一、〇	—	三、四	二、九	一、六	一、九	—	三、六	三、〇
記事摘要	屢々微雨	日中降雨	—	—	朝微雨	—	午後強風雨	早朝強風	—

種目＼日次	十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	廿一日	廿二日	廿三日	廿四日	廿五日	廿六日	廿七日	廿八日	廿九日	三十日	卅一日	全月
午前十時現象 氣温	二四、二	二五、六	二六、八	二四、三	二一、三	二五、三	二五、六	二六、八	二七、〇	二八、五	二四、五	二三、一	二〇、一	二三、六	二三、六	—	二五、四
濕度	六八	七〇	七〇	七六	九二	八七	五七	六八	七三	六〇	六七	六四	七九	八二	九六	—	七三、六
風向	南	北東	北	北東	南	北	北	南東	北	北	北	北	北西	南西	南東	—	
風力	和	軟	和	軟	軟	軟	軟	軟	軟	軟	和	和	軟	軟	軟	—	—
雲量	三	一〇	六	一〇	一〇	九	六	六	六	一	九	九	一〇	一〇	一〇	—	七、二
天氣	晴	曇	晴	曇	雨	曇	晴	晴	晴	快晴	曇	曇	雨	曇	雨	—	—
氣温 最高	二七、〇	二七、六	二九、二	二九、五	二五、七	二九、二	二八、五	二八、三	二九、〇	三〇、四	二七、七	二五、五	二三、〇	二四、五	二七、七	—	二八、三
最低	一七、五	一八、三	二〇、〇	一八、四	一七、一	一九、八	一九、四	一七、四	一八、四	一八、六	一九、四	一六、六	一六、三	一七、一	二〇、一	—	一九、一
較差	九、五	九、三	九、二	一一、一	八、六	九、四	九、一	一〇、九	一〇、六	一一、八	八、三	八、九	六、七	七、四	七、六	—	九、二
日照時數	九、三	三、四	七、〇	四、九	〇、〇	三、一	八、五	五、六	三、七	九、一	四、七	三、六	〇、〇	〇、三	一、二	—	一四五、二
降水量	—	〇、〇	—	〇、九	八、七	—	—	—	〇、〇	〇、〇	—	〇、四	一、三	二六、八	〇、四	—	一六二、一
蒸發量	三、二	二、一	三、二	三、二	〇、五	—	三、七	三、四	一、九	三、六	二、八	二、六	〇、七	一、〇	一、一	—	七四、三
記事摘要	—	夜微雨	拔穗式	—	時々小雨	—	—	午後曇	午後微雨	夜微雨	午後晴	午後稍晴	微雨、小雨	朝來雨	午後輕雷	—	—

十日	二一、一	六四	北西	軟	九	曇	二三、八	一三、七	一〇、一	四、六	〇、〇	二、三	夜微雨
十一日	二二、七	六三	南東	和	七	晴	二三、三	一四、三	九、〇	三、九	三、〇	一、七	夜小雨
十二日	二〇、七	七七	北西	軟	一〇	曇	二四、七	一六、四	八、三	四、七	—	二、七	朝小雨
十三日	二〇、八	六六	北	和	九	曇	二四、一	一五、九	八、二	五、八	〇、〇	二、四	夕微雨
十四日	一九、〇	六一	南東	軟	八	曇	二〇、九	一三、八	七、一	三、六	—	二、〇	—
十五日	二〇、二	五二	北西	軟	三	晴	二三、〇	一〇、〇	一三、〇	六、四	—	一、九	午後曇

大正四年 自四月中旬至十月上旬 毎旬氣象表

月 旬 ／ 種目	午前十時現象 平均氣温	午前十時現象 平均濕度	午前十時現象 最多風向	午前十時現象 平均雲量	午前十時現象 快晴	午前十時現象 晴	午前十時現象 曇	午前十時現象 雨	平均氣温 最高	平均氣温 最低	平均氣温 較差	日照時數	降水量	降水日數	蒸發量
四月中旬	一五、〇	七三、七	北	八、七	一	〇	七	二	一八、七	九、四	九、四	三二、〇	二九、一	七	二〇、五
四月下旬	一四、一	六七、一	北	八、七	〇	二	六	二	一七、五	七、七	九、八	三七、五	四六、五	五	二二、二
五月上旬	一八、四	五九、六	北東	五、六	四	一	四	一	二二、二	七、七	一四、五	七七、〇	六〇、一	三	三九、九
五月中旬	一八、九	六六、二	北	六、四	二	二	五	一	二二、五	一二、六	九、九	六二、九	三二、六	五	三八、九
五月下旬	二一、三	五六、〇	北	七、五	一	三	六	一	二四、五	一二、七	一一、八	七七、七	七、二	二	四六、三
六月上旬	二三、二	六九、八	北東	八、一	〇	三	五	二	二五、五	一四、七	一〇、八	四九、四	八二、七	六	三三、六
六月中旬	二五、八	七四、七	北	八、六	〇	二	七	一	二八、七	一九、五	九、三	四二、一	五七、三	五	二八、四
六月下旬	二四、四	六四、五	北	九、五	〇	〇	八	二	二六、九	一九、七	七、二	二七、六	五三、二	六	二九、二
七月上旬	二三、二	七三、二	北	七、三	二	二	五	一	二六、〇	一七、七	八、三	四八、三	四四、五	六	三四、五
七月中旬	二九、五	六七、九	北	三、二	六	二	一	一	三四、一	二三、四	一〇、七	八六、四	八、六	二	五二、六
七月下旬	二九、四	六七、七	北	四、三	四	六	一	〇	三二、四	二二、〇	一〇、四	一〇〇、四	〇、〇	〇	五四、二
八月上旬	二七、五	七〇、〇	北東	七、二	二	二	三	三	三〇、三	二三、四	七、九	五〇、三	二五〇、四	六	三四、〇
八月中旬	二八、九	六九、三	北	六、三	〇	七	三	〇	三一、三	二一、九	九、四	七六、三	一七、〇	四	四二、四
八月下旬	二七、七	七一、七	北	七、三	一	三	六	一	三〇、七	二〇、九	九、八	七四、一	五八、二	五	四二、九
九月上旬	二六、三	七二、六	東	七、五	一	三	二	四	二八、九	二一、〇	七、九	四六、五	一三三、三	七	二四、五
九月中旬	二五、五	七三、一	北東	六、六	二	四	三	一	二八、七	一八、一	一〇、六	五八、七	九、九	三	二九、〇
九月下旬	二四、五	七三、二	北	七、六	一	三	四	二	二七、四	一六、三	九、一	四〇、〇	二八、九	四	二〇、九
十月上旬	二四、〇	七三、一	北東	八、六	〇	三	四	三	二六、四	一八、三	八、一	三五、五	一〇四、四	四	一九、六

時		午前一時	二時	三時	四時	五時	六時	七時	八時	九時	十時	十一時	正午	午後一時	二時	三時	四時	五時	六時	七時	八時	九時	十時	十一時	夜午	平均	缺測日數
空氣温度（自記器に據る）	五月	一一、九五	一一、五四	一一、一六	一〇、九五	一〇、八一	一一、七〇	一四、五三	一六、五八	一七、九八	一九、三〇	一九、九八	二〇、四六	二〇、八八	二一、〇九	二一、一一	二〇、九三	二〇、〇三	一八、一七	一六、〇八	一四、九一	一四、〇九	一三、四五	一三、〇四	一三、六五	一五、九七	—
	六月	一八、八二	一八、六〇	一八、三八	一八、三三	一八、二三	一八、八四	二〇、五六	二一、四四	二二、五八	二三、六八	二四、二三	二四、六六	二五、〇一	二四、九五	二四、四八	二四、三二	二四、〇一	二三、一三	二一、七三	二〇、九二	二〇、四一	一九、九六	一九、四四	一九、〇六	二一、四八	二
	七月	二一、四五	二一、〇九	二〇、八四	二〇、五四	二〇、四〇	二〇、七五	二三、九〇	二四、六七	二五、八八	二六、七三	二七、三六	二七、八五	二八、二四	二八、五三	二八、六三	二八、六八	二八、四六	二七、五八	二五、六三	二四、三五	二三、六二	二三、九九	二三、四六	二二、九七	二四、六五	—
	八月	二三、四六	二三、一八	二二、九四	二二、七四	二二、五八	二一、五〇	二三、六五	二四、三八	二五、七五	二六、九八	二七、三三	二七、八五	二八、三三	二八、五六	二八、五五	二八、二五	二七、九四	二六、五六	二四、九一	二四、〇五	二三、六三	二三、二九	二三、〇〇	二二、七三	二四、八三	一
	九月	二〇、二〇	二〇、〇三	一九、八二	一九、六九	一九、五九	一九、五四	二〇、四五	二二、〇二	二三、六七	二四、七二	二五、四二	二五、七〇	二六、〇三	二五、九〇	二五、七五	二五、六五	二四、四五	二三、六八	二一、七七	二一、三二	二一、〇二	二〇、六三	二〇、五七	二〇、三三	二二、三七	四
濕度（自記器に據る）	五月	九一、三	九二、三	九三、一	九二、八	九三、四	九二、六	八三、九	七四、三	六七、七	六三、二	六一、六	六〇、六	五八、九	五七、三	五六、八	五七、三	五九、一	六五、六	七九、二	八四、四	八八、一	八九、一	九〇、一	九〇、三	七六、八	二
	六月	九二、三	九二、二	九三、二	九二、九	九二、八	九〇、八	八六、〇	八〇、七	七七、六	七三、七	七〇、九	六八、八	六七、六	六八、九	七〇、五	七一、六	七三、五	七八、七	八四、八	八八、六	八九、九	九一、〇	九一、三	九三、三	八二、五	—
	七月	九一、五	九二、三	九二、〇	九二、四	九二、一	九一、四	八四、四	七七、一	七三、一	七一、二	六八、三	六六、九	六七、一	六五、五	六五、七	六四、九	六六、二	六九、七	八一、八	八七、二	八九、一	九〇、〇	九〇、四	九一、五	八〇、一	—
	八月	九二、一	九二、二	九二、四	九二、九	九二、九	九二、七	八九、一	八一、八	七七、五	七四、三	七三、四	七二、二	七〇、五	七〇、〇	七〇、七	七二、一	七三、九	八二、五	八九、七	九一、一	九一、五	九一、四	九一、五	九一、七	八三、七	—
	九月	九三、四	九三、三	九三、四	九三、〇	九三、〇	九二、三	八八、七	八二、一	七八、一	七五、七	七三、一	七一、五	七一、七	七一、六	七三、五	七四、五	八三、七	九〇、一	九二、一	九一、八	九二、〇	九二、八	九二、〇	九二、九	八五、一	—
日照時數（每時前一時間合計）	五月	—	—	—	—	〇、〇〇	〇、〇〇	六、八五	一八、一六	二〇、五〇	二一、五三	二三、〇三	二三、〇一	二三、四五	二一、三九	一九、八五	一六、六一	一五、九六	七、二八	〇、〇〇	〇、〇〇	—	—	—	—	合計二二七、六三 %五二	—
	六月	—	—	—	—	〇、〇〇	〇、〇〇	四、二三	八、七三	一一、四〇	一四、〇八	一五、六八	一三、一二	一〇、四三	一〇、〇二	九、四〇	九、五〇	六、六五	五、九一	〇、〇〇	〇、〇〇	—	—	—	—	一二九、一三 二八	—
	七月	—	—	—	—	〇、〇〇	〇、〇〇	一〇、六〇	二一、六〇	二三、二四	二三、八三	二二、三九	二三、五六	二一、九五	二一、七七	二〇、六一	一九、七四	一七、八八	一三、四四	〇、五〇	〇、〇〇	—	—	—	—	二三七、一二 五四	—
	八月	—	—	—	—	—	〇、〇〇	三、六九	一七、六三	一八、九二	二三、〇三	二一、九五	二〇、六四	一九、五一	二一、四八	一八、八一	一六、九九	一七、〇四	四、二〇	〇、〇〇	〇、〇〇	—	—	—	—	二〇〇、七九 四六	—
	九月	—	—	—	—	—	〇、〇〇	一、七五	一一、一四	一三、八七	一五、八〇	一八、二〇	一六、二三	一五、七九	一六、〇九	一五、〇四	一四、七八	六、五九	〇、〇〇	〇、〇〇	—	—	—	—	—	一四五、一八 三九	—

主基齋田氣象觀測所

氣象觀測所は齋田の南方約三十間を距て地域十五坪を劃し周圍に竹柵を廻らし注連繩を張り標柱を建つ、而して据付たる觀測器械の品種は左の如し。

「ステブンソン」形百葉箱	二基
瞼濕器	一組
最高最低寒暖計	一組
「リシャール」形自記寒暖計	一個
「リシャール」形自記濕度計	一個
雨量計	一個
蒸發計	一個
「ジョーダン」形日照計	一個
「ロビンソン」形風力計	一個
「風信器」	一基

第五編　齋田事務の完結

第一節　齋田奉仕完了奉賽祭

朝に夕に滿腔の誠意を捧げて寸毫の失態なきを神に祈りつゝ、二ヶ年に亘りて奉仕せし齋田事務も茲に全く無事完了を告げたるを以て、綾歌郡に於ては十月三十一日を卜して、郡記念公會堂に於て奉賽祭を執行することゝなれり。

第一項　齋田奉仕完了奉賽祭事務分掌

一、式場係　渡邊郡書記、綾井郡書記、

一、餘興係　三野、門屋両技手、擴田工事監督員、

一、烟火係　明石畜産組合書記、平崎郡書記、

一、受付係　藤澤郡書記、矢野郡書記、松浦郡書記、藤田郡書記、今井雇、三崎雇、大塚郡農會書記、

一、來賓係　託間郡視學、旭郡書記、大浦郡書記、高木郡書記、十河郡書記、長谷川雇、楞木技手、石田技手、神原技手、黑川技手、津下米穀檢査主事、

一、裝飾係　高木郡書記、山西郡吏員、

一、會計係
接待係　森田郡書記、鎌田郡書記、山西郡吏員、田村郡書記、松野郡書記、丸尾郡吏員、坂本郡書記、明石畜産組合書記、橋本技手、土木高木、守屋、香川各工事監督員、三浦技手、宮川技手、佐藤技手、片山技手、

以上の分掌事務に付各係共四五日以前より準備に取掛り、萬遺憾なきを期したり。

第二項　祭式の次第

一、祭員着席、
一、參列者着席、
一、祓主祓詞を白す、
一、大麻鹽湯行事、
一、主催者祭儀開始の旨を告ぐ、
一、降神詞（此時警蹕奏樂）、
一、神饌傳供（此の間奏樂）、
一、齋主の祝詞（一同敬禮）、
一、郡長の祭詞（同　）、
一、玉串奉奠
一、撤饌（奏　樂）、
一、昇神詞（警蹕奏樂）、
一、主催者儀式終了の旨を告ぐ、
一、一同退下、

第三項　祭主の祝詞

此乃野中乃甘美志新室乃小床乎伊豆乃眞屋止祓清米天神籬起天招奉令坐奉掛卷毛畏支賢所爾坐八柱大神天照大御神産土大神御年皇神等乎始奉里天神地祇八百萬大神等乃大前爾綾歌郡神職會長中尾東恐美恐美母白左久今年十一月中旬爾天津御食乃遠御食乃長御食止皇御孫尊乃大嘗聞食給布賀故爾大御制令乃任爾悠紀主基乃齋田乎天津神事以天卜合給比志爾此乃名細志香川縣綾歌郡山田村田頭止云布處爾奈毛主基乃齋田乎設定米天仕奉留可久神定米爾定米給比支茲爾御民諸波生留驗有里天天地乃開闢志時由未多無支大光榮乎得津留事乎嬉美奉利辱美奉里天官人波更也此事爾與禮留人々與利男女悉爾赤良引日波終日烏羽玉乃夜波終夜其持分介留職爾勞支勤美吹風爾思乎焦志降雨爾心乎碎支伊加傳神乃御心君乃御心爾副奉答奉亘萬久心乃限力乃極明支清支眞心捧介天仕奉里志間爾秋乃田乃穗波豐介久打靡支眞玉成須瑞穗乃足穗止實利燒鎌乃利鎌以天田人諸忌回清回津々刈取里百杵乃五百杵爾舂支白介天其乎截支奉捧介奉利天大禮使爾納米奉里重支御依大支任務乎始終違波受本末過多受爽無久事無久仕奉終奴故禮此乎辱美奉利嘗比奉里深支厚支恩賴爾酬比奉里感謝比奉亘久止郡長樋口德太郎此事爾與禮留人々郡民諸乃眞心乎總爾持知天玉串乃取々稱言竟奉亘久止白須

辭別天屋船大神乃御前爾白左久此乃公會堂波志毛皇孫尊乃天津日次知食給布御代乃始乃記念止志天今回清久嚴久高久廣久建設奴留爾依天自今往先志喜居志礎乃動久事無久築建留柱乃傾久事無久地震乃災暴支風惡支雨乃障無久出入留人々爾八十禍津日乃禍事無久彌進爾進美彌張里爾張里萬乃便宜乎得志米給比千々乃利益乎受介志米給邊刀白寸如斯仕奉留爾依利天波皇孫尊乃大御代乎萬千秋乃長千五秋爾天地乃共無窮爾朝日子乃豐榮昇留事乃如久彌昌爾昌志米給比瑞穗乃國乃滿足比浦安國乃心安久細矛千足乃國乃足利整比天國內平介久安介久御民諸其職業爾勤米勵美天五十個八桑技乃如

久立榮仕奉良志米給比殊爾今年恐久母皇孫尊乃御親行波世給布御大禮乃事々恙美無久障無久大御震襟乎安米奉留可久御魂幸閉給邊止大前爾禮代乃御食御酒種々乃味物乎八取乃机代爾置高成天奉良久乎足幣乃豊幣刀大御心爾平介久安介久聞食給邊止嚴鉾中執持知天恐美恐美毛稱言竟奉良久刀白寸

第四項　郡長の祝詞

掛麻久毛綾仁畏岐賢所八柱天照大御神御年皇神乎始女天津神國津神等能大前爾綾歌郡長從六位樋口德太郎齋麻波里淸麻波里島津鳥鵜自物頸根突拔岐氐恐美恐美申左久言麻久波畏岐我大八洲國所知食須天皇波神漏岐神漏美乃命能御事依左志坐世留神隨奈留御次第乃隨仁今茲十一月十日登云布日爾天津日嗣高御座所知食須大御典良行波世給布仁依里大嘗乃御祭事邊奉良牟登國波志毛澤仁波有禮杼母天津神國津神等乃神魂千波比給比互我讃岐國良主基乃御國登卜備定米給比仁岐彼此乃國人波最母嬉美喜備辱奈美奉里志賀中爾毛我綾歌乃郡波多加留郡能中爾大神等乃奇奈留幽助仁依里其主基能御田良郡乃內奈留山田乃里仁定米給比奴是良以氐郡內乃官人等波更奈里村々里々乃氏氏能人等乎始米木樵留山賤漁留海人等仁至留麻傳甚久悅備恐美重志美愼美氐朝仁夕爾此乃最母重志乃嚴志岐御式乃行留事無久落津留事無久平良介久安良介久事終邊奉良無登大神等爾乞祈美奉里氐日登無久夜登無久勤美仕奉毘志加婆播志下須御種與里始米氐取植江志玉苗拔取留玉穗爾至留麻傳障留事無久缺久留事無久五十櫃穗乃八束穗乃美稻登奉比給比仕奉里志官々乃人等與里耕志耘里奉里志男女仁至留麻傳病志岐事無久痛志岐事無久過知犯世留罪咎母無久平良介久安良介久事邊奉良介米給比爾岐故是良以氐八十日波有禮杼毛今日乎生日乃足日登選備定米氐打知樹留柱波底津岩根爾動岐無久取葺介里瓦波鱗奈須並米聯爾亙千代母八千代母搖備無久築岐成世留新志岐伊豆乃眞屋乃齋床仁神籬乎立氐大神乎招儀奉里坐世奉里大神等乃恩賴仁報邊奉良牟登神酒神饌種々乃御饌津物良橫山能如久置高成志氐借邊奉里此郡仁事取行邊留官人等郡內乃氏々乃人等集比爾集比氐拜美奉良久乎所聞食志給比氐聽氐行波留留大御禮良始米大嘗乃神事杼母事故無久穩志久嚴志久重志久行比奉良世給比氐大朝廷乃御稜威登大御國乃御光登乎四方仁輝加左令米給邊止鹿自能膝折伏世恐美恐美母白須

第五項　祭式の有樣

十月三十一日の天長節の佳辰を以て、坂出町綾歌郡記念公會堂に於て、大嘗祭主基齋田奉仕完了報賽祭を擧行したり。同日は先會塲石門前には坂出町より寄贈せる綠門を建設し、小輪の菊花を以て文字を顯したる扁額を揭げ、門内には西に坂出町蒲生晉市等の生花、東に陶村細谷儀平等の生花を陳列し、何れも其の技を競へり、玄關入口には大國旗を交叉し、玄關廊下天井より本舘天井等一面に蜘蛛手の如く奉祝小旗に、齋鳥追ひに因みたる鳴子を交へ、其の交叉点には奉祝大旗を配し、左右明り窓下に經木モールを綾浪形に掛けて裝飾し、三間の大床には神座を設け、前に大榊二基を樹て、左右の脇床には鎌田香風園の西洋式盛花、椰子樹の大盆栽を置き、東方には奥行一間半、南北七間の舞臺を設けたり。玄關両脇に受附所を設け、來賓會員等を區別して受付をなせり。

定刻前より來賓會員續々參集し、午後二時四十分より祭式始まる。先是、郡神職會長中尾東外九名の神職は祭塲の裝飾をなし、定刻に至るや、中尾外九名の祭員着席して祭式次第の行事を執行し、三時四十分終了せり、夫れより席を改めて祝宴を開き、一同着席するや、木村郡會議長發起人を代表して挨拶あり、次ぎに餘興舞臺の幕を引き明け、坂出町寄贈の大正檢番藝妓の演藝一番より二十番迄ありしが、餘興中若林知事來賓を代表して答辭あり、其の發聲にて両陛下の萬歲を三唱し、又餘興の間、蓮井縣會議長の發聲にて綾歌郡の萬歲を三唱せり。

當日の參會者は知事を始め、岡本勸業課長、片岡理事官、其の他齋田に關係したる技師、技手、鎌田貴族院議員、蓮井縣會議長、郡選出縣會議員、華山坂出專賣支局長、伊岐丸龜稅務署長、女子師範學校長、其の他有志、新聞記者等無慮三百四十餘名にて、盛會なりき。夜間は南の廣庭に電燈にて奉祝の二字を顯はし、屋根及び緣門にイルミネーションを施したるにより、美歡なりしを以て見物人は晝夜に涉りて其の數を知らず。

第二節　殘米の處分

御大典御用として供納米に一石、大饗用に一石二斗五升並びに玄米六升を上納し、尙殘米は縣、郡奉仕者にて隨意處分を命せられたり、卽ち郡に於ては左記諸員に對し約二勺宛の配付をなし永く記念となさしめたり、

一、現郡會議員　三十名
一、元郡會議員　十七名
一、郡齋田委員　二十七名
一、齋田委員外の廳員／郡駐在の諸員　二十七名
一、郡農會農區駐在技術員　七名
一、各町村役場　三十二
一、各町村青年會　三十五
一、在鄉軍人分會　三十二
一、郡內齋田關係の寄附者　三十名
一、各町村農會　三十二

第三節　齋田跡地の處分

齋田跡地の處分に就いては、此の光榮ある齋田を長く完全に保存するには鞏固なる團体の所有に歸せしむるに如くはなしとは、齋田決定と同時に當局の腦裡に常に往來しつゝありし所なり、玆に齋田奉仕の完了を告ぐるや、其の處分の必要を生じ、協議の末、終に全部を金貳千圓にて山田村に買ひ上げ、同村の基本財產として永久保存することゝなれり。

第四節　諸建築物の處分

千歲一遇の齋田奉仕に際し、建設せる附屬建物及び工作物をば永久且適當に保存せん爲、左記の通り處分せられたり、

記

一、精米場　一棟　山田村に無償讓與但し同縣費支出に係る持分とす
一、潔齋場　一棟　山田村々社松熊八幡社に無償讓與
一、喞筒　一個　綾歌郡へ無償讓與
一、標識板　一個　山田村岩瀬辰三郎に無償讓與
一、揭示板　一個　山田村に無償讓與
一、土管　七十間　山田村岩瀬辰三郎に無償讓與
一、溜池工作物　山田村岩瀬辰三に郎無償讓與

第五節　齋院の處分

一、神殿、神饌殿、稻實殿及び竹柵の一部　　金刀比羅宮に無償讓與
一、幄　　舍　一　棟　田村神社に無償讓與
一、幄　　舍　一　棟　石淸尾八幡神社に無償讓與
一、正　　門　一　　　縣物產陳列所に於て保存
一、竹　　柵　一　部　縣に於て適當に處分す
一、手 水 舍　　　　　大川郡水主神社に無償讓與
一、收 納 舍　一　棟　奉仕者の所有に屬す

第六節　農具類の處分

奉仕者に於て適當なる處分又は保存をなすことゝなれり。

第七節　被服類の處分

耕作從事服は各自使用者に無償讓與し、担夫の被服中共同負担を以て調製せる五着分は奉仕者に無償讓與し奉仕者をして隨意處分をなさしめたり。

第八節　齋田拜觀人調

月日	拜觀者人員	備考
大正四年四月十六日	一〇、〇〇〇	祓式
十七日	七六	
十八日	四一	
十九日	一三	
二十日	二二〇	
廿一日	六一	
廿二日	四六〇	
廿三日	六一	
廿四日	一一〇	
廿五日	一〇六	
廿六日	六八	
廿七日	三七	
廿八日	四二	
廿九日	四六九	
三十日	九三	
計	一一、八五七	
五月一日	四二一	
二日	四二	
三日	七〇	
四日	四一六	
五日	七六	
六日	四八	
七日	三二六	
八日	九六	
九日	二四一	
十日	六一	
十一日	一二	
十二日	一一三	
十三日	一九四	
十四日	九五二	
十五日	一、一七三	
十六日	三一五	
十七日	四四八	
十八日	四二八	
十九日	三八	
二十日	四六一	
廿一日	一、五六〇	本田地拵をなす
廿二日	一、八五〇	同
廿三日	一、四四〇	同
廿四日	一、八九〇	同
廿五日	二、三八〇	同
廿六日	三、四〇〇	同
廿七日	一〇〇、〇〇〇	田植式並に本田の田植に着手す

廿八日	四〇、〇〇〇	本田の田植をなす
廿九日	一八、〇〇〇	苗代地の田植をなす
三十日	八五〇	
卅一日	六五〇	
計	一四一、九五一	
六月一日	二六四	
二日	三五一	
三日	一、二二八	第一回除草をなす
四日	五二九	
五日	五二四	
六日	二一三	
七日	一二一	
八日	一八八	
九日	一〇六	
十日	四九五	第二回除草をなす
十一日	七八	
十二日	一七二	
十三日	一八四	
十四日	八九	
十五日	四八	
十六日	八七	
十七日	三一五	第三回除草をなす
十八日	五七	
十九日	八九	
二十日	九五	
廿一日	八五	
廿二日	七八	
廿三日	五六	
廿四日	三四	第四回除草をなす
廿五日	一八	
廿六日	二三	
廿七日	一二三	
廿八日	三五	
廿九日	七六	
三十日	八四	
計	五、八四四	
七月一日	七八二	第五回除草をなす
二日	三八	

三日	八九	
四日	二三四	
五日	八九	
六日	一二五	
七日	五八	
八日	一〇五	
九日	九五	
十日	一二五	
十一日	七八	
十二日	二三五	
十三日	一三五	
十四日	八九	
十五日	九六	
十六日	七五	
十七日	三五八	
十八日	五七	
十九日	三五	
二十日	七六	
廿一日	二二	
廿二日	一四	
廿三日	三九	
廿四日	三〇	
廿五日	二七	
廿六日	一八	
廿七日	二四	
廿八日	三七	
廿九日	七八	
三十日	四五	
卅一日	三七	
計	三、三四五	
八月一日	五八	
二日	七二	
三日	一五	
四日	一〇	
五日	五七〇	前日來の大雨を氣使ひ村民多數齋田地を拜観せり
六日	五六	
七日	三〇	
八日	四〇	

九日	一二〇	
十日	四〇	
十一日	八九	
十二日	五七	
十三日	六〇	
十四日	五三	
十五日	二、〇〇〇	地鎮祭挙行
十六日	三〇〇	
十七日	二五〇	
十八日	五〇	
十九日	八〇	
二十日	六〇	
廿一日	一四四	
廿二日	二一三	
廿三日	二五	
廿四日	六〇	
廿五日	一二四	
廿六日	二四一	
廿七日	一〇五	
廿八日	一四二	
廿九日	七六	
三十日	一〇〇	
卅一日	一〇〇	
計	四、八〇〇	
九月一日	四九	
二日	二〇	
三日	二一	
四日	六七	
五日	四二	
六日	四七	
七日	八六	
八日	九五	
九日	｜	
十日	三八	
十一日	三三〇	
十二日	四〇五	
十三日	三七〇	
十四日	二〇七	
十五日	三六六	

十六日	八〇〇	
十七日	一八八	大祓式
十八日	五〇、〇〇〇	抜穂式
十九日	一、一五七	
二十日	八四	
廿一日	七三	
廿二日	二五	
廿三日	八七	
廿四日	七三	
廿五日	五四	
廿六日	七七	
廿七日	四	
廿八日	一八	
廿九日	七	
三十日	｜	
計	五四、七九〇	
十月一日	一六	
二日	二五	
三日	六五	
四日	、二三	
五日	三〇	
六日	一〇	
七日	｜	
八日	七	
九日	一一	
十日	七一	
十一日	一一〇	
十二日	一八四	
十三日	九七	
十四日	二六	
十五日	五一	
十六日	一九	
十七日	四	
十八日	二三	
十九日	三四	
二十日	三三	
廿一日	九七	
廿二日	一一	
廿三日	二四	

廿四日	二〇	
廿五日	一	
廿六日		午前七時警衛を解除す
計	九九一	
合計	二二三、五七八	

附錄

第一編　大嘗祭用物品の上納

第一節　神饌用玄米並びに藁の供納

齋田の生產米玄米六升は神饌用として、又齋田の生產藁は大嘗宮御造營用として、三百五十把は京都御所建春門內大禮使造營部宛、八十五貫は京都大宮御所內大禮使調度部宛へ、各十月十日迄に上納の命に接したるを以て、鄭重なる粒選並びに藁選をなして、十月六日を以て上納することゝなれり、今左に其の大要を記さん、

十月六日、午前六時三十分、山田村記念館に奉送者一同を集め、先祓式を行ひたる後、樋口郡長、岡田村長、高尾青年會長等は、交々立つて運送中の注意を述べられ、一同學校運動場に整列して、陛下の萬歲を三唱し、青年會員、在鄕軍人會員等二百七十五名附隨して、松浦郡書記、奉仕者代理岩瀨一太、森山田村助役、金瀧青年會副會長、秦在鄕軍人分會長等加はり、午前八時出發、午後一時縣公會堂に着せしを以て、知事は檢分の上受領し、一同に茶菓の饗應あり、同二時船積場に運び連絡船に積載したり、午後六時十分發、宇野港に着し、玆にても新調衣を着せる鐵道夫吏に加はりて陸揚約二時間を費して、汽車積をなし、固く鎖鑰を施し、貨車には特に國旗を立てたり、玄米は森助役、岩瀨一太氏之れを擁護せり、斯くて七日午前五時三十分宇野驛發岡山に着す、岡山驛にては倉本書記等之れを迎へたり、同驛より貨車急行となし、同日午後零時卅一分發、午後十一時十分梅小路驛に着、翌八日午前八時より上納せんとて、早朝入洛せし岡本香川縣理事官並び

に松浦綾歌郡書記、森山田村助役、岩瀬一太氏等十數名は梅小路驛に出張し、金ヶ原堀川署長、野村驛長等立會の上、十二輛の荷車に分載し、通運會社をして大禮使出張所へ運搬せしめたり、而して玄米は箱に納め白布にて覆ひ、岩瀬一太氏之れを捧持し、堀川署の巡査を先驅とし、松浦綾歌郡書記、岡本理事官以下皆腕車にて、大宮通りを七條烏丸に出で、烏丸を北に丸太町より堺町御門に入り、玄米は主殿寮出張所に、藁は前記納付所に上納したり、上納濟と同時に、松浦書記は無事玄米並ひに藁上納完了せる旨の電報を發したり、綾歌郡役所にては當日恰も町村長、小學校長、召集會議中なりしに、此の吉報を受取り、郡長は會議を中止して、其の旨を傳達したり。

第二節　大饗用白米の供納

曩に齋田生產米一石二斗五升を、大饗用として十月二十七日迄に上納の命に接し、當局に於ては供納米同樣の粒選をなし、全く準備整ひたるを以て、十月二十六日上納の途に上れり、左に其の概況を記さん、

供納すべき一石二斗五升を俵三俵に納め、新調の荷車に積みて、二十五名の男耕作從事者之れを輓き、奉仕者代理岩瀬一太、旭綾歌郡書記、森山田村助役、松井同村書記、其他八百餘名奉送して、午前八時出發せり、一行は午後〇時四十分、縣廳に着し正廳に於て若林知事の檢分式あり、終りて直ちに鐵道棧橋より連絡船に積込みたり、付添人は知事代理、佐藤理事官、縣屬窪村正之、綾歌郡書記旭近治、山田村書記松井彌三郎、奉仕者代理岩瀬一太、耕作從事者内海勇、渡邊義正、森盛、津山理美にして、午後六時十分高松發、同七時二十分宇野着、同驛にて叮重に積換をなし、午後十時五十分宇野發、岡山驛にて本線に繼ぎ換へ、十月廿七日午前〇時五分出發、仝午前六時四十八分京都着、仝七時貨車より卸下、左記順序により行進し、午前九時皇居清新門より參入せり、供納米は一應所定の場所に奉置し、次ぎに齋庫前に於て供納したり。

行列順序

警部補、巡査、表示札、供納者、貨車、護送者一同、

第二編　献納物調

第一章　献納品調

一、塩、　產額全國の首位を占む、御採納と決定せば生塩、燒塩何れにても献納することを得、

一、金山鯛、　瀬戸内海特有の產物にして美味美麗を以て名あり、生鯛若くば濱燒として献納することを得、

一、鯑子鱵、　舊藩時代に在りては販賣禁示品にして、民間には食する能はざる名品なり、

一、牛川牛蒡、　香氣佳なるを以て大洲牛蒡と共に賞賛せらるゝ品なり、

一、磬石、　白峰山の產にして形狀鳥の如く將又魚の如く異形を具へ、打てば美音を發して餘韻嫋々たり、

一、綾、　古昔讃岐國より京都に貢せし中に綾其の首位に居れり、綾郡は其最も優なる產地にてありしが、今に松山村にて之れを織るものあり、

一、ネーブル柑、夏密柑、鳴門密柑、　本郡林田村に產し、今上陛下の皇太子殿下にてあらせられし時、並に今の皇太子殿下、小松宮殿下、伏見宮女王殿下に献上したることあり、

第二章　献納品

前章の調査に基き其筋に獻納方出願せしに、左記物品採納方聽許ありたり、

記

一、食　鹽　　西讃鹽田同業組合
一、金山鯛　　仝
一、牛川牛蒡　羽床上村
一、磬　石　　端岡村
一、綾　　　　綾歌郡蠶絲同業組合

第三編　齋田奉仕と衞生施設

齋田奉仕上防疫に關しては、縣郡當局者並に警察官等、時々會合して施設事項及び監督方法に關し、愼重協議を遂げ、尙町村長、町村衞生主任及び町村衞生組合長等を召集し、實行上遺憾なき樣協議を遂げたり、防疫上特別施設に關しては、直接責任ある山田村と其の附近村並びに其の他の町村とは自然取締上の程度に差を附するを穩當と認め、玆に左の區別を設けたり、

第一區　、山田村一圓

第二區　山田村附近村（枌所、千疋、西分、羽床上、羽床、瀧宮、陶、畑田、山內）

第三區　其の他の町村（二十一ヶ町村）

第一項　防疫施設事項

イ、第一第二區內に於ては河川又は溝渠に於て飮食物及飮食器具を洗ふことを嚴禁する爲め各處に設けある洗塲を撤去せしめたり、

ロ、便所の覆蓋を極力勵行せしめたり、

ハ、蠅の驅除に努めしめたり、

ニ、飮食物の覆蓋を勵行せしめたり、

第二項　衞生組合施設事項

イ、一二兩區內に對しては三千倍昇汞水を各戶便所附近に配置し手の消毒を行ふことゝせり、其の昇汞水は區長又は伍長の家に於て區長及び伍長は自ら溶解の任に當り組合員は交互に日々配付すること、但し配付用として荷ひ桶若干づゝ新調共同購入せり、

ロ、町村長並びに衞生組合長は客年衞生組合に設けたる組合規約を七月より十月まで再び實行せしむることゝせり、

ハ、一、二、兩區に於ては下痢症患者發生のときは伍長に屆出づべく其患者には無料治療劵を發行すること但し衞生組合は區長又は伍長の手許に治療劵若干枚づゝ配付し置けり、

ニ、一、二、兩區に於ては下痢症患者ある家に對しては便所に石灰消毒を行はしめたり、但し伍長は之れが監督をなす、

ホ、一、二、兩區內に於ては衛生組合の活動を期する爲め村內を數區に分ち區長以下各伍長は時々其の他の組合員は日々交代して巡回し隱蔽患者なき樣注意すると共に施設事項の實行を勵行し尙青年會員は之れが援助をなしたり、

へ、一、二、兩區內に於ては衛生組合に於て七月より十月まで防疫巡視員なる臨時雇を雇入れ(山田、粉所、西分、瀧宮、以上二名、其他は一名)村役場內に日勤せしめ防疫上諸般の實行監督の任に當らしめたるに其効果顯著なり、

ト、部落衛生講話會は四、五、六の三ヶ月中に於て數回開催したり、

チ、組合員の交互巡回を確實ならしむる爲、巡視表を各戶門戶に貼付せしめ、以て巡視の証印を押捺せしめたり、

リ、各戶の門戶に家族の氏名年齡を記せる氏名札を表示せしめたり、

ヌ、衛生組合の役員に對し本年に限り特に手當金を增額することゝせり、

ル、衛生組合役員功勞者表彰費若干を大正四年度豫算中に計上することゝせり、

ヲ、衛生組合總會は二、三、四月中に開催することゝせり、

第三項　町村役場施設事項

イ、町村長は衛生組合長と協力し大正四年度組合の豫算編成につき適當の經費を計上することに努め且つ總會當日町村長、警察官、郡書記等出席援助することゝせり、

ロ、一、二、兩區域內住民に對し、四、五、兩月中に於て赤痢豫防液の注射を一齊施行せしめたり、當日は警察官、郡書記等出席援助せり、而して以上十ヶ村內に於ける注射施行人員一万九千四百六十六人なり、

ハ、各町村衛生組合の活動を援くる爲め、大正四年度衛生組合費に對し村費中より若干の補助金を特に計上することゝせり、

ニ、一、二、兩區域內十ヶ村の大正四年度衛生組合收支豫算高の總金額は實に貳千九百八拾貳圓參拾五錢八厘にして平年に倍加し大に其の活動に資したり、

第四項　衛生組合聯合會

衛生組合聯合會は一、二、三、區共二月中に何れも總會を開催し適當の豫算其の他施設事項に付議決せり、

第五項　醫師會

本郡醫師會の活動としては各町村部落衛生講話會に出席し講話の任に當り、尙醫師にして下痢症患者診察の際は、病者に對し消毒方法を注意指示することゝなせり、

第六項　齋田地山田村特別施設

一、山田村民に對し時々健康診斷を行ふこと、
二、齋田の耕耘に從事する關係者に對し時々健康診斷及檢便を行ふこと、
三、死亡者は悉く死体檢案を行ふこと、
四、下痢患者は悉く其の排泄物を消毒すること、
五、齋田用水路に汚物塵芥を投棄し、又は汚物の附着したるものを洗濯するを禁止し且之を必要の個所に榜示せり、

六、便所の覆蓋を勵行せしむること、
七、必要の箇所に公共便所を設け其糞池には毎日石灰消毒を行ふこと、
八、蠅の發生を防止する爲め牛舍を常に淸潔に保持し、塵芥溜、堆肥舍等に適當の被覆を爲し、且必要の塲合に石油を撒布すること、
九、常に邸宅內外を掃除し、下水を浚渫疏通せしむること、
一〇、井戶は時々浚渫し且井戶側の構造に注意し、汚水を流入せざらしめ、水質檢査の成績により飮料不適のものは之れを榜示せしめて其の改良を爲さしめ、共同井戶には改良を施し縣費より補助して喞筒を裝置せしもの十八箇所ありたり、
一一、時々衛生講話を開き衛生思想を喚起することに努めたり、

第四編　齋田奉仕費

大正二年度齋田奉仕費決算調（綾歌郡）

科		目	決算額	豫算額	比較 增	比較 減	備考
第十二款 齋田奉仕費			七八四一三	八二三〇〇		三八八七	
	第一項 臨時事務所費		五八七〇三	六三三〇〇		三五九七	
		第一目 雜給	五六〇〇	一六五〇	三九五〇		小使給五圓六拾錢
		第二目 需用費	五三一〇三	六〇六五〇		七三四七	●借家料金壹圓五拾四錢八厘 ●消耗品費金壹圓四拾六錢 ●備品費金四拾六圓八拾七錢五厘 ●通信運搬費金參圓貳拾貳錢
	第二項 雜費		一九七一〇	二〇〇〇〇		二九〇	
		第一目 雜費	一九七一〇	二〇〇〇〇		二九〇	

大正三年度齋田奉仕費決算書（綾歌郡）

科		目	決算額	豫算額	比較 增	比較 減	備考
第十二款 齋田奉仕費			七〇六五五	九九〇〇〇		二八三四五	
	第一項 臨時事務所費		二二五〇〇	五六〇〇〇		三三五〇〇	
		第一目 雜給	一〇〇〇〇	二五五〇〇		一五五〇〇	●技手從事手當金參圓 ●小使給金七圓
		第二目 需用費	一二五〇〇	三〇五〇〇		一八〇〇〇	●借家料金貳圓 ●消耗品費金貳圓八拾貳錢 ●備品費金貳圓五拾八錢 ●通信運搬費金五圓拾錢
	第二項 雜費		四八一五五	四三〇〇〇	五一五五		
		第一目 雜費	四八一五五	四三〇〇〇	五一五五		寫眞費其他諸費

大正四年度齋田奉仕費決算調　（綾歌郡）

科目 款	科目 項	科目 目	決算額	豫算額	比較 増	比較 減	備考
第十二款 齋田奉仕費			一、二八九九八〇	一、三二〇〇一五		三〇〇三五	
	一、臨時事務所費		三六六八〇〇	三六三一〇〇	三七〇〇		
		一、雑給	二三九八〇〇	二三九三六七	四三三		
		(1)、技手従事手當	一八一二〇〇	一五三一六七	二八〇三三		
		(2)、小使給	五〇五〇〇	六六二〇〇		一五七〇〇	
		(3)、傭人料	八一〇〇	二〇〇〇〇		一一九〇〇	
		二、需用費	一二七〇〇〇	一二三七三三	三二六七		
		(1)、借家料	二九七〇〇	二九七〇〇	—	—	
		(2)、消耗品費	二四二五〇	三四六三三		一〇三八三	
		(3)、備品費	四七八二〇	三三四〇〇	一四四二〇		
		(4)、通信運搬費	二五二三〇	二六〇〇〇		七七〇	
	二、視察費		—	九〇〇〇		九〇〇〇	
		一、悠紀視察費	—	九〇〇〇		九〇〇〇	
	三、奉祝費		二九七〇八〇	三〇〇〇〇〇		二九二〇	
		一、奉祝費	二九七〇八〇	三〇〇〇〇〇		二九二〇	
	四、紀念印刷物調製費		三二七〇〇〇	三二七〇〇〇	—	—	
		一、調製費	三二七〇〇〇	三二七〇〇〇	—	—	
		(1)、奉仕記錄費	二七五二五〇	一五七五〇〇	一一七七五〇		見込額
		(2)、紀念品及繪葉書購入費	二一四〇〇	一二〇〇〇〇		九八六〇〇	
		(3)、其他印刷物費	三〇三五〇	四九五〇〇		一九一五〇	
	五、雑費		二九九一〇〇	二三九九一五	五九一八五		
		一、雑費	二九九一〇〇	二三九九一五	五九一八五		
		(1)、寫眞費	五二〇〇〇	五二〇〇〇	—	—	見込額
		(2)、標示費	四〇〇一〇	六〇〇〇〇		一九九九〇	
		(3)、雑費	二〇七〇九〇	一二七九一五	七九一七五		
第十三款 齋田奉仕補助			五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	—	—	

款	項	目	決算額	豫算額	比較 増	比較 減	備考
	一、補助費		五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	—	—	
		一、奉仕費補助費	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	—	—	

大正二年度主基齋田奉仕費（山田村）

科目 款	科目 項	科目 目	決算額	豫算額	比較 増	比較 減	備考
主基齋田奉仕費			一〇五九一三	一三〇〇〇〇		二四〇八七	
	一、給料		一六六〇〇	一六八〇〇		二〇〇	
		一、雇員給料	一六六〇〇	一六八〇〇		二〇〇	
	二、雑給		三四二〇〇	五〇二〇〇		一六〇〇〇	
		一、費用辨償	二三四一〇	二八〇〇〇		四五九〇	
		二、雇人料	一〇七九〇	一二二〇〇		一四一〇	
	三、需用費		五五一一三	六三〇〇〇		七八八七	
		一、備品費	一二〇一〇	一五〇〇〇		二九九〇	
		二、消耗品費	九七七三	一三〇〇〇		三二二七	
		三、通信運搬費	一〇〇〇	一〇〇〇	—	—	

款	項	目	決算額	豫算額	比較 増	比較 減	備考
		四、儀式費	一八三三〇	一九〇〇〇		六七〇	
		五、雑費	一四〇〇〇	一五〇〇〇		一〇〇〇	

大正三年度主基齋田奉仕費（山田村）

科目 款	科目 項	科目 目	決算額	豫算額	比較 増	比較 減	備考
主基齋田奉仕費			一四二六五四	一八二〇〇〇		四〇三四六	
	一、給料		三二〇〇〇	三二〇〇〇	—	—	
		一、雇員給料	三二〇〇〇	三二〇〇〇	—	—	
	二、雑給		三三一九〇	五〇〇〇〇		一六八一〇	
		一、費用辨償	一六四二〇	二五〇〇〇		八五八〇	
		二、雇人料	一六七七〇	二五〇〇〇		八二三〇	
	三、需用費		七六四六四	一〇〇〇〇〇		二三五三六	
		一、備品費	六一九四	一五〇〇〇		八八〇六	
		二、消耗品費	八八〇	三〇〇〇		二一二〇	
		三、印刷費	六七七六〇	七〇〇〇〇		二二四〇	

目	決算額	豫算額	増	減	備考
四、通信運搬費	三〇〇	二〇〇〇		一七〇〇	
五、雜費	一三三〇	一〇〇〇〇		八六七〇	

大正四年度主基齋田奉仕費（山田村）

科目 款	科目 項	科目 目	決算額	豫算額	比較 増	比較 減	備考
一、補助費			一、七〇〇〇〇〇	一、七〇〇〇〇〇	—	—	
	一、主基齋田奉仕者補助		三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	—	—	
		一、主基齋田奉仕者補助	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	—	—	
	二、主基齋田奉賛會補助		一、四〇〇〇〇〇	一、四〇〇〇〇〇	—	—	
		一、主基齋田奉賛會補助	一、四〇〇〇〇〇	一、四〇〇〇〇〇	—	—	
二、主基齋田奉仕費			六四八四三九	六六五五〇〇		一七〇六一	
	一、給料		九五五〇〇	九五五〇〇	—	—	
		一、雇人給料	九五五〇〇	九五五〇〇	—	—	
	二、雜給		一九〇三九〇	二〇〇〇〇〇		九六一〇	
		一、實費辨償	五一二四〇	六〇〇〇〇		八七六〇	
		二、旅費	一三九八〇	一五〇〇〇		一〇二〇	
		三、雇人料	七二一七〇	七〇〇〇〇	二一七〇		
		四、手當	五五〇〇〇	五五〇〇〇	—	—	
	三、需用費		三二二五四九	三三〇〇〇〇		七四五一	
		一、備品費	一五六九二〇	一五五〇〇〇	一九二〇		
		二、消耗品費	三一三八六	三五〇〇〇		三六一四	
		三、印刷費	六六五〇〇	七〇〇〇〇		三五〇〇	
		四、通信運搬費	一九二二五	二〇〇〇〇		七七五	
		五、雜費	四八五一八	五〇〇〇〇		一四八二	
	四、土地買入費		四〇〇〇〇	四〇〇〇〇	—	—	
		一、土地買入費	四〇〇〇〇	四〇〇〇〇	—	—	

主基齋田奉仕者經費調

一金貳千百參拾七圓八拾六錢六厘　支拂總額

内譯

一、六百壹圓拾五錢六厘	建築費
一、拾參圓拾六錢六厘	用水地費
一、百參拾參圓貳錢貳厘	農具費
一、拾四圓五拾四錢	苗代田費
一、參百八拾四圓拾六錢	耕作人夫費
一、四拾壹圓八拾錢八厘	肥料費
一、百壹圓貳拾參錢壹厘	需用費
一、貳百貳拾參圓九拾七錢八厘	雜費
一、六拾七圓四拾參錢	諸人夫費
一、七拾五圓七拾七錢	旅費
一、拾八圓六拾錢五厘	郵便電信費
一、四拾壹圓貳拾六錢八厘	仕拂未濟諸費
一、百六拾圓貳拾錢	仕拂ニ要スル見込額
一、七拾八圓七拾參錢貳厘	立毛損害調
一、百四拾貳圓八拾錢	道路及用水路敷地代
一、四拾圓	寫眞費

仝　收入調

一金參百貳拾壹圓七拾五錢	收入總額
内譯	
一、貳拾壹圓七拾五錢	御買上藁四百參拾五貫目代
一、參百圓	村費補助

差引

金壹千八百拾六圓拾壹錢六厘

第五編　齋田奉仕ト恩賞

第一節　奉仕者に對する恩賞

陛下御一代御一度の御即位大典の一部事務たる齋田の奉仕に付ては、國民一般幸あれかしと祈らぬものとてなかりしも、就中、直接奉仕せる齋田所有者は朝に夕に誠心誠意を盡して、終に其の任務を全ふすることを得たり。

是れ國民としては然るべき當然の義務に過ぎざれども、慈仁に在す両陛下には齋田奉仕事務無事完了を嘉せられ、玆に宮內省をして次の御沙汰書を下さしめたり。

宮内大臣官房總務課第三八三號

大正四年十二月二十八日

宮内大臣官房總務課長　近藤久敬

香川縣知事　若林賚藏殿

大禮被爲行候ニ付主基齋田所有者岩瀬辰三郎ニ別記目録ノ通リ天皇皇后両陛下ヨリ下賜相成候ニ付傳達相成度

記

一、御紋付銀盃　一組

一、金壹千五百圓

以上の通牒に接したるを以て若林知事は一月四日を期し傳達式を縣正廳に於て擧行せられたり、

傳達式順序

一、參列諸員着席

一、齋田所有者、樋口綾歌郡長、岡田山田村長、着席

一、知事着席

一、内務部長擧式の旨を告ぐ

一、知事目録を傳達す（捧讀）

一、知事祝詞を述ぶ

一、奉仕者の挨拶

一、部長式終るの旨を告ぐ

一、知事退席

一、一同退席

以上

齋田所有者は身に餘る光榮を喜び、即ち一月一日付を以て宮内大臣宛御禮言上書を奉呈したり、

言上書

御大禮ニ付畏クモ　天皇皇后両陛下ヨリ御紋付銀盃一組、並ニ金壹千五百圓御下賜アラセラレ謹ンデ拜受難有御禮言上仕候

大正五年一月一日

主基齋田所有者　岩瀬辰三郎

宮内大臣　波多野敬直殿

第二節　係員に對する恩賞

大嘗祭供納米護送者に對しては十月二十一日付を以て、大嘗宮御造營材料護送者に對しては一月三十一日付を以て、酒肴料を夫々配與せられ、齋田委員に對しては、三月三十一日付を以て、其の功勞を錄せられ、夫々御下賜金若干づゝを配與せられ、尙ほ郡委員中重もなるものへ大禮記念章を下賜せられたり、其の官職氏名

左の如し、

綾歌郡書記　旭　近治
仝　森田正行
仝　矢野直之
仝　藤澤三四郎
仝　渡邊始
仝　十河竹次郎
仝　田村乙次
仝　大浦新次郎
仝　松浦準一
仝　坂本新助
仝　鎌田英夫
仝　高木喜八郎
仝　藤田定雅
仝　平崎信清
元綾歌郡書記　大島芳太郎
綾歌郡農業技手　三浦竹一
仝　宮川龜三郎
仝　神原龜松

備考

郡視學託間季治、農業技手栫木龜次郎は地方賜餐者として拜授せり。

主基齋田即事

枯枝子

田植式

太鼓鳴る御田植歌拍子ゆるやかに

地鎮祭

青あらし齋院地鎮祭行はる

抜穗式

抜穗使の御馬車拜む群川床に

大正七年七月廿五日印刷
大正七年七月三十日發行

香川縣綾歌郡

香川縣綾歌郡坂出町參千七百九拾番地第三
印刷者　武内達次郎

香川縣綾歌郡坂出町參千七百九拾番地第三
印刷所　坂出活版所

10
287

終